

レトモ我邦ニ在テハ船舶ニ付キ主トシテ全損ノミノ擔保ノ契約行ハルルカ故  
ニ斯ノ如キ問題ヲ生スルコトナシ分損擔保ノ契約ニ於テハ宜ク約款ヲ以テ填  
補額算出ノ方法ヲ定ムヘキナリ

(六) 保險者カ損害填補ノ責任スルニハ保險事故カ保險期間中ニ生シタルコ  
トヲ要ス(六五四)其保險期間即チ保險者ノ責任ノ始期及ヒ終期ヲ定ムルニハ或  
ハ一定ノ時ヲ以テスルコトアリ(定時保險 *Zeitversicherung*, assurance à temps, time poli-  
cy) 或ハ一航海ヲ以テスルコトアリ(航海保險 *Reiseversicherung*, assurance au voyage,  
voyage policy) 或ハ一定ノ時及ヒ一航海ヲ以テスルコトアリ(混合保險 *mixed policy*)  
〔註一〕一定ノ時ヲ以テ保險期間ヲ定メタル場合ニハ何等ノ問題ヲ生セサルモ〔註  
二〕一航海ヲ以テ保險期間ヲ定メタル場合ニ付テハ問題ヲ生スヘシ故ニ商法第  
六百五十九條及ヒ第六百六十條ハ此場合ニ於ケル始期及ヒ終期ニ關スル規定  
ヲ爲セリ

〔註一〕積荷保險ハ通常一航海ヲ以テ保險期間トス故ニ上述セル三種ノ保險期間ハ專ラ船舶  
保險ノニ付テ生スルモノト觀テ可ナリ

〔註二〕船舶所在地ト契約地ト經度ノ關係上時ヲ異ニスルトキハ何レノ時ニ依ルヘキカ獨  
法(八三〇)ハ所在地ノ時ニ依ルヘキモノトセルモ特別規定ナキ限ハ契約地ノ時ニ依ルモノ  
ト解スルノ外ナカルヘシ其他期間ノ計算等ハ特約ナクハ一般民法ノ規定ニ依ルヘキモ  
ノタリ

一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ  
底荷ノ船積ニ着手シタル時(荷物又ハ底荷ノ船積後保險契約ヲ爲シタルトキハ  
其契約成立ノ時)ヲ以テ始マリ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル  
時(其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時)ヲ以  
テ終ルモノトス(六五九)

荷物又ハ底荷ナキ場合ニ於テ若シ其船舶ニ旅客アルトキハ其旅客ノ乗船又  
ハ上陸ハ恰モ荷物又ハ底荷ノ船積又ハ陸揚ニ準シテ保險者ノ責任ノ始期又ハ  
終期ヲ劃スルモノト觀テ可ナルヘク又若シ旅客モ之ナキ場合ニ於テハ保險者  
ノ責任ハ船舶發航ノ時ニ始マリ到達ノ時ニ終ルモノト爲スノ外ナカルヘシ(獨  
商八二四 *Stierking* § 823 Anm. 6)



保險會社ノ約款ニ於テハ保險者ノ責任ハ發航ノ爲メノ拔錨又ハ解纜ノ時ニ始マリ到達港ニ入りタル後二十四時間ヲ經過シタルトキ又ハ二十四時間内ニ於テ發航ノ準備若クハ他ノ航海ノ爲メニスル積荷ノ積込ヲ爲シタル時ヲ以テ終ル〔註三〕モノト定ムルカ如シ

〔註三〕 到達後二十四時間經過ノ時ヲ終期トスルハ英法ノ主義ナリ

一定ノ時及ヒ一航海ヲ以テ定メタル船舶保險ニ於テ〔註四〕航海カ約定ノ期間内ニ終了シタルトキハ何等ノ問題ヲ生セスト雖モ若シ約定ノ期間内ニ終了セサルトキハ期間ノ定ハ寧ロ保險料額ヲ定ムル爲メニ設ケラレタルニ過キサレモノト爲シ保險料ノ日割ヲ支拂ヒテ當然航海終了ノ時マテ延長シ得ヘキモノト解スヘキカ又ハ期間自體ニ重ヲ置キ航海終了前ニ於テモ尙ホ保險終了セルモノト解スヘキカハ當事者ノ意思ニ依リテ左右セラルヘキ事實問題ナリトス然レトモ當事者ノ意思不明ナルトキハ寧ロ期間ニ重ヲ置キタルモノト觀テ期間經過後ハ保險者ニ責任ナキモノト解スルヲ妥當トスヘシ

〔註四〕 此種ノ保險ノ例ハ at and from London to Caliz for six months from the 1st of January, 1908, to the

1st of June, 1908, at and from Bristol to Marseilles. ノ類ナキ (Arnould 443)

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時(其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時)ヲ以テ終ルモノトス(六六〇)

此規定ニ依レハ船積地及ヒ陸揚地ノ解舟ニ於ケル危険ハ僱險者之ヲ負擔スルコトト爲レトモ保險會社約款ニ於テハ荷物ヲ積込ミタル時ヨリ積卸シタル時マデノ危険ヲ負擔スルコトトシ解舟ニ於ケル危険ハ特約アルニ非サレハ之ヲ負擔セサルモノト定ムルヲ常トス

### 第三款 保險契約ノ變更

(一) 航海ハ發航港ヨリ到達港マテ繼續シテ一體ヲ成スカ故ニ發航港又ハ到達港ヲ變更シタルトキハ即航海ノ變更(Veränderung der Reise, changement de voyage, change of voyage)アリタルモノニシテ此場合ニ於テハ保險者ハ其責任ヲ免ルルモ

損害保險 海上保險

保險契約ノ變更  
航海ノ變更

SSS



Change of Voyage  
 Deviation (商路) トテレタガハ混合ヲ来ス

航路ノ變更  
 其他危險ノ  
 增加

(二) 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ(六六三)蓋シ航海ノ時期及ヒ航路ノ如キハ危險測定ノ爲メニ重要ナル要件ナレハ法律ハ發航ヲ怠リタル場合、航海ヲ繼續ヲ怠リタル場合及ヒ航路ヲ變更シタル場合ニハ當然危險ニ著シキ變更又ハ増加アリタルモノト看做シタルナリ此規定ノ解釋トシテ被保險者カ著シク危險ヲ變更又ハ増加セシメタルコトヲ必要トスルカ又ハ被保險者カ「ナル語辭ハ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキ」ナル語辭ニ對スル主格タラサルカニ付キ多少ノ疑アレトモ佛商法(三五)及ヒ獨商法(八一四)ノ規定ニ照シテ被保險者ノ行爲ニ因リ危險ノ變更又ハ増加ヲ來シタル場合ノミニ關スル規定ト解スルヲ正當トスヘシ而シテ航路ノ變更(Abweichung von dem der versicherten Reise entsprechenden Wege, changement de route, deviation)トハ到達港ヲ變更スルコトナク單ニ定規ノ航路ヲ變更スルノ謂ナリ

上述セル保險者ノ免責ノ原則ニ對シテハ三例外アリ即チ左ノ如シ(六六三)但

損害保險 海上保險

ノトス商法ハ此場合ニ關シテ規定ヲ設ケ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ」保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス」到達港ヲ變更シ其實行ニ着手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做スト定メタリ(六六二)

○保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ル航海ノ變更トハ封鎖戰爭等ノ如キ事由ニ因ルモノハ勿論船主カ任意ニ航海ヲ變更シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ之ヲ如何トモスルコト能ハサルトキヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス然レトモ約款ニ於テハ切迫セル危險ヲ避クル爲メニ非ス又ハ會社ノ承諾ヲ得スシテ航路外ニ出テ若クハ出テントシ又ハ寄航港外ニ寄航シ若クハ寄航セントシタル場合ニ於テハ保險者ニ損害填補ノ責ナキ旨ヲ定ムルヲ以テ上述セル任意ノ變更ノ場合ニハ保險者ハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘシ



書

一 危險ノ變更又ハ增加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ例ヘハ航路ノ變更ト關係ナキ船中ノ火災ニ因リテ保險ノ目的カ損害ヲ受ケタルトキノ如シ

二 危險ノ變更又ハ增加カ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力ニ因リテ生シタルトキ例ヘハ暴風雨ヲ避クル爲メ航路ヲ變更シタルトキノ如シ

三 危險ノ變更又ハ增加カ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキ例ヘハ人命救助ノ爲メ航路ヲ離レタルトキノ如シ

三 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス(六六四)蓋シ船長タルニハ船舶ノ種類、大小等ニ應シ法定ノ資格ヲ必要トスルヲ以テ船舶職員法四(船長ノ技能ニ大ナル差等ナシト觀タルモノナリ然レトモ特約ヲ以テ船長ノ變更カ保險者ノ責任ニ異動ヲ生スヘキモノト定ムルコトヲ妨ケサルヤ論ヲ竣タス(註一)約款ノ規定ニ依レハ船舶保險ニ付テハ概ネ船長ノ變更ヲ以テ保險者ノ免責ノ原因ト爲セリ

船長ノ變更

(註一) 大審院民事判決錄一一輯五七〇頁ニハ其特約ノ有效ナル旨ノ判例ヲ掲ケタリ

四 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス(六六五)

船舶ノ變更

第四款 豫定保險

豫定保險

豫定保險ノ意義

(一) 我邦ニ於テ所謂豫定保險契約ナルモノハ種種ノ場合ヲ包含シ其性質必スシモノナラサレトモ要スルニ保險證券ニ記載スヘキ保險ノ目的タル積荷ノ種類及ヒ保險金額又ハ荷物ヲ積込ムヘキ船舶等カ契約締結ノ當時ニ於テ確定セラレサル保險契約ヲ謂フ是等ノ要件カ確定セラレタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ之ヲ保險者ニ通告スヘキモノトス船舶ニ付テモ船舶所有者カ自己ニ屬スル全船舶ニ付キ豫定保險契約ヲ爲スコトアレトモ實際ニ於テハ甚タ稀ナリ

損害保險 海上保險



船舶不確定  
豫定保險

保險ノ目的  
不確定ノ豫  
定保險

(二) 豫定保險中荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサル場合ニ付テハ商法中ニ規定アリテ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要シ苟モ該通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フモノトス(六六六)

如上ノ場合ニ於ケル豫定保險ハ略ホ外國法ニ於ケル floating policy, assurance in quo vis, assurance sur navire indéterminé, Versicherung in unbestimmten Schiffe ニ該當スルモノナリ

(三) 保險ノ目的タル積荷ノ種類又ハ保險金額ヲ定メサル場合ニ付テハ商法中ニ規定ナキモ略ホ外國法ニ於ケル open cover, open policy, unvalued policy, assurance flottante, assurance souscrit à abonnement, assurance d'abonnement, offene Polize, laufende Versicherung 等ニ該當スルモノニシテ〔註一〕多クハ一定ノ期間中ニ積出サルヘキ荷物ニ對シ概括的ニ契約ヲ締結スルモノナリ即チ所謂繼續保險タルコト多シ(第一章第二節第四款參照)

〔註一〕 上記セル各外國語ノ意義ハ必スシモ同一ナラス又學者若クハ實際家ニシテ同一ノ語

保險契約ノ締結

保險契約ノ締結ト  
保險契約ノ締結ト  
締結ト

辭ヲ異義ニ用ユルモノ少カラズ是レ注意ヲ要スル點ナリ

上述セル種類ノ豫定保險ト區別スヘキモノハ保險契約ノ豫約 (pactum de contrahendo) 是ナリ豫約ノ場合ニ於テハ當事者ノ一方タル積荷ノ利害關係者カ其豫約ニ基キ保險契約ヲ締結セントスル積荷ヲ定メ之ニ付キ相手方タル保險者ニ對シテ契約締結ノ意思ヲ表示シ始メテ其積荷ニ對スル保險契約成立スルモノナリ(民五五六、五五九參照)之ニ反シテ豫定保險ノ場合ニ於テハ保險契約ハ既に締結セラレタルモノニシテ積荷ノ通告ヲ爲スニ因リテ其積荷カ保險ノ目的ト爲リ契約ノ内容確定セラルルノ旨趣ニ外ナラス豫約ノ場合ニハ保險契約ハ通告ノ時マテ成立セス豫約者ハ保險契約上通告ノ義務ヲ負フモノニ非サレトモ豫定保險ノ場合ニハ保險契約ハ既に成立シ保險契約者ハ該契約上通告ノ義務ヲ負フモノナリ又豫約ノ場合ニハ特定ノ積荷ノ通告ハ各保險契約締結ノ意思表示ヲ爲スモノニシテ多數ノ保險契約ヲ生スルモノナレトモ豫定保險ノ場合ニハ一箇ノ保險契約存在スルモノニシテ各通告ハ其積荷ヲ保險ノ目的トシムルノ效力ヲ生スルニ過キサレナリ



豫定保險ト保險契約ノ豫約トノ性質上ノ差異ハ叙上ノ如ク洵ニ顯著ナレトモ實際上ニ於テ一契約カ其何レニ屬スルヤヲ判定スルニ苦ム場合ナシトセス殊ニ事實上豫定保險又ハ繼續保險ノ名ノ下ニ豫約ノ行ハルルコトナキニ非サレハ須ラク(當事者ノ意思ヲ解釋シテ其區別ヲ爲ササルヘカラス

(四) 豫定保險ノ方法ハ再保險ニ付テモ多ク行ハル(所謂 Rückdeckung durch Vertrag, traité de réassurance, réassurance open cover) 此場合ニハ亦實際上種種ノ方法アレトモ元受保險者カ豫メ一船舶ニ對シテ自己ノ負擔スヘキ責任ノ範圍ヲ定メ保險金額カ其範圍ヲ超エタル場合ニ限リ其超過額ノ全部又ハ一部ヲ再保險ニ付スヘキ條件ヲ以テ再保險契約ヲ締結スルコト少カラス之ヲ稱シテ超過額保險(Excess-*denkversicherung*, *réassurance pour l'excédent*, *réassurance for excess*)ト云フ(第一章第二節 第五款參照)

### 第五款 委付

(一) 保險ノ目的ノ全損 (Totalverlust, *perte totale*, *total loss*)アリタル場合ニ於テ保險

再保險ノ豫  
定保險超過  
額保險

委付ヲ認  
比理由及ヒ  
較法制

者カ保險金額ノ全部ノ支拂ヲ爲ス義務アルコトハ言ヲ埃タス然ルニ或場合ニハ全損ナキモ殆トト同視スヘキコトアリ又或場合ニハ全損アリタルコト殆ト確實ナルモ之ヲ證明シ得サルコトアリ又或場合ニハ全損ノ證明及ヒ其計算ヲ爲ス爲メニ煩雜ナル手續若クハ多大ノ時日ヲ要スルコトアリ是等ノ場合ニ於テ法律上之ヲ全損ト同視シ被保險者ヲシテ直チニ保險金額全部ノ請求ヲ爲スコトヲ得セシメ其代價トシテ被保險者ヲシテ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有シタル一切ノ權利ヲ取得セシムルコトハ實際上便利ニシテ能ク保險契約ヲ爲シタル目的ヲ達セシムルコトヲ得ヘシ是レ委付(*Abandon*, *délaissement*, *abandonment*)ノ制度アル所以ナリ

委付ノ制度ハ第十六世紀以來海上保險ニ關シテ行ハレ現今各國法ノ普ク認ムル所ナリ英法ニ於テハ全損ヲ分テ事實上ノ全損(*actual total loss*)及ヒ解釋上ノ全損(*constructive total loss*)ノ二種トス保險ノ目的カ物質上ニ於テ全損ニ歸シ又ハ回復スヘカラサル状態ニ於テ奪取セラレタルトキハ之ヲ事實上ノ全損ト云ヒ全損ノ避クヘカラサルカ又ハ之ヲ回復スル爲メニ其目的ノ價額以上ノ費用ヲ

損害保險 海上保險



要スルトキハ之ヲ解釋上ノ全損ト云フ解釋上ノ全損ノ場合ニ於テハ被保險者ハ之ヲ分損 (partial loss) トスルコトヲ得ヘク又ハ保險ノ目的ヲ委付シテ事實上ノ全損ト同一ノ取扱ヲ受クルコトヲ得ヘシ(英海上保險法五六以下)大陸法ニ於テハ所謂解釋上ノ全損ナル語ヲ用キサレトモ法定ノ場合ニ保險ノ目的ヲ委付シテ保險金額全部ノ支拂ヲ請求スルコトヲ認メ居レリ而シテ獨商法ニ於テハ委付スルコトヲ得ヘキ場合ヲ狭ク規定シテ別ニ全損ニ關スル規定ヲ爲シ即チ全損ノ場合ニハ委付ヲ許スヘカラサルモノトセリ(獨商八五四以下)是レ實質ニ於テハ寧ロ英法ニ近キモノニシテ學者中解釋上ノ全損 (konstruktiver Totalverlust) ナル語ヲ假用スル者アル所以ナリ然ルニ佛國法ニ於テハ全損ニ關スル規定ヲ爲サスシテ委付スルコトヲ得ヘキ場合ヲ廣ク規定シタリ(佛商三六九)我商法ノ規定ハ此點ニ付テハ寧ロ佛國法ニ類似スルモノニシテ事實上ノ全損ト目スヘキ或場合ニ於テモ(例ヘハ船舶カ沈没セル場合)委付ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト云フヘシ(註一)

〔註一〕 法律新聞第十號十九頁所載大正四年二月十八日東京控訴院判決ニ現實全損ト委付

委付ノ實質的要件

CS

トハ決シテ兩立シ難キモノニ非ス從テ現實全損ノ場合ニ於テハ被保險者ハ其現實全損ヲ立證シテ保險金額ヲ請求スルコトヲ得ヘク又委付ヲ爲シテ保險金額ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトスアリ

委付ノ制度ノ可否ニ付テノ參考書——法學志林一三卷八、九號松波博士保險委付ノ擴張論

(二) 委付ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ法律ニ之ヲ列舉シタリ(六七)即チ左ノ如

一 船舶カ沈没シタルトキ

船舶ノ沈没ナル語ハ其意義明確ナラス或ハ容易ニ引揚ケ得ヘキ程度ノ沈没(所謂 submersion) ヲモ包含スト解スル者アルヘキモ之ヲ第五百八十七條第六百十三條、第六百十六條、第六百三十七條等ノ法文ニ於ケル沈没ト比照スルニ總テ是等ノ場合ニ於ケル沈没ハ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキト相對スルモノナレハ結局容易ニ引揚クルコトヲ得サル程度ノ沈没 (foundering at sea 獨商法第八五四條ノ所謂 unrettbar gesunken) ノミヲ指示セルモノト解スルヲ妥當トスヘシ(法律新聞四二六號所載明治四十年三



月十四日東京控訴院判決參照)

船舶カ沈没シタル場合ニ於テ之ヲ委付シ得ヘキコトハ明白ナルモ此場  
合ニ積荷保險ノ目的タル積荷カ救助セラレタルトキト雖モ尙ホ之ヲ委付  
スルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ疑問ナシトセス佛國法ニ於テモ此點ニ  
付キ爭アリシカ從來ノ判例ハ多ク積極說ヲ採リ學說ハ寧ロ之ニ反對セリ  
(Lyon-Caen, no. 1338; Thaller-Ripert, no. 2540) 我商法ノ解釋トシテハ本條第三號  
ノ場合ニ付キ特ニ第六百七十三條ノ規定ヲ設ケタルヨリ之ヲ觀レハ船舶  
沈没ノ場合ニハ常ニ積荷ヲ委付スルコトヲ得ヘキモノト解セサルヘカラ  
ス

二 船舶ノ行方カ知レサルトキ

是レ所謂船舶ノ失踪 (Verschollenheit des Schiffes, missing ship) ノ場合ニシテ法律  
ハ船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモ  
ノトス保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ右六個月ノ期間内ニ經過シ  
タルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅

失セサリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トスヘキモノト規定  
セリ(六七二)

三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

商法第五百七十一條ノ規定ニ依レハ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リ  
タルモノト看做サル場合左ノ如シ

イ 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ  
地ニ到ルコト能ハサルトキ

ロ 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ(註一)

(註一) 修繕不能ヲ原因トスル委付ニ付テハ格外ニ高キ不實ナル價格ノ協定ノ效力ナキハ勿  
論ナリ(大審院民事判決第一八輯九八九頁)

船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他  
ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付ス  
ルコトヲ得ス(六七三)

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

損害保險 海上保險



茲ニ所謂捕獲トハ事實上交戰國ノ軍艦ニ依リテ拿捕 (seize) セラレタルノ旨趣ニシテ其捕獲審檢ノ結果正當ナル捕獲物 (prize) ト宣告セラレタルコトヲ要セサルモノト解スヘシ (Lyon-Caen, no. 1362) 若シ捕獲ト宣告セラレタル場合ニ於テハ事實上ノ全損ヲ生スヘク (獨商八五四參照) 敢テ委付ノ原因タルノミニ止マルヘカラサレハナリ然レトモ委付前ニ於テ其船舶又ハ積荷カ解放セラレタルトキハ復タ委付ヲ許ササルモノト解スヘシ

船舶カ捕獲セラレタルトキハ船舶ノ委付ヲ爲シ得ヘキコト當然ナルモ積荷カ捕獲セラレスシテ船舶ノミ捕獲セラレタルニ過キサルトキハ積荷ノ委付ヲ爲スコトヲ得ヘカラサルモノト解スヘシ此點ニ付テハ多少ノ疑アレトモ船舶沈没ノ場合ニ準スヘカラサルモノト解スルヲ正當トス (Lyon-Caen, no. 1361 bis)

船舶又ハ積荷ガ海賊ノ爲メニ捕獲セラレタル場合 (pillage) ハ委付ノ原因タルヲ得ルヤ否ヤニ付テハ疑問ナキニ非サレトモ佛國學者ハ積極說ヲ採ルリ (Lyon-Caen, no. 1361)

捕獲ニ關スル參考書——立博士戰時國際法一編三章一章及ヒ二章並ニ二編五章

五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

官ノ處分ニ依ル押收 (arrêt de puissance; arrests, restraints, and detentions of princes) ハ或ハ戰爭ニ伴フ抑留 (embargo) タルコトアルヘク或ハ犯罪搜索、檢疫等ノ爲メニスル押收タルコトアルヘク又或ハ國際上ノ報復手段トシテ爲サルル押收タルコトアルヘシ故ニ法文ニ所謂官トハ内外國何レノ官憲タルヲ問ハサルモノトス總テ是等ノ場合ニハ解放ノ希望多キヲ以テ我商法ハ佛國法ニ倣ヒ六個月間解放セラレサル場合ニ於テ始メテ委付スルコトヲ得ヘキモノトセリ

以上説述シタル各場合ニ於テハ被保險者ハ商法ノ規定ニ依リ委付ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ我邦ノ保險會社ハ別ニ約款中ニ規定ヲ設ケテ委付ノ原因ヲ限定セリ即チ船舶ニ付テハ行方不明、修繕不能及ヒ沈没、坐礁破碎シテ救助ノ見



込ナキコトノ三原因トシ其行方不明ノ期間ハ沿海航路近海航路及ヒ遠洋航路ニ分チ且汽船ト帆船トヲ區別シテ二个月乃至九个月ノ期間ニ付キ別ニ之ヲ定メ又修繕不能トハ救助費假修繕費及ヒ本修繕費カ修繕後ニ有スヘキ船價ニ超ユルコトヲ指稱シ且保險證券ニ記載セル總保險價額ヲ以テ修繕後ニ有スヘキ船價ト看做スヘキモノトス又積荷保險ニ付テハ船舶ノ行方不明船舶カ遭難シ貨物ノ救助見込ナキコト及ヒ船舶遭難ノ場合ニ貨物ノ原質全部毀損シタルコトノ三原因ヲ以テ委付ヲ許ス事由ト爲シタリ總テ是等ノ規定ハ全然商法ノ規定ト異レルモノニシテ此點ニ關スル同法規ハ全ク其適用ヲ除外セララルモノト云フヘシ

委付ノ形式  
的要件

(三) 委付ノ有效ナル爲メニハ一定ノ期間内ニ其行爲アルコトヲ必要トス蓋シ委付權ハ被保險者保護ノ爲メニ與ヘラレタル特典ナルヲ以テ之ヲ永續セシメ保險者ノ地位ヲ不確定ナラシムルヲ不可トスレハナリ第六百七十四條ノ規定ニ依レハ被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三个月内(船舶ノ沈没修繕不能及ヒ捕獲ノ場合ニ於テハ其事由ヲ知リタルトキ又再保險ノ場合ニ於テハ元

受保險者カ其被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ起算ス)ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

上述セル期間内ニ委付ノ通知ヲ發セザリシトキハ後日ニ至リ委付ヲ爲スコトヲ得ス但通常ノ方法ニ依リ損害ヲ證明シテ其填補ヲ請求スルコトヲ妨ケサルハ勿論ナリ又委付ノ通知ト損害發生ノ通知トハ別箇ノモノナルヲ以テ被保險者ハ委付ヲ爲スト否トヲ問ハス損害ノ發生ヲ知リタルトキハ遲滯ナク其通知ヲ發スルコトヲ要ス(四一二)

被保險者カ第五百四十四條ノ規定ニ依リ免責ノ爲メニスル委付ヲ爲シタル後ニ於テ之ト重ネテ被保險者ニ對スル委付ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ佛國學者ハ概ネ積極說ヲ採ルモ免責委付ニ權利移轉ノ效力ヲ認ムル我邦學者ハ消極說ヲ採ルモノ多シ余ハ免責委付ニ因ル權利移轉ヲ以テ法律當然ノ效力ニ因ルモノト解スルカ故ニ拙著海商法一章五節六款七款參照免責委付ハ其性質上直接ニ保險委付ヲ除斥スルモノニ非スシテ被保險者ハ免責委付ノ結果保險者ニ生シタル損害ヲ賠償シテ重ネテ保險委付ヲ爲スコトヲ得ヘキモノ

抄本  
復元  
後

(5)



ト解ス拙著私法論文集二卷所載「船舶衝突ニ際シテ生スヘキ法律問題參照」

委付ハ單純 (ohne Vorbehalt oder Bedingung, simple et pure, absolute and unconditional) ナルコトヲ必要トシ(六七五二)之ニ條件又ハ期限ヲ附スルカ如キコトヲ許サス蓋シ委付ノ目的ハ速ニ當事者間ノ計算ヲ完了セシメントスルニ在リ然ルニ被保險者カ委付ニ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ルモノトセハ當ニ此目的ニ背馳スルノミナラス徒ニ保險者ニ煩累ヲ及ホスヘキヲ以テナリ但保險者カ條件又ハ期限ヲ承諾スルトキハ此限ニ在ラス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得(六七五二)蓋シ委付ノ目的ハ被保險者ヲシテ全損ノ場合ト同シク全部ノ填補ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ保險ノ目的ノ全部ニ付テノミ委付ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノナリ(所謂委付ノ不可分 indivisibilité du délaissement)故ニ保險ノ目的ノ一部ヲ委付シ他ノ一部ニ付テ一部損害ノ填補ヲ請求スルカ如キコトヲ認ムヘカラス然レトモ委付ノ原因カ保險ノ目的ノ一部ニ付テ生シ

タルトキハ其部分ノミヲ委付スルコトヲ得ヘキハ法律ノ明言スル所ナリ(六七五二但書)

委付ノ形式ニ付テハ法律ノ規定ナケレハ必スシモ書面ヲ以テスルコトヲ要セス口頭ヲ以テスルモ妨ナシ然レトモ實際ニ於テハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通常トス又被保險者ハ委付ヲ爲スニ當リ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス保險者ハ其通知ヲ受クル迄ハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ右ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノタリ(六七八)蓋シ保險ノ目的ニ關シ重複保險アルトキハ保險者ハ必スシモ保險金額ノ全部ヲ支拂フ責ニ任セス(三八七乃至三九〇)又保險ノ目的ノ負擔ニ屬スル債務即チ保險ノ目的ノ上ニ存スル先取特權質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラレタル債務アルトキハ其債權者ハ保險金請求權ニ付テ權利ヲ有スヘケレハナリ(本章第一節第六款參照)

④ 委付ノ效力トシテ被保險者ハ全損ノ場合ト同シク保險金額ノ全部ヲ請求

損害保險 海上保險

委付ノ效力 (315)



スル權利ヲ取得ス(六七二)是レ實ニ委付ナル意思表示ノ目的トスル效力ナリ但  
 被保險者カ保險金額ノ支拂ヲ受クル爲メニ法定ノ通知ヲ必要トスルコトハ既  
 ニ述ヘタル所ナリ(六七八)又委付ノ原因カ保險ノ目的ノ一部ニ付テ生シタル場  
 合ニ委付ヲ爲シタルトキハ其部分ニ對スル保險金額ノ全部ヲ請求シ得ヘキコ  
 トモ亦既ニ述ヘタル所ノ如シ(六七五二)

○委付ノ法律上ノ效力トシテ保險者ハ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一  
 切ノ權利ヲ取得ス(六七七二)但一部保險ノ場合ニ於テハ保險金額ノ保險價額ニ  
 對スル割合ニ應シテ權利ノ移轉アルモノト解スヘシ(六七五三)而シテ保險者ハ  
 委付ニ因リテ被保險者ノ有セル一切ノ權利ヲ取得スルヲ以テ法律ハ被保險者  
 カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スル義務ア  
 ルモノトセリ(六七七二)

被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利トハ如何ナル權利ヲ指シヤ  
 保險ノ目的カ現存スル場合ニ於ケル其所有權又ハ保險ノ目的カ滅失シタル場  
 合ニ於ケル殘存物ノ所有權其他保險ノ目的ノ上ニ存スル權利カ保險者ニ移轉

セラルルコトハ論ヲ埃タス又保險ノ目的カ船舶ナル場合ニ於テ被保險者ノ有  
 スル運送貨請求權カ船舶ノ委付ニ因リテ保險者ニ移轉セラルヘキモノニ非ザ  
 ルコトニ付テハ疑ヲ容ルル餘地ナキカ如シ唯損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生  
 シタル場合ニ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利例ヘハ船舶ノ衝突ニ因リ  
 テ生シタル損害賠償請求權又ハ共同海損ニ因リテ生シタル分擔額請求權ノ如  
 キハ委付ニ因リテ保險者ニ移轉セラルルヤ將タ代位ニ關スル商法第四百十六  
 條ノ規定ニ依リテ之ニ移轉セラルルヤハ困難ナル問題タリ(註一)佛國ノ學說ニ  
 依レハ委付ニ因リテ移轉セラルヘキ權利中ニハ第三者ニ對スル權利ヲ包含ス  
 ルモノトス(Desjardins VII nos. 1577, 1578; Lyon-Caen VI nos. 1376, 1377; Thaller-Ripert  
 no. 2558; Smeesters no. 902) 然ルニ英國ノ學說及ヒ判例ハ之ニ反シテ委付ハ保險  
 ノ目的上ノ權利ヲ移轉セシムルニ止マリ第三者ニ對スル權利ハ代位ニ關スル  
 原則ニ依リテ移轉セラルルモノトス(Arnould II sect. 1227)我邦ニ於テハ前說普通  
 ニ行ハルルカ如シト雖モ(松波博士日本商法一二二七頁、吾孫子、矢部二法學士商  
 法通義九八三頁)余ハ此說ヲ採ラス第四百十五條及ヒ第四百十六條ヲ第六百七



十七條ニ比照スルトキハ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル權利トハ保險ノ目的ノ上ニ存スル權利ノミヲ指スモノニシテ第三者ニ對スル權利ハ寧ロ第四百十六條ノ規定ニ依リテ移轉セラルルモノト解スルヲ正當トスヘシ(拙著私法論文集二卷所載船舶衝突ニ際シテ生スヘキ法律問題参照)

〔註一〕 第三者ニ對シテ有セル權利カ委付ニ因リテ移轉セラルルト保險金額ノ支拂ニ因リテ移轉セラルルトハ其移轉ノ時ヲ異ニスルヲ以テ保險者破産ノ場合ノ如キハ大ニ法律上ノ效果ヲ異ニスルモノアルヘク又一部保險ノ場合ニ於テハ移轉セラルヘキ權利ノ範圍ヲモ同ウセサルコトアルヘシ例ヘハ保險價額ヲ二十萬圓、保險金額ヲ十萬圓トシ第三者ニ對スル權利ヲ十萬圓トスルトキハ委付ニ關スル第六百七十五條第三項ノ規定ニ依リテハ保險者ハ五萬圓ノ權利ヲ取得スルニ過キサレトモ代位ニ關スル第四百十六條ノ規定ニ據リテハ十萬圓ノ權利ヲ取得スルコトヲ得ヘシ故ニ此問題ヲ決定スルノ實益アリ

〔五〕 委付ハ單獨行爲ニシテ被保險者ノ單獨ノ意思表示ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク〔註一〕委付ノ效力ハ其意思表示ノ到達ノ時ニ發生スルモノナレハ(民九七)保險者ノ承認ノ意思表示ヲ必要トセス然レトモ保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ左ノ如キ效力ヲ生スヘシ

〔註一〕 英(六二)佛(三八五)其他ノ多數法ニ依レハ委付ノ成立ニハ承認ヲ必要トス我商法ハ獨商

委付ノ承認

法ト同シク委付ヲ單獨行爲ト爲セリ (Seveling 2 866 Ann. 4)

一 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス(六七九)故ニ委付ノ承認アリタルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明スルノ責ナシ

二 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス(六七六)

委付ハ上叙ノ如ク被保險者ノ單獨行爲ナルヲ以テ保險者ノ承認前ト雖モ一旦爲シタル委付ノ意思表示ハ之ヲ撤回シ得サルモノト解セサルヘカラス(獨商八六六三參照)

〔六〕 委付ノ法律上ノ性質トシテ其法律行爲ナルコトハ言ヲ竣タス又其單獨行爲ニシテ保險者ノ承認ナキモ效力ヲ發生スルモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ

委付ノ意思表示ノ内容ハ(保險ノ目的ヲ拋棄シテ保險金額ノ全部ヲ請求スル權利ヲ發生セシムルニ在リ其保險金額請求權ノ發生カ即チ委付ノ意思表示上

損害保險 海上保險

委付ノ法律上ノ性質



ノ效力タリ保險ノ目的ニ付キ被保險者ノ有セル權利カ保險者ニ移轉スルハ委付ノ意思表示上ノ效力ニ因ルモノニ非スシテ却テ法律カ委付ニ付シタル效力ニ由ルモノナリ故ニ委付ノ場合ニ於ケル權利ノ移轉ハ法律上當然ノ移轉ニシテ當事者ノ意思表示ニ因ル權利ノ讓渡ニ非ス此點ニ於テ被保險者ノ爲ス委付ハ船舶所有者ノ免責ノ爲メニスル委付(五四四)ト其法律上ノ性質ヲ一ニス唯船舶所有者ノ委付ハ登記シタル船舶ニ付テハ登記ヲ要件トスル要式行爲ナレトモ被保險者ノ委付ハ意思表示ノミヲ以テ效力ヲ生スルモノニシテ常ニ要式行爲ニ非ス(海商法第一章第五節第七款參照)

委付ハ被保險者ノ爲ス單獨行爲ニ屬シ其直接ノ效力トシテ保險金額全部ノ請求權ヲ發生セシムルモノナレハ委付權ハ即チ形成權ノ一種ナリト云フヘシ被保險者ノ有スル委付權ハ此點ニ於テモ亦船舶所有者ノ有スル委付權ト其性質ヲ同ウスルモノナリ

### 第三章 生命保險

#### 第一節 生命保險ノ意義

生命保險  
生命保險ノ  
意義  
保險金額ノ  
支拂

生命保險 (Lebensversicherung, assurance sur la vie, life insurance, life assurance) 契約トハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スル保險契約ヲ謂フ(四二七)

(一) 生命保險契約ニ於テハ當事者ノ一方即チ保險者ハ一定ノ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フコトヲ要ス是レ即チ保險金額支拂ノ義務ナリ生命保險ニハ被保險利益ノ觀念ナク從テ保險價額アルコトナシ保險者ハ其支拂ヲ約束シタル一定ノ保險金額ヲ無條件ニ支拂フヘキモノニシテ超過保險、重複保險又ハ一部保險等ノ問題ヲ生セス是レ該問題ニ關スル損害保險ノ規定カ生命保險ニ準用セラレサル所以ナリ(四二三)(註一)

[註一] 生命保險ニ於テモ利益ヲ要件トスル立法例及ヒ學說少カラス殊ニ他人ノ生命ノ保險ニ付テハ契約者カ利益ヲ有スルコトヲ必要トスル者アリ而モ其所謂利益ノ何々ルヤハ甚



タ不確定ナリ英法學者ノ如キハ其利益ノ金錢的利息 (pecuniary interest) タルコトヲ明言スレトモ該利益ハ契約締結ノ時ニ存在スルコトヲ要スルノミニシテ其存續ヲ必要トセス從テ損害保險ノ場合ニ於ケルカ如ク超過保險又ハ重複保險等ノ問題ヲ生スルコトナシ尙ホ生命保險ニ於ケル利益ノ觀念ニ付テハ法學新報一四卷四號所載岡野博士論文及ヒ法學協會雜誌二五卷一二號所載村上法學士論文ヲ參考スヘシ

保險金額ノ支拂ハ通常其金額ノ全部ヲ一時ニ支拂フ方法ニ依リテ行ハル之ヲ資金保險 (Kapitalversicherung) ト云フ然レトモ年金トシテ順次ニ之ヲ支拂フ方法ニ依ルコトヲ妨ケス之ヲ年金保險 (Rentenversicherung) ト云フ商法第四百二十七條ニハ一定ノ金額ヲ支拂フトアレトモ年金支拂ノ觀念ヲ除外スルモノニ非スト解スヘシ

保險金額ノ支拂ヲ受クヘキ者ハ之ヲ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト稱ス生命保險ニ於ケル被保險者カ單ニ保險ノ目的タルニ過キスシテ損害保險ニ於ケル被保險者ト全然其意義ヲ同ウセサルコトハ既ニ説述シタル所ナリ(第一章第三節ノ一參照)

保險者ハ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス其

保險事故  
ル人ノ生死  
及ヒ生命保  
險ノ種類

者ノ生死ニ關シテ保險金額カ支拂ハルル者ハ即チ保險ノ目的タル人ニシテ之ヲ被保險者ト云フ

生命保險ニ於ケル保險事故ハ被保險者ノ生死タルコトヲ要ス而シテ茲ニ生死トハ生存及ヒ死亡ヲ謂フ被保險者ノ死亡ヲ以テ保險事故トスルモノヲ死亡保險ト云ヒ其一定年齢マテノ生存ヲ以テ保險事故トスルモノヲ生存保險ト云ヒ死亡ト生存トノ二原因ヲ併セテ保險事故トスルモノヲ混合保險ト云フコトハ既ニ一言セル所ナリ(第一章第二節第二款ノ二參照)而シテ此三種ノ保險ハ種種ノ態様ニ於テ行ハルルカ故ニ左ニ舉クルカ如キ各種ノ生命保險ヲ生ス

死亡保險中 被保險者ノ終身ニ亘リテ存續シ其死亡ノ場合ニ於テ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ契約ハ即チ終身保險 (Lebenslängliche Versicherung, assurance pour la vie entière, whole life assurance) ニシテ最モ普通ナルモノニ屬シ生命保險ノ性質ヲ論スル學者ニシテ之ヲ目標ト爲ササルモノ殆ト稀ナリ狹義ニ於ケル生命保險ハ即チ終身保險ヲ指スモノト云フモ不可ナシ(第一章第一節ノ一參照)而モ死亡保險中ニハ一定期間内ノ死亡ヲ保險シ其期間内ニ死亡アル場合ニ於テノミ保險金

生命保險 生命保險ノ意義



abgekürzte Versicherung

額ノ支拂ヲ爲スモノアリ之ヲ定期保険(Risikoversicherung auf Leben, Versicherung auf kurze Zeit, assurance temporaire, term assurance)ト云フ尙ホ一定期間經過後ノ死亡ノミニ付テ保険金額ノ支拂ヲ爲スヘキ生命保険(auf beschobene Versicherung)ハ其法律上ノ性質ハ定期保険ニ類セルモノトス何トナレハ此場合ニ於テ保險事故ノ發生スルト否トハ不確定ナレハナリ

混合保険中最モ普通ニ行ハルルモノハ所謂養老保險(abgekürzte Versicherung)ニシテ一定期間生存シ老年ニ達シタルカ又ハ其以前ニ死亡シタル場合ニ保險金額ヲ支拂フモノトス是レ終身保險ト共ニ多ク行ハルル契約ニシテ寧ろ終身保險ニ近キ經濟上ノ作用ヲ爲スモノタリ之ニ反シテ同一ノ法律上ノ性質ヲ有シ而モ純然タル生存保險ニ近キ經濟上ノ作用ヲ爲スモノアリ即チ幼年者カ一定ノ期間生存シ壯年ニ達シタル場合ニ於テ保險金額ヲ支拂フコトヲ主眼トシ其以前ニ死亡シタル場合ニモ同シク保險金額ノ支拂ヲ爲ス混合保險是ナリ  
上述セル各種ノ保險ニ於テハ一人ノ被保險者ヲ目的トシ其生死ヲ保險事故トスレトモ同時ニ二人以上ノ被保險者ヲ有シ其生死ヲ以テ保險事故トスルモ

ノナシトセス例ヘハ甲乙二人中何レカ死亡スルモ他ノ若カ保險金額ノ支拂ヲ受クヘキ契約(所謂連生保險 Versicherung auf zwei verbundene Leben, assurance pour la vie sur deux têtes, joint life assurance)ハ甲ト乙トカ組合契約ヲ爲シテ事業ヲ營ムカ如キ場合ニ締結セラルルコトアリ又夫カ死亡シタル場合ニ於テ妻カ尙ホ生存スルコトヲ條件トシテ保險金額ノ支拂ヲ受クヘキ契約(所謂生殘保險 Überlebenderversicherung, assurance de survie, contingent survivorship assurance)モ亦時ニ締結セラルルコトアリ是等雜種ノ保險ハ一説明スヘキ限ニ在ラス

生命保險中一種ノ特色ヲ有スルモノハ終身定期金契約(Leibrentenvertrag, rente viagère, annuity)ナリ單純ナル特定期間内ノ定期金契約ニシテ毫モ不確定ノ要素ヲ包含セサルモノハ勿論保險契約ニ非スト雖モ終身定期金契約ニ於テハ定期金受領者ノ生死ニ因リ債務者ノ給付ノ範圍ヲ異ニスルモノナルヲ以テ苟モ營業トシテ之ヲ爲ス以上ハ保險契約ニ非スト云フコトヲ得ヘカラス(第一章第一節ノ二イ及ヒヘ参照)而シテ終身定期金契約ニ於テハ各定期間ノ生存ニ關シ各定期金ヲ支拂フヘキモノナルヲ以テ重疊的ニ保險事故カ發生スヘキ一種ノ生



存保險ニ屬スルモノト觀察スルヲ得ヘシ

生命保險ニ於ケル保險事故ハ人ノ生死ナルヲ以テ生命保險ニハ損害ノ原因トシテノ危險ナル觀念存在スルコトナシ第四百三十三條ハ損害保險ニ關スル多數ノ規定ヲ生命保險ニ準用シ是等ノ規定中ニハ危險ナル語ヲ有スルモノアレトモ之ヲ生命保險ニ應用スルニ當テハ或ハ保險事故ヲ指シ或ハ其事故發生ノ可能性ヲ指スモノト解スヘキナリ(第二章第一節第一款ノ二參照)

✓生命保險ニ於ケル保險事故タル人ノ生死ハ損害保險ニ於ケル普通ノ保險事故ト同シク其發生スルト否トカ不確定ナルコトアリ例ヘハ一定年齢マテ生存スルヤ否ヤハ不確定ナリ又定期保險ニ於テハ一定期間内ニ死亡スルヤ否ヤハ不確定ナリ然レトモ終身保險ニ於ケル人ノ死亡ハ發生スルコト確實ニシテ損害保險ニ於ケル保險事故ノ如ク偶然ニ非サルモ何時ニ發生スルカノ點ニ於テ不確定ナル分子ヲ包含シ居レリ生命保險モ亦保險ナルヲ以テ保險事故ニハ不確定ナル分子ヲ包含スルノ要アルコト既ニ說述シタルカ如シ(第一章第一節ノ二イ參照)從テ保險事故カ少クトモ主觀的ニ不確定ナルコトヲ要スルハ損害保

險ニ於ケルト同様ニシテ法律ハ保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ヲ無効ト爲セリ(四三三、一、三九七)

✓生命保險ニ於ケル保險事故ハ人ノ生死ナルカ故ニ生命保險事業ヲ營ム爲メニハ人ノ生死ニ關スル統計ヲ基礎トシテ保險料ヲ定メサルヘカラス其人ノ生死ニ關スル統計ハ之ヲ死亡生殘表(Storbefehl, table de mortalité, table of mortality)ト云フ我邦ニ於ケル多數保險會社ノ採用スル死亡生殘表ハ英國十七會社表(千八百四十七年)英國二十會社表(千八百六十九年)又ハ亞米利加表(千八百六十八年)等ナリ我邦ノ死亡生殘表トシテハ藤澤氏第一表第二表矢野氏第一表第二表等アリ就中輒近明治、日本、帝國三會社ノ實驗ニ成レル日本三會社生命表(明治四十三年)ハ最モ濶濶ナルモノタリ

保險期間

✓(三) 生命保險ノ保險期間ハ當事者間ノ合意又ハ契約ノ性質ニ依リテ定メラルルモノトス例ヘハ養老保險ニ於テハ必ス何歳滿期ナルヤヲ定メサルヘカラスト雖モ終身保險ニ在テハ保險期間ハ當然被保險者ノ終身ニ亘ルヘキモノナリ

生命保險 生命保險ノ意義



四 生命保險契約ニ於テハ當事者ノ一方即チ保險契約者ハ報酬ヲ與フル義務ヲ負フモノトス是レ即チ保險料支拂ノ義務ナリ  
生命保險ノ保險料中ニハ通常其保險料ヲ徵收スル年度ノ危險ノ爲メニスル部分ト後年ノ爲メニ蓄積スヘキ部分トヲ包含シ此後ノ部分ヲ積立テタル金額カ保險料積立金ヲ成スモノナルコトハ既ニ之ヲ説述シタリ(第一章第四節第四款ノ三參照)此保險料積立金ハ即チ會社カ後年ノ爲メ餘分ニ徵收シタル保險料ニ外ナラサレハ保險契約カ失效、解約等ニ因リテ中途ニ終了シタルカ又ハ法律若クハ約款ノ規定ニ依リ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニ於テハ之ヲ保險契約者ニ拂戻スヲ至當トス是レ生命保險ニ於テ保險者ノ積立金拂戻ノ制度アル所以ナリ(本章第二節ノ六、七參照)

五 生命保險中特殊ノ保險トシテ特別ノ地位ヲ占ムルモノニ簡易生命保險又ハ小口保險(Volkerversicherung; assurance populaire; industrial insurance)ナルモノアリ主トシテ下級勞働者階級ノ生命保險ヲ目的トシ其特色ハ保險金額ノ少額ナルコト保險料ノ拂込度數頻繁ニシテ例ヘハ週掛又ハ月掛ノ如シ且保險者ヨリ集金人

簡易生命保險  
小口保險  
拂戻

ヲ派出シ戸別集金ヲ爲スコト、保險料ヲ單位トシテ保險金ヲ算出スルコト(例ハハ週掛十錢ノ保險料ニ對シ保險金若干ト云フカ如シ)及ヒ身體検査ノ方法ヲ採ラサルカ又ハ其方法簡易ナルコト等ニ在リ其身體検査ヲ爲ササル結果トシテ契約締結後一定期間内ハ保險金額ヲ削減シテ支拂フコトト爲シ(所謂削減期間Karenzeit, Wartezeit)以テ弱者ノ濫入ヲ避クルヲ常トス

簡易生命保險ハ上述セル數點ニ於テ普通生命保險ト大ニ趣ヲ異ニスル所アリ從テ其經營ノ方法ヲ同ウセスト雖モ其私法上ノ性質ニ至テハ是レ亦純然タル生命保險ニシテ何等普通保險ト異レル法規ヲ要スルモノニ非ス然レトモ我邦ニ於テハ從來私營ノ簡易生命保險ナク政府ハ之ヲ獨占經營スル旨趣ヲ以テ簡易生命保險法案ヲ編成セリ此法案ニ於ケル簡易生命保險ハ政府カ營業トシテ之ヲ爲スモノニ非サレハ商法ノ所謂保險ニ非ス從テ商法中生命保險ニ關スル規定ノ適用ナキモノナリ

參考書——拙著私法論文集二卷所載簡易保險法案解說[國家學會雜誌二九卷三號以下所載志田博士]所謂簡易保險ニ付テ



生命保險類  
及他人保險  
似生命保險  
及他人保險  
存貯ノ人  
存貯ノ人

（六）生命保險ニ似テ非ナル人保險少カラス例ハハ婚資保險(Aussteuerversicherung)又ハ徵兵保險(第一章第二節第二款ノ三參照)ノ類ハ大ニ生命保險ニ類似セルモノニシテ或ハ其一變態ト認ムヘキ場合ナキニ非ス然レトモ結婚ノ舉式又ハ徵兵ニ因ル入營ヲ保險事故トシテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スル場合ニハ一定年齢ニ達スル迄ノ生存ノミヲ保險事故トスルモノト云フヲ得サレハ之ヲ生存保險ナリト解スヘカラス但生命保險ニ關スル法律規定ハ之ニ類推適用セラルヘキヲ以テ之ヲ生命保險ノ一種ト觀察スルモ實際ノ結果ニ至テハ別ニ異ル所ナシ(第一章第二節第二款ノ四參照)

生命保險及ヒ他ノ人保險カ併合シテ存在スル場合アルコトハ亦既ニ説述シタル所ナリ第一章第二節第二款ノ三參照故ニ傷害保險ニ於テ死亡ヲ原因トシテ保險金額ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ其部分ニ於テ死亡保險ヲ包含スルモノト觀ルヘク從テ他人ヲ被保險者トシテ其契約ヲ爲ス爲メニハ他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル契約ニ付テノ第四百二十八條以下ノ規定ハ當然之ニ適用セラルヘキモノニシテ敢テ類推適用ヲ待タサルナリ

保險者ノ義務

○ 第二款 保險者ノ義務

保險証券交付ノ義務

（一）保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險証券ヲ交付スルコトヲ要ス(四三三・四〇三・一)

保險証券ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ(四三三・一)

- 一 保險契約ノ種類例ハ終身保險養老保險ト云フカ如シ
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額
- 四 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日
- 九 保險証券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

生命保險 保險者ノ義務



十 保險者ノ署名

第四百三十條ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ハ悉ク之ヲ生命保險證券ニ記載スヘキモノノ如ク規定セルモ保險ノ目的ト保險價額トハ生命保險ニ存在セサルヲ以テ之ヲ記載スヘカラサルヤ明白ナリ保險者ノ負擔シタル危險モ亦之ヲ記載スルニ由ナキカ如シ

保險證券ノ性質ニ付テハ總テ損害保險ニ關シ説明シタルト同一ナルヲ以テ再ヒ之ヲ贅セス其保險證券ニ保險約款ノ全文ヲ記載スルカ又ハ之ヲ記載シタル書面添附ヲ要スルコトニ付テモ亦同シ(第二章第一節第三款ノ一參照)

二 保險者ハ保險事故發生セル場合ニ於テ約定シタル保險金額ヲ支拂フ義務ヲ負フモノトス是レ即チ保險者ノ負擔スル主タル義務ナリ而シテ其保險金額カ或ハ一時金トシ或ハ定期金(年金)トシテ支拂ハルルコトアルハ既ニ述ヘタル所ナリ(本章第一節ノ一參照)

保險金額ノ支拂ヲ受クル者ハ即チ保險金額ヲ受取ルヘキ者(保險金受取人)ニシテ保險契約者カ第三者ヲ以テ保險金受取人ト指定シタルトキハ他人ノ爲メ

保險金額支拂ノ義務

ニスル保險第一章第三節ノ四及ヒ本章第四節參照ヲ生スヘシ而シテ保險金受取人ハ必スシモ契約締結ノ當時之ヲ指定スルコトヲ要セス(四三〇三號參照)保險契約者ハ後日ニ至リテ之ヲ指定スルコトヲ得ヘク若シ保險金受取人ヲ指定セサル間ニ保險事故發生シタルトキハ保險契約者カ自己ヲ被保險者トシテ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其保險契約者ヲ以テ保險金受取人ト解スヘシ何トナレハ他人ノ爲メニスル保險ハ寧ロ例外ニシテ他人ヲ指定セサルハ即チ自己ノ爲メニスルモノト觀ルノ外ナケルハナリ保險契約者カ他人ヲ被保險者トシテ生存保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦同一ノ理由ニ依リ其保險契約者ヲ以テ保險金受取人ト解スルヲ相當トス唯保險契約者カ他人ヲ被保險者トシテ死亡保險契約又ハ混合保險契約ヲ爲シタル場合ニハ其被保險者ヲ保險金受取人ト爲シタルトキノ外保險金受取人ヲ定メテ被保險者ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルカ故ニ結局保險金受取人ノ指定ナキ場合ヲ生セサルヘシ

上述シタル如ク保險契約者カ被保險者タル場合ニ於テハ同時ニ保險金受取人ト爲ルコトアリ又契約ヲ以テ明カニ自己ヲ保險金受取人ト指定スルコトヲ

生命保險 保險者ノ義務



得此場合ニ於テ其保險カ死亡保險又ハ混合保險ナルトキハ保險契約者ノ死亡ハ即チ保險金支拂ノ原因ナルヲ以テ保險金額支拂ノ請求權ハ相續財產ニ屬シ相續人ニ承繼セラルルモノト解スヘシ尙ホ保險證券ニ於テ漫然相續人ヲ保險金受取人ト指定シ其氏名ヲ記載セサル場合ノ如キハ概ネ保險金受取人ヲ指定シタルモノト觀ルコトヲ得サレハ保險金額ノ請求權ハ一旦相續財產中ニ屬シテ相續人之ヲ承繼スルモノト解セサルヘカラス是レ獨逸又ハ瑞西保險契約法(獨一六七、瑞八三乃至八五)ト結果ヲ異ニスル所ナリ(註一)

(註一) 法律新聞第七百六十八號所載大阪地方裁判所判決ハ保險契約ノ所謂保險金受取人タル相續人トハ契約ノ當時相續人タルヘキ地位ニ在ル者ヲ意味シ爾後相續ヲ拋棄シタルト否トチ間ハ又保險金額ヲ受取ルヘキ權利ハ相續財產ニ非スシテ相續人ノ固有財產ナリトセリ是レ固ヨリ當事者ノ意思解釋ノ問題ナレトモ契約當時ノ相續人タルヘキ者ヲ指定シタリト觀察スヘキ場合ハ實際上稀有ナルヘシ若シ契約當時ノ相續人ヲ指定シタルモノトセハ須ラケ其者ノ氏名ヲ保險證券上ニ明記セシムヘキナリ(四三〇三號瑞獨二國法ハ大體ニ於テ被保險者死亡當時ノ相續人タルヘキ者カ保險金受取人ナリトシ從テ保險金額請求權ハ相續財產ニ屬セス相續ヲ拋棄シタル者モ亦保險金額ヲ受取ルコトヲ得ヘキモノトス是レ特別ノ立法ヲ待テ始メテ定マルヘキ所ナレハ之ヲ我法律ノ解釋ニ援用スヘカラス

保險金額ヲ受取ルヘキ權利ハ財產權ナルヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ(註

二) 然レトモ死亡保險又ハ混合保險ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ何人ナルカハ被保險者ノ利害ニ最モ痛切ナル關係ヲ有スヘク保險金受取人ハ或ハ故意ニ保險金額支拂ノ事由ヲ招致セント欲シテ被保險者ヲ死ニ致スカ如キ危險ナキヲ保セス故ニ我商法ハ死亡保險又ハ混合保險ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡スニハ被保險者ノ同意アルコトヲ必要トス(四二八二、三)此同意ノ性質等ニ付テハ後ニ他人ノ生命ノ保險ヲ説明スルニ當リテ叙述スル同意ト異ル所ナケレハ其説明ヲ省略スヘシ(本章第四節ノ四參照)又保險金額ヲ受取ルヘキ權利ハ既ニ一言セル如ク相續財產ニ屬スヘキモノニシテ之ヲ相續スルコトヲ得(註二)但戸主ノ死亡以外ノ原因ニ因リテ家督相續ノ開始アリタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ權利ハ寧ロ前戸主ノ一身ニ專屬セルモノトシテ當然前戸主ニ屬スルモノト解スルヲ妥當トスヘシ(民九六四、九八六以下參照)尙ホ他人ノ爲メニスル保險ノ場合ニ付テハ特別規定アリテ保險金額ヲ受取ルヘキ權利ノ相續及ヒ讓渡ニ對スル制限アリ(四二八ノ三)後ニ之ヲ説明スヘシ(本章第五



節ノ三、四參照

〔註二〕 保險金額ヲ受取ルヘキ權利ノ讓渡及ヒ相續ニ付テハ改正前ノ商法ト現行法トハ大ニ其規定ヲ異ニセリ改正前ノ商法ハ保險金額ヲ受取ルヘキ權利ノ相續ヲ認メス又狭キ範圍ニ於テノミ其讓渡ヲ認メタルニ過キス(改正前ノ商法四二八)

保險者カ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサル例外ノ場合トシテ法律ノ規定シタルモノ左ノ如シ(四三一、四三三、三九五)

一 被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ但特約ニ因リ保險金額ノ支拂ヲ約スルコトヲ妨ケサルハ勿論ニシテ保險會社ノ普通約款中戰時危險ヲモ引受クヘキコトヲ定メタルモノ多シ又或ハ特別保險料ヲ徵收シテ特ニ戰時危險ヲ引受クルモノ少カラズ

二 被保險者カ自殺〔註三〕決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

四 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

〔註三〕 自殺 (Selfsuicide, suicide)トハ故意ニ自己ノ死亡ヲ生セシムル行爲ヲ謂フ是故ニ決闘ニ因リ又ハ他人ノ生命ヲ救助スル爲メ危險ヲ冒シタルニ因リテ死亡シタル場合等ヲ包含セサルハ勿論精神病其他ノ原因ニ因リ心神喪失中ニ自殺行爲ヲ爲シタル場合ニハ自殺ノ意思決定ナキモノナルヲ以テ此場合ヲ包含セサルモノト解スヘシ(法律新聞二號所載東京控訴院判決、R. O. H. G. 18 S. 210; R. G. 4 S. 100; Fick in N. F. H. R. 20 S. 1 E. 參照)

上述セル場合ノ外約款ノ規定ニ依リ被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ

〔註四〕 及ヒ一年以上ノ禁錮又ハ懲役ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ死亡シタルトキハ保險金額支拂ノ責ニ任セサルヘキコトヲ定メ又被保險者カ自殺シタル場合ニ付テハ其自殺カ保險者ノ責任ノ始マリタル時ヨリ一定期間ヲ經過シタル後ニ生シタルトキハ保險金額支拂ノ責ニ任スヘキモノト定ムルヲ常トス

〔註四〕 被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ死亡シタルモノト看做サルルヲ以テ法律上當然保險金額請求權ヲ發生スヘシ(拙著人及物二七五頁參照)

三 保險者カ特約ヲ以テ利益ノ配當又ハ分配ヲ約シタルトキハ其契約ノ條款ニ依リ保險者ニ生シタル利益ノ一部ヲ保險契約者ニ配當スルコトヲ要ス生命

利益配當ノ義務

生命保險 保險者ノ義務



保險ニ於テハ實際上利益配當ノ特約ヲ爲スコト頗ル多シ(尙ホ第二章第一節第三款ノ三參照)

特約ニ因ル利益配當ハ保險者ニ利益ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナレハ利益ノ有無ヲ問ハス一定金額ノ配當ヲ爲スヘキ契約所謂確定利益配當ハ利益配當ニ非スシテ寧ロ主タル生命保險契約ニ附隨セル從タル生存保險契約ト觀察スルヲ正當トス何トナレハ此契約ハ被保險者ノ生存ヲ條件トシテ一定金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルモノニ外ナラサレハナリ而シテ如上ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ保險會社ハ其準備金ヲ積立ツルコトヲ要スルモノナリ(第一章第四節第四款ノ五參照)

擔保供與ノ義務

(四) 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得(四三三、四〇五一段)尙ホ此點ニ付テハ損害保險ニ付キ説明シタル所ヲ參考スヘシ(第二章第一節第三款ノ四)

保險料返還ノ義務

(五) 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一

被保險者ノ積立金額ヲ拂戻スル義務

部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得(四三三、三九九)此點ニ付テモ亦損害保險ニ付キ説明シタル所ヲ參考スヘシ(第二章第一節第三款ノ五)

(六) 保險者ハ左ノ各場合ニ於テ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス(四三一、二、四三三、二)

- 一 第四百三十一條第一項第一號及ヒ第二號ノ規定ニ依リ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサルトキ
- 二 第三百九十五條ノ規定ニ依リ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサルトキ
- 三 第四百五條ノ規定ニ依リ保險者又ハ保險契約者カ契約ヲ解除シタルトキ
- 四 第四百七條ノ規定ニ依リ保險契約者カ契約ヲ解除シタルトキ
- 五 第四百十條ノ規定ニ依リ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルトキ
- 六 第四百十一條ノ規定ニ依リ保險者ニ於テ契約ヲ解除シ又ハ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做シタルトキ

生命保險 保險者ノ義務



上掲セル場合ニ於テ保險者カ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額即チ責任準備金中其特定ノ被保險者ノ爲メニ積立テシ部分ニ相當セル金額ヲ拂戻ス義務ヲ負擔スルハ生命保險ニ於テハ保險者カ後年ノ爲メ餘分ノ保險料ヲ徵收スルニ依リ之ヲ拂戻サシメ以テ不當ノ利得ヲ受クルコトヲ得サラシムルノ旨趣ニ外ナラス(本章第一節ノ四參照)尙ホ生命保險ニ於テ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有スルモ亦同一ノ旨趣ニ基クモノタリ(第一章第四節第四款ノ六參照)

商法ノ規定ニ依レハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額即チ責任準備金ノ全額ヲ拂戻スヘキカ如シト雖モ約款ニ於テハ之ヲ制限シ當該保險年度末ニ於ケル責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ特定ノ金額ヲ控除セル殘額ヲ拂戻スヘキモノトセリ是レ即チ後ニ説明スヘキ解約拂戻金ノ金額ニ外ナラス(本節ノ七參照)斯ノ如ク責任準備金ヨリ費用額ヲ控除スルハ外國ニ於テモ亦一般ニ認メラレタル所ナリ(獨保險契約法一七四乃至一七六、瑞保險契約法九一參照)

解約返戻金  
拂戻ノ義務

七 生命保險契約ハ保險契約者任意ニ之ヲ解約シ被保險者ノ爲メニ積立テタ

ル金額ノ拂戻ヲ請求シ得ルヲ常トス蓋シ生命保險契約ハ長期ニ亘ル性質ヲ有スルヲ以テ保險契約者カ絶對的ニ之ニ拘束セラルヘキモノトスレハ其責力又ハ保險金受取人トノ關係ニ變動ヲ生シタル場合ニ於テ之ニ無用ノ苦痛ヲ與フルニ至ルヘク又保險者モ契約者ニ解約ノ自由ヲ認ムルニ非サレハ多數ノ契約ヲ募集スルコト能ハサルヘシ故ニ諸國法概ネ保險契約者ノ解約權ヲ認メ居レリ(獨保險契約法一六五、瑞保險契約法六五)而シテ其解約ノ場合ニ於テハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻サシムルヲ妥當トス(本節ノ六參照)是レ亦各國法ノ認ムル所ニシテ(獨保險契約法一七四、一七六、瑞保險契約法九〇)解約ニ因リ現金ヲ以テ解約返戻金(surrender value, Rückkaufswert)ヲ拂戻スコトヲ保險契約ノ買戻(Rückkauf, rücht)ト云ヒ解約返戻金ヲ一時拂ノ保險料ト觀テ保險金額ヲ減少スルコトヲ保險契約ノ變更(Umwandlung, rektion)ト云フ保險契約變更ノ場合ニ於テハ其變更ノ後ハ保險料ヲ支拂フコトヲ要セス是レ所謂保險料拂濟保險(Premienfreie oder beitragsfreie Versicherung)ナリトス

我商法ハ解約ノ自由及ヒ解約返戻金ノ拂戻又ハ保險料拂濟保險ニ變更スル

生命保險 保險者ノ義務



コトニ付キ何等ノ規定ヲ有セスト雖モ約款中ニハ必ス解約ノ自由及ヒ解約返  
戻金ノ拂戻ヲ定メ又保険料拂濟保險ニ變更スルコトモ時ニ之ヲ認ムルモノナ  
シトセス(保險業法施行規則八參照)而シテ其解約返戻金ハ當該保險年度末ニ於  
ケル責任準備金ヨリ特定ノ金額ヲ控除シタル殘額トス(本節ノ六參照)此控除ス  
ヘキ金額ハ費用ヲ表スルノ外解約者ハ概ネ強壯者ニシテ解約ノ結果弱者ヲ殘  
存セシムルヲ以テ之ヨリ生スル保險者ノ損害ヲ賠償セシムルノ意味ヲモ有ス  
トスル說アリ(所謂 Theorie der Antiselektion)

○上述セル保險契約ノ變更ノ性質ニ付テハ之ヲ以テ解約ト新ナル保險料拂濟  
保險契約ノ締結トノ併合ナリト觀察スル學說ナキニ非サレトモ此場合ニ於テ  
ハ更ニ身體検査ヲ爲シテ新契約ヲ締結スルニ非ス最初ノ契約ニ基キ保險契約  
者一方ノ意思ニ因リテ其變更ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ保險金額ノ減少ヲ目  
的トスル保險契約ノ變更ト觀察スルヲ正當トスヘシ

保險契約者ノ任意解約ヲ認ムル以上ハ契約者カ保險料ヲ支拂ハサル場合ニ  
強制シテ之ヲ取立ツルコトヲ認ムルハ無用ナルヲ以テ我邦保險會社ノ約款ハ

多數國ニ於ケル實例ニ倣ヒ保險料ヲ拂込マヌシテ一定ノ猶豫期間ヲ經過シタ  
ルトキハ保險契約ハ當然其效力ヲ失フモノトシ(註一)此場合ニ於テモ亦解約返  
戻金ヲ拂戻スヘキモノト爲セリ

〔註一〕此點ニ關スル獨逸保險契約法ノ規定(三九)ハ我邦ノ約款トハ其主義ヲ異ニシ保險契約  
ノ失効ヲ認メス瑞西保險契約法(二一)ハ保險料不拂ノ場合ニ於テ保險者カ之ヲ請求セサル  
トキハ當然解約シタルモノト看做シ居レリ是レ結果ニ於テ略ホ我邦ノ約款ト同様ナリ尙  
ホ我邦ニ於テ保險料不拂ニ因ル失効後契約ノ復活ヲ認ムルコトハ後ニ説明スル所ノ如シ  
(本章第七節ノ五參照)

保險證券貸  
付ヲ爲ス義  
務

○八) 保險者ハ約款ノ規定ニ從ヒ保險契約者ノ請求ニ因リ解約返戻金ノ範圍内  
ニ於テ貸金ヲ爲スヘキコトヲ約スルコト稀ナラス此場合ニ於テハ保險契約者  
ハ貸付ヲ受クル權利(Droit d'emprunt)ヲ有シ保險者ハ貸付ヲ爲ス義務ヲ負フモノ  
タリ而シテ此貸付ハ保險證券ニ對シテ爲サルノ故ヲ以テ之ヲ保險證券貸付  
Polizendarlehen, Beleihung der Polze, policy loan, loan on policy)ト云フ(保險業法施行規  
則八參照)

保險證券貸付ヲ爲シタル場合ニ保險事故發生シタルカ又ハ其他ノ事由ニ因

生命保險 保險者ノ義務



リテ保險契約カ消滅シタルトキハ保險者ハ約款ノ規定ニ依リ其支拂フヘキ保  
 險金額又ハ解約返戻金ヨリ貸付金及ヒ利息額ヲ控除シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘ  
 キモノタリ此場合ニ於テ保險者カ自己ニ對スル請求權上ニ權利質權ヲ有スル  
 モノノ如ク觀察スル學者ナキヲ保セサルモ寧ロ簡單ニ保險者カ契約ニ因リ豫  
 メ差引計算ヲ約シタルモノト解シテ可ナルヘク保險金額又ハ解約返戻金ノ請  
 求權者カ破産セル場合ト雖モ保險者ハ相殺權ヲ有スルヲ以テ(舊商九九五)實際  
 上何等ノ支障ヲ生セサルヘシ唯他人ノ爲メニスル保險ノ場合ニ於テ保險者ハ  
 其保險契約者ニ對スル貸金返還請求權ヲ以テ保險金受取人ニ對抗スルコトヲ  
 得ルヤ否ヤノ問題ヲ生スヘシト雖モ此場合ニハ保險金受取人ノ權利ハ約款ノ  
 規定ニ從ヒ豫メ制限セラレタルモノト觀察シテ可ナリ

(九) 保險金額支拂ノ義務、保險料返還ノ義務及ヒ被保險者ノ爲メニ積立テタル  
 金額拂戻ノ義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(四三二ノ二、四  
 三三、四一七)

短期時効

保險者ノ權利

### 第三節 保險者ノ權利

告知義務違反  
 反ノ場合ニ  
 於ケル解除  
 權

(二) 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ  
 重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保  
 險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ  
 之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス(四二九)是レ所謂告知義務ニ關スル規定  
 ニシテ其性質條件及ヒ義務違反ノ場合ニ於ケル制裁等ハ總テ損害保險ニ於ケ  
 ル告知義務ニ付キ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ(四二九、三九九ノ二、三九  
 九ノ三)茲ニ反覆セス(第二章第一節第四款ノ一參照)(註一)唯損害保險ト異レル一  
 點ハ生命保險ニ於テハ保險契約者ノ外被保險者モ亦告知義務者タルニ在リ

(註一) 生命保險ノ告知義務ニ關スル判例ハ極メテ多シ以下其大審院民事判決錄ニ掲ケラレタ  
 ルモノヲ舉示セントス

一 被保險者ノ病症ハ生命ノ危險ヲ測定スルニ緊要ノ關係アルモノハ之ヲ告知スヘク其病  
 症ハ一定セラルヘキモノニ非ス(一、二輯八〇六頁)

二 被保險者カ醫テ他ノ生命保險會社ニ申込ヲ爲シ診査ヲ受ケタル事實ハ重要ナル事實ナ  
 生命保險 保險者ノ權利



- 三 診査醫ノ知了セル事實ハ保險者モ亦知リ得ヘキ状態ニ在ルモノトス(二三輯四八三頁)
- 四 危險測定ニ關係ナキ職業ヲ詐リタル場合ニハ第四百二十九條ノ適用ナシ又人違若クハ詐欺ノ申込ノ場合ニハ民法ノ通則ニ依リ契約ハ無効ナルカ若クハ取消シ得ヘキモノナリ又被保險者カ嘗テ他ノ會社ヨリ拒絕セラレタルハ重要ナル事實ニ屬スルモ他ノ會社ニ承諾セラレタルハ重要ナル事實ニ屬セサルモノトス(二三輯九三九)
- 五 第四百二十九條ハ之ニ對スル別段ノ意思表示ヲ爲シ重要ナル既往症ヲ重要ナラサル事實トシ又ハ重要ナル事實トシ其不告知ノ結果ニ付キ該規定ト異レルル定ヲ爲スコトヲ妨ゲサルモノトス(二〇二五頁)
- 六 重要ナル事實ノ告知ニ關シ詐欺ノ行爲アリタル場合ト雖モ第四百二十九條第一項但書ノ適用アルトキハ民法ノ規定ニ依リ契約ヲ取消スヘカラサルモノトス(一七輯八五頁)(第二章第一節第四款ノ一註六參照)
- 七 保險醫ノ過失ノ有無ハ普通開業醫ノ發見シ得ルヲ常トスル病症ヲ看過セルヤ否ニ依リテ定ムヘク又保險醫ノ過失ハ保險者ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス(一八輯四九二頁)
- 八 重要ナル事實ハ被保險者ノ生命上ノ危險測定ニ關スルモノナルヲ以テ他ノ事項ニ關スルモノハ如何ニ重大ナルモ第四百二十九條ノ適用外ニ在リ(一九輯一八五頁)
- 九 被保險者ノ血族殊ニ尊屬親ニ遺傳的疾ノ存スルヤ否又ハ其健否死亡年齡死因ノ如何等ハ重要ナル事實又ハ事實ニ該當スルモノトス(一一輯四八七頁)

十 結核病腦溢血ノ如キハ其輕重如何ヲ問ハス重要ノ事實ニ屬スルモノナリ(一一輯一〇四頁)

十一 保險醫カ健康診斷上爲シタル過失ハ保險者ニ對シテ其效力ヲ生シ醫師カ知リ又ハ知リ得ヘカリシ事項ハ保險者カ自ラ知リ又ハ知リ得ヘカリシ事項トシテ保險者其責ニ任セサルヘカラス而シテ右ノ效果ヲ生スルニ付テハ其保險醫カ保險者ノ使用人タルト受任者タルトニ因リテ差異ナキモノトス(一一輯一四四〇頁)

生命保險會社ノ約款ニ於テハ保險申込ノ後第一回保險料拂込前ニ被保險者ノ身體ニ異常ヲ生シ其他重要ナル事項ニ付キ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ會社ニ告知スヘキモノトシ之ニ關シ會社ノ承諾ヲ得スシテ第一回保險料ヲ拂込ミタルトキハ告知義務違反ノ場合ト同一規定ニ從フヘキモノトス是レ即チ約款ノ規定ニ依ル告知義務ノ延長ニ外ナラス

生命保險會社ノ約款ニ於テハ又保險申込書ニ記載セル被保險者ノ年齢ニ錯誤アリタル場合ニ付キ特別規定ヲ設ケ實際ノ年齢カ會社ノ保險料表ニ掲ケタル年齢ノ範圍外ナリシトキハ契約ヲ無効トシ保險料ヲ拂戻スヘク、錯誤ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ多カリシトキハ保險料ノ差額ヲ拂戻シ將來ノ保險料ヲ更正



スヘク又錯誤ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ少カリシトキハ保險料ノ不足額ニ利息ヲ附シテ徵收シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘク若シ其以前ニ保險事故カ發生シタルトキハ保險料不足額ノ割合ヲ以テ保險金額ヲ削減スヘキモノト定ムルヲ常トス是レ即チ告知義務ニ關スル規定ノ例外ヲ定メタルモノニシテ該義務ニ關スル規定ハ年齢ノ錯誤ニ付テハ全然其適用ナキモノト解スヘシ獨瑞保險契約法(獨一六二、瑞七五)ノ如キハ年齢ノ錯誤ニ關スル特別規定ヲ設ケテ告知義務ニ關スル規定ノ適用ヲ除外セリ

保險料請求

(二) 保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フモノトス他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者(註一)ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス(四三三、四〇一、四〇六)又保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(四三三、四〇〇)

〔註一〕 第四百六條ニハ被保險者トアレトモ他人ノ爲メニスル生命保險ニ在テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ即チ其他人ナルヲ以テ同條ヲ準用スルニ當テハ其被保險者トアルヲ保險金ヲ受取ルヘキ者ニ改ムルコトヲ要スルヲ論テ疑ハス

生命保險契約ハ長期ニ亘ルヲ常トスルカ故ニ保險料ノ支拂ハ一時拂ニ依ルコト稀ニシテ多クハ分割拂ノ方法ニ依ルモノタリ其結果終身保險ニ於テハ保險料ハ被保險者死亡ノ年度マテ連續シテ拂込ムヘキモノナレトモ時ニ有限拂込(limited premium)ノ方法ヲ採リ特定年限内ニ限リテ之ヲ拂込ムヘキモノト定ムルコトナキニ非ス尙ホ多數ノ保險會社ハ一年度分ノ保險料ヲ更ニ分割シテ拂込ムコトヲ認メタリ此場合ニ於テ保險契約消滅ノ事由發生シタルトキハ其保險年度ノ保險料中未拂込分ヲ一時ニ拂込ムヘキモノトス蓋シ一年ヲ以テ保險料期間ト爲シタルモノナレハナリ第二章第一節第一款ノ三及ヒ第八款ノ五參照)

保險料不拂ノ場合ニ於テ約款ノ規定ニ依リ契約カ其效力ヲ失フヘキモノト定メラルルコトハ既ニ説明シタル所ナリ(本章第二節ノ七參照)其他ノ點ニ付テハ損害保險ニ關スル説明ヲ參考スヘシ(第二章第一節第四款ノ二參照)



擔保請求權

三 保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ保險料全部ノ支拂ナカリシトキハ保險者ハ之ニ對シ相當ノ擔保ノ供與ヲ請求スルコトヲ得(四三三、四〇五三)但此規定ハ生命保險ニ付テハ實際上決シテ其適用ナキモノトス何トナレハ生命保險ノ保險料ハ強制シテ之ヲ徵收スルコトナケレハナリ

保險契約者等ノ通知義務

四 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス(四三二)又保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ著シク變更又ハ増加シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ之ヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得(四三三、四一一、二)尙ホ第四百十一條ノ適用範圍如何ニ付テハ後ニ説明スル所ヲ參考スヘシ(本章第六節ノ二參照)

保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者死亡ノ通知ヲ怠リタル場合ノ制裁ニ付テハ何等ノ規定ナシト雖モ損害賠償ノ責アルコト言ラ埃タサ

ル所ナリ

參考書——法學新報二五卷四、五號所載青山法學士論文

短期時效

五 保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス(四三三、四一七)

### 第四節 他人ノ生命ノ保險

他人ノ生命ノ保險ノ義

一 他人ノ生命ノ保險 (Versicherung auf fremdes Leben, assurance sur la vie d'un tiers)ヲ無制限ニ認ムルトキハ利害關係ナキニ拘ハラズ濫ニ他人ノ生命ヲ保險ニ付シ賭博類似ノ契約ヲ爲ス弊害ヲ生スヘク且保險金額ヲ得ル爲メニ其被保險者ノ生命ヲ害スルカ如キ危險ヲ生スルコトアルヘシ故ニ諸國法概ネ該保險ノ有效ナル爲メニ必要ナル條件ヲ規定ス而モ其立法主義ハ甚タ區區タリ

一 英法ニ於テハ他人ノ生死ニ關シ金錢上ノ利益ヲ有スル者ニ非サレハ其他人ノ生命ノ保險ヲ契約シ得サルモノトス (Gambling Act, 14 Geor. III c. 48) 米國ニ於テハ成文法ナキモ判例ニ依リ一般法トシテ英法ト同様ノ旨趣ヲ

生命保險 他人ノ生命ノ保險



認メ居レリ我舊商法(六七八)ノ規定ハ寧ロ英米法ニ近キモノトス

二 自一八七四年法四一三(蘭三二〇)伊四四九二(葡四五六)等ノ諸國法ハ保險契約者カ被保險者ノ生死ニ關シ金錢愛情其他或利益ヲ有スルコトヲ必要トシ利益ナキ場合ニハ保險契約ヲ無効トス

三 獨逸保險契約法(一五九)及ヒ瑞西保險契約法(七四)ハ利益ノ觀念ヲ排除シ被保險者ノ同意ヲ必要トス是レ主トシテ從來普國法ノ採用セシ主義ニ據リタルモノナリ

四 尙商法(四九九)ハ利益及ヒ同意ノ何レカ存在スルコトヲ要件トセル折衷主義ヲ採レリ

我商法ハ從來上述セル各主義ヲ離レ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ範圍ヲ被保險者其相續人又ハ親族ニ限定スル一種特異ノ主義ヲ採リタレトモ其結果ハ例ヘハ債權者カ其債務者ノ生命ヲ保險ニ付スルカ如キ實際上必要ナル場合ヲ認メ得サルノ不便アリタルカ故ニ改正法ヲ以テ之ヲ改メ獨瑞二國法ト同シク同意主義ヲ採ルニ至レリ但獨瑞法ニ於テハ被保險者ノ同意ハ契約締結當時ノ要

保險契約ニ  
同意ヲ要ス  
ル場合

保險契約上  
權利ノ讓  
渡ニ同意  
要スル場  
合

件タルニ止マリ保險金額ヲ讓渡ス場合ニハ其同意アルコトヲ要セサルモ斯ノ如キハ同意ヲ要件トシタル旨趣ヲ貫徹スルニ足ラサルヲ以テ改正法ハ斬新ナル考案ヲ加味シ右ノ讓渡ニ付テモ亦被保險者ノ同意ヲ要件ト爲セリ

參考書——法學新報一四卷四號所載岡野博士「他人ノ生命ニ有スル利益ヲ論ス」

(二) 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス(四二八)故ニ被保險者ノ同意ヲ要件トスル場合ハ被保險者ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ契約即チ死亡保險又ハ混合保險ニ限ルモノニシテ純然タル生存保險ニ付テハ其同意ヲ必要トセス蓋シ生存保險ニ於テハ被保險者ノ生命ニ危險ヲ生スル虞ナケレハナリ又被保險者カ保險金受取人ナルトキハ其同意アルコトヲ要セス蓋シ此場合ニ於テモ被保險者ノ生命ニ危險ヲ生スル虞少ク且賭博類似ノ契約ニ陥ルコトナケレハナリ

(三) 被保險者ノ同意ヲ要スル契約ニ於テ之ニ因リ生シタル權利ノ讓渡ヲ爲ス

生命保險 他人ノ生命ノ保險



ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス(四二八)被保險者カ保險金受取人タル場  
合ニ於テ被保險者ヨリ其權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ(四  
二八三末段)

被保險者ノ  
同意ノ性質  
方式等

同意ハ保險契約ノ  
成立ノ要件ナリ  
但シテ其性質ハ  
方式等ニ依リテ  
異ナリ

(四) 上述セル場合ニ於テ保險契約ノ締結又ハ權利ノ讓渡ニ必要ナル同意ハ保  
險契約又ハ債權讓渡契約ノ成立要件ヲ成スモノト解スヘカラス寧ロ其契約ニ  
効力ヲ賦與スル要件タルモノト解スルヲ相當トス故ニ其同意ハ契約ト離レテ  
存在スル一箇ノ法律行為ナレトモ主タル法律行為ナル契約ニ從屬シテ存在ス  
ルモノナレハ之ヲ補助的法律行為ト稱シテ可ナリ即チ此點ニ於テハ其同意ハ  
無能力者ノ法律行為ニ付テ必要ナル法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意若クハ許  
可ト同一ノ性質ヲ有スルモノトス(拙著人法人及物一一二頁以下參照)  
被保險者ノ同意ハ單獨行為ナルコト言フ莫クサレトモ受領ヲ要スル單獨行  
爲ニシテ其意思表示カ契約當事者ノ何レカニ到達スルコトヲ必要トス唯法律  
上其形式ヲ定メサルヲ以テ書面、口頭其他ノ方法ニ依ルコトヲ得ヘシ實際ニ於  
テハ保險契約締結ノ場合ニハ被保險者ヲシテ保險申込書ニ連署セシムルヲ常

トス而シテ其同意ハ事前的ノモノタルコトヲ必要トシ事後ノ同意タルコトヲ  
得サルハ我法律ノ用語上明白ナリト云フヘシ又其同意ハ概括的タルヘカラス  
箇箇ノ契約ニ付キ之ヲ必要トスルコトハ立法ノ精神ニ照シテ明カナリ又被保  
險者ハ契約成立ノ時マテハ任意ニ其同意ヲ撤回スルコトヲ得ヘク撤回ノ形式  
方法ハ總テ同意自體ニ付キ上述シタル所ト同シ

被保險者カ未成年者タル場合ニ於テハ同意ヲ爲スニ付キ更ニ其法定代理人  
ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルハ民法第四條ノ解釋上明白疑ヲ容レサル所ナリ但  
民法第六條ノ規定ニ依リ營業ヲ許サレタル未成年者カ其營業ノ爲メニ必要ナ  
ル行為トシテ同意ヲ爲スハ此限ニ在ラス而シテ被保險者カ未成年ナル場合ニ  
於テ其法定代理人カ之ニ代リテ被保險者タル同意ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ  
付テハ多少ノ疑問ヲ存セサルニ非サレトモ其法定代理人カ保險金額ヲ受取ル  
ヘキ者タル場合ノ外縱令自己カ保險契約者タルトキト雖モ尙ホ原則トシテハ  
被保險者タル同意ヲ爲スノ權限アリト解スルヲ妥當トス(民八七八、八八八、九一  
五四號參照)



被保險者カ禁治産者タル場合ハ實際上稀有ナルヘキモ此場合ニ於テハ被保險者自身ハ縱令法定代理人ノ同意アルモ法律行為ヲ爲シ得サルモノナルヲ以テ拙著人法人及物一四七頁以下及ヒ私法論文集二卷所載後見人ノ同意ヲ得テ爲シタル禁治産者ノ行為反對法學協會雜誌三二卷一三五頁以下乾博士論文法定代理人カ常ニ之ニ代リテ同意ヲ爲スヘキモノタリ又被保險者カ妻若クハ準禁治産者タルトキハ其同意ハ民法第十二條又ハ第十四條ニ列擧シタル行為ノ何レニモ該當セサレハ夫又ハ保佐人ノ許可若クハ同意ナクシテ單獨ニ被保險者タル同意ヲ爲スコトヲ得ヘシ

參考書——拙著私法論文集一卷所載他人ノ生命ノ死亡保險ニ於ケル被保險者ノ同意ニ付テ

### 第五節 他人ノ爲メニスル保險

(一) 他人ノ爲メニスル保險契約ノ有效ナルコト及ヒ其法律上ノ性質如何ニ付テハ既ニ總論中ニ之ヲ述ヘタリ(第一章第三節ノ三)其他損害保險ニ於ケル他人

他人ノ爲メニスル保險

保險契約者ノ地位

ノ爲メニスル契約ニ付テ述ヘタル所ヲ參考スヘシ(第二章第一節第五款)

他人ノ爲メニスル保險ニ於テハ契約者ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ契約ヲ爲ス者ナルカ故ニ保險契約者トシテノ權利義務ハ自ラ之ヲ有スルモノタリ從テ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ者ニシテ(四三三・一、四〇一)保險金受取人ハ原則トシテ保險料支拂ノ義務ヲ負フコトナシ(例外四三三・一、四〇六)而シテ保險料ノ返還ヲ受クルノ權利及ヒ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ受クルノ權利ハ亦保險契約者ニ屬シ保險金受取人ハ保險事故發生セル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ權利ヲ有スルニ過キス

(二) 他人ノ爲メニスル生命保險ニハ保險契約者カ自己ヲ被保險者トシテ契約ヲ爲ス場合、保險金受取人ヲ被保險者トシテ契約ヲ爲ス場合及ヒ自己又ハ保險金受取人ニ非サル者ヲ被保險者トシテ契約ヲ爲ス場合アリ(第一章第三節ノ一参照)此後ノ二場合ハ即チ他人ノ爲メニスル保險ニシテ同時ニ他人ノ生命ノ保險ナリトス

上述セル三場合ノ何レニ於テモ保險契約者ハ保險金受取人ヲ指定スルコト

生命保險 他人ノ爲メニスル保險

他人ノ爲メニスル生命保險ノ場合



ヲ要ス若シ之ヲ指定セサルトキハ保險契約者カ保險金受取人ナルヲ以テ他人ノ爲メニスル保險ヲ生スルコトナシ(本章第二節ノ一參照)

(三) 他人ノ爲メニスル保險ニ於テハ其保險金受取人ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス(四二八ノ二) 本文故ニ保險金受取人ハ別ニ其契約ノ利益ヲ享受スヘキ旨ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セスシテ(民五三七參照) 保險事故發生シタル場合ニ保險金額ノ支拂ヲ請求スル權利アリ其權利カ契約ノ效果トシテ直チニ發生スルモノニシテ保險契約者ノ權利ヲ讓受クル觀念ニ非サルコトハ損害保險ニ付テ述ヘタル所ト同シ

保險金受取人ノ權利ハ保險契約ニ因リ直チニ發生スルモノニシテ其相續又ハ讓渡ヲ認メラルルモノナレトモ法律ハ保險金受取人カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ付テ特別規定ヲ設ケ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金受取人ヲ指定スルコトヲ得ヘキモノトシ保險契約者カ其指定權ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金受取人ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト爲スヘキコトヲ定メタリ(四二八ノ三) 故ニ此場合ニ於テ保險金受取人ノ

權利ハ保險契約者ノ死亡スル迄ノ間ハ確定セサルモノト云フヘク從テ其確定セサル間ハ自由ニ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス(民四六六ノ一參照)

(四) 保險契約者ハ他人ヲ以テ保險金受取人トスルト同時ニ別段ノ意思ヲ表示シテ保險金受取人ヲ指定變更(註一)スル權利ヲ留保スルコトヲ得ヘシ(四二八ノ二) 但書此場合ニ於テ契約者カ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金受取人ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス(四二八ノ二) 二

(註一) 第四百二十八條ノ二第二項ニハ指定又ハ變更スル權利トアリ蓋シ保險金受取人カ死亡シタル場合ニ於テ新ニ之ヲ指定スルコトヲ指定ト云ヒ其生存中ニ於テ他人ヲ指定スルコトヲ變更ト云フノ旨趣タルヘシ(四二八ノ三參照) 然レトモ保險金受取人カ死亡シタルトキハ其相續人カ一應該權利ヲ相續スルモノニシテ此場合ニ別人ヲ指定スルハ即チ其相續人ヲ他人ニ變更スルノ觀念ニ外ナラス若シ他人ヲ指定セサル間ニ保險事故發生シタルトキハ相續人ハ當然保險金額ヲ受取ルヘキモノナリ(法學志林一六卷一一號九三頁以下拙稿參照) 故ニ指定權ト變更權トハ畢竟同一觀念ヲ表示セルモノトス是レ余ノ二者ヲ合併シテ故ラニ指定變更ト稱スル所以ナリ

保險契約者カ別段ノ意思表示ニ依リ保險金受取人ヲ指定變更スル權利ヲ留



保シタル場合ニ於テハ其受取人ノ權利カ確定セサル間ハ任意ニ之ヲ他人ニ讓渡シ得サルユト本節ノ三ニ説述シタル所ト同シ

約款ノ規定ニ依ル指定保變更權ノ留

五 以上説明シタルカ如ク商法ノ規定ニ依レハ保險契約者カ別段ノ意思表示ヲ爲ササル限ハ保險金受取人ヲ指定變更スル權利ヲ有セサルモノトシ且其權利ヲ留保スルモ死亡ノ場合ニ於テハ相續人其他ノ承繼人ニ承繼セラレサルモノトス然レトモ他人ノ爲メニスル保險ハ多クハ無償ニテ他人ニ利益ヲ與ヘントスル旨趣ニ基クモノナルヲ以テ保險契約者ハ指定變更權ヲ留保スルヲ常トスヘク又保險契約者死亡シタル場合ニ於テ其承繼人カ指定變更權ヲ有セサルトキハ寧ロ解約ヲ爲シテ解約返戻金ヲ自己ニ收ムルノ途ニ出ツルコト居多ナルヘシ是ヲ以テ生命保險會社協會ノ模範約款ニ於テハ一般的ニ保險契約者又ハ其承繼人カ保險金受取人ヲ指定變更スル權利ヲ有スヘキ旨ヲ定メタリ  
或ハ約款ニ依リ保險契約者ノ承繼人カ指定變更權ヲ有スヘキコトヲ定ムルハ第四百二十八條ノ二第二項ノ規定ニ反スルヲ以テ其效力ナシト論スル者アルヘク多數會社ノ約款ニ於テハ此理由ニ基キ上掲セル模範約款中ノ承繼人ナ

ル文字ヲ削除セリト雖モ法律ハ指定變更權留保ノ範圍ニ付キ別ニ制限ヲ加ヘスシテ保險契約者ノ表示シタル別段ノ意思ニ從フヘキモノトシ(四二八ノ二)且第四百二十八條ノ二第二項ノ規定ハ強行規定タルヘキ理由ナケレハ保險契約者カ單ニ指定變更權ヲ留保シタルトキハ同項ノ規定ニ依ルヘキモ特ニ自己ノ承繼人ニ付テ亦該權利ヲ留保シタルトキハ其意思ニ從フヘキモノト解スルヲ妥當トス若シ然ラストスレハ保險契約者ノ承繼人ハ指定變更權ヲ有スルコト能ハス而モ解約權ハ之ヲ有スルコトト爲リ徒ニ解約ヲ頻繁ナラシムルノ弊害ヲ生スヘキナリ立法論トシテハ寧ロ商法ノ規定ヲ變更シテ前掲模範約款ノ如クナラシムルヲ可トセム

上述セル約款ノ規定ニ依リ保險契約者又ハ其承繼人ハ保險金受取人ヲ指定變更スルコトヲ得ヘシト雖モ保險事故發生シタル後ニ於テ其權利ヲ行フコトヲ得ヘカラサルヤ論ヲ竣タス保險金受取人ハ保險事故ノ發生ニ因リ其特定金額ノ支拂ヲ請求スル權利ヲ確定的ニ取得スルヲ以テ指定變更權ハ當然消滅ニ歸スヘキナリ



指定變更權  
行使ノ要件  
及ヒ其權利  
ノ性質

六 保險契約者カ上叙ノ指定變更權ヲ行使スルニハ他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ヲ受取ルヘキ保險契約ニ於テハ其被保險者ノ同意アルコトヲ要ス(四二八ノ四二)蓋シ之ニ因リテ保險金受取人ニ變更ヲ生スルコト恰モ其者ノ權利ヲ他人ニ讓渡スト同一ノ結果ヲ生スルヲ以テナリ(本章第二節ノ二及ヒ第四節ノ三參照)其同意ノ方法、性質等ハ他人ノ生命ノ保險契約ニ必要ナル同意ニ付テ述ヘタル所ト略ホ同様ナルヲ以テ之ヲ再說セス

保險契約者カ契約後保險金受取人ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス(四二八ノ四二)蓋シ指定變更ノ結果ハ恰モ保險金額ヲ受取ルヘキ權利ノ讓渡アリタルト同シク保險者ハ新ニ指定變更セラレタル者ニ對シテ保險金額ヲ支拂フヘキ責ヲ負フニ至ルヘケレハナリ(民四六七參照)

保險契約者ノ有スル指定變更權ハ單獨的ニ之ヲ行使シテ權利關係ヲ變更シ得ヘキモノナルヲ以テ形成權ノ一種ニ屬スルモノト云フヲ得ヘシ(拙著人法人及物七二頁參照)

保險契約ノ變更

特別危險ノ消滅

危險ノ變更  
増加

### 第六節 保險契約ノ變更

(一) 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得(四三三、四〇〇)例ヘハ危險ナル職業ニ従事スルノ故ヲ以テ保險料ニ特別ノ割増ヲ付シタル場合ニ於テ其職業ヲ廢止セルトキノ如キハ本條ノ適用アルモノトス其他本條ノ解釋ニ付テハ損害保險ニ付テ説明シタル所ヲ參考スヘシ(第二章第一節第七款ノ二)

(二) 保險期間中危險カ著シク變更又ハ増加シタル場合ニ於テ其變更又ハ増加ノ原因カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ナルト否トニ依リ或ハ當然契約ノ失效ヲ來シ或ハ保險者カ將來ニ向テ之ヲ解除シ得ルコト總テ損害保險ニ付テ説明シタル所ト同一ナルカ故ニ(四三三、四一〇、四一一)茲ニ之ヲ贅セス(第二章第一節第七款ノ三參照)

生命保險ニ於テハ危險ハ其性質上常ニ多少ノ變更ヲ生スヘキモノタリ而モ



其變更カ著シキモノナリヤ否ヤハ判別ゴ苦ムモノナシトセス故ニ獨逸保險契約法(一六四)ノ如キハ當事者カ書面ヲ以テ危險ノ増加ト明約シタル事項ニ非サレハ保險契約ニ影響ヲ及ホササルモノトセリ立法論トシテハ此主義ニ依ルヲ可トス我邦保險會社ノ約款ニ於テモ第一回保險料拂込ノ時ヨリ特定ノ期間内ニ被保險者ノ職業ノ變更又ハ外國旅行アルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ遲滯ナク之ヲ會社ニ通告スヘク會社カ之ニ因リテ危險ニ著シキ増加アリト認メタルトキハ將來ニ向テ契約ヲ解除シ又ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得ヘク若シ其通知ヲ爲サス又ハ特別保險料ヲ拂込マサルトキハ契約ハ其效力ヲ失フヘキ旨ヲ定ムルモノ多シ斯ノ如キ約款ノ規定アル場合ニ於テハ其期間後ニ於ケル職業ノ變更又ハ外國旅行ニ付テハ少クトモ商法第四百十條又ハ第四百十一條ノ規定ノ適用ナキモノト解スヘク又內國旅行ニ付テハ縱令危險ノ著シキ増加アリトスルモ亦少クトモ右二條ノ適用ナキモノト解スヘシ或ハ更ニ一步ヲ進メテ約款ノ規定ハ全然商法第四百十條又ハ第四百十一條ノ規定ノ適用ヲ排除スルモノナリトノ解釋論ヲ生スヘキモ此點ニ付テハ多少ノ疑ヲ存スル

保險契約當事者ノ破産

モノアリ

(三) 保險者又ハ保險契約者ノ破産ノ場合ニ付テハ損害保險ニ關スル第四百五條及ヒ第四百六條ノ準用アリ(四三三)而シテ其實際ニ適合セサル規定ナルコトハ既ニ損害保險ニ付テ述ヘタル所ナリ第二章第一節第七款ノ五參照生命保險ハ概ネ長期ニ亘ル契約ナルカ故ニ保險者ノ破産ノ場合ニ於テ其契約ヲ消滅セシムル必要ハ損害保險ニ比較シテ一層大ナリト云フハシ(獨私營保險事業法六一六三參照)又保險料ノ支拂ナキトキハ契約カ當然其效力ヲ失フモノト定ムルヲ通常トスルヲ以テ本章第二節七第三節ノ二參照保險契約者ノ破産ノ場合ニ付キ保險者ノ解除權ヲ認ムルノ要ナシ故ニ第四百五條ハ生命保險ニ付テハ極メテ不適當ナル規定ト云ハサルヲ得ス

### 第七節 保險契約ノ消滅

(一) 生命保險契約カ契約ノ一般消滅原因ニ因リテ消滅スヘキコト損害保險ニ於ケルト同シ第二章第一節第八款ノ一參照(註一)然レトモ生命保險ニハ被保險

一般的消滅原因

保險契約ノ消滅



南島民長石... 保險契約ノ消滅

利益ノ觀念ナケレハ被保險利益ノ消滅カ保險契約ノ消滅ヲ來スコトナキヤ言ヲ埃タサル所ナリ

〔註一〕本節ニ於テハ主トシテ商法上ノ特別消滅原因ニ付テ説明スベシ此他保險業法カ保險會社解散ノ場合ニ付キ保險契約ノ消滅ヲ認ムルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ(第一章第四節第二款ノ四參照)

法律上當然ノ失効

〔二〕保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ第四百三十三條第一項及ヒ第四百十條ノ規定ニ依リ其效力ヲ失フヘキコト既ニ述ヘタル所ノ如シ(前節ノ二參照)

保險者ノ解除

〔三〕保險者カ第四百二十九條第四百五條第三項及ヒ第四百十一條第一項ノ場合ニ於テ〔註一〕其一方ノ意思表示ニ因リ保險契約ヲ解除シ得ヘキコトハ損害保險ニ付テ説明シタルト同シ(第二章第一節第八款ノ三參照)

保險契約者ノ解除

〔註一〕第四百二十九條ニ付テハ本章第三節ノ一、第四百五條ニ付テハ同第六節ノ三、第四百十一條第一項ニ付テハ同第六節ノ二ニ參照スヘシ

〔四〕保險契約者カ第四百五條第一項及ヒ第四百七條ノ場合ニ於テ〔註一〕其一方

的ノ意思表示ニ因リ保險契約ヲ解除シ得ヘキコトハ損害保險ニ付テ説明シタルト同シ(第二章第一節第八款ノ四參照)

〔註一〕是等ノ規定ニ依リ解除ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ヲ負フコトハ既ニ述ヘタル所ナリ(本章第二節ノ六參照)而シテ保險契約者カ第四百七條ノ規定ニ依リ保險者ノ責任ノ始マル前ニ於テ契約ヲ解除シ而モ積立金ノ拂戻ヲ受クルカ如キ場合ハ實際上殆ト絶無稀有ナルヘシ

以上ニ掲ケタル法定ノ場合ノ外保險契約者カ約款ノ規定ニ依リ何時ニテモ將來ニ向テ保險契約ヲ解除スルノ權利(解約權)ヲ有スルコトハ既ニ說述セル所ナリ(本章第二節ノ七參照)

〔五〕保險契約者カ保險料ノ拂込ヲ爲サスシテ一定ノ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ約款ノ規定ニ依リ保險契約ハ其效力ヲ失フヘキコト既ニ說述シタルカ如シ(本章第二節ノ七參照)

上述セル保險契約ノ失効ノ場合ニ於テ保險契約者カ延滞保險料ヲ提供シ契約ノ復活ヲ請求スルトキハ保險者ハ之ヲ承諾スルヲ以テ當事者雙方ノ爲メニ利益ナリトスヘシ何トナレハ保險料額ハ契約當時ノ被保險者ノ年齢ニ依リテ

保險料不拂ニ因ル失効及ヒ契約ノ復活



遞加スルカ故ニ前契約ヲ消滅セシメ更ニ新契約ヲ締結スルトキハ保險料ハ前契約ニ於ケルヨリモ高額ト爲ルヘク又或場合ニハ被保險者ノ年齢カ所定ノ制限ヲ超ユルニ至リタル爲メ新契約ヲ締結シ能ハサルコトアルヘク(本章第三節ノ一參照其結果保險契約者及ヒ被保險者ニ不利益ヲ與ヘ而モ保險者亦保險契約ヲ失フノ損害ヲ受クヘケレハナリ故ニ保險會社ノ約款ニ於テハ契約復活ノ方法ヲ認メサルモノナシ

保險會社ノ約款ニ於テ復活ノ方法ヲ認ムル規定ハ大體左ノ如シ即チ保險契約失效後一年內ニ於テ被保險者ノ身體ニ異常ナキコトヲ證明スル書類ヲ提出シテ契約ノ復活ヲ請求スルトキハ會社ハ延滞保險料ヲ領收シテ之ヲ承諾スヘキモノトス此場合ニ於テハ約款中ノ告知義務違反ニ因ル契約解除ノ規定及ヒ詐欺ニ因ル契約無効ノ規定ヲ準用シテ復活契約ヲ解除シ又ハ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノタリ

保險契約復活ノ法律上ノ性質ニ付テハ學說一定セス或ハ復活契約ハ前契約ト同一ノ條件ニ依リ新ニ保險契約ヲ締結セルモノニ外ナラスト解スル者アレ

トモ(Roelli 2, 300)此說ニ依ルトキハ前契約ノ瑕疵ハ總テ該契約ノ消滅ト共ニ消滅シ前契約ニ付キ解除又ハ無効ノ原因アルモ復活後ニ於テ之ヲ主張シ得サルノ不都合ヲ生スヘク斯ノ如キハ當事者ノ意思ニ適合セサルコト明白ナレハ前契約ノ消滅ハ解除條件附ニ生シタルモノニシテ有效ナル復活契約ノ締結ニ因リテ前契約カ當初ヨリ消滅セサリシモノト爲ルト解スルヲ妥當トスヘシ即チ此後ノ見解ニ依レハ復活ハ新保險契約ニ非スシテ前保險契約消滅ノ效力ヲ失ハシムル條件タル一種ノ附屬的契約ニ外ナラサルナリ

## 保險法終



# 附 錄

## 第一 火災普通保險約款(日本火災保險株式會社)

- 第一條 當會社ハ此約款ニ從ヒ火災ノ爲メニ保險ノ目的ニ生シタル損害ヲ填補スルモノトス
- 第二條 當會社ノ保險契約ノ責任ハ保險料ヲ領收シタル時ニ始マリ保險契約期間ノ最終日ノ午後四時ヲ以テ終ルモノトス
- 第三條 建物ノ保險ニ於テハ門、圍障、牆壁、物置、納屋其他ノ附屬建物ハ特ニ保險證券ニ明記シタル場合ニアラサレハ保險ノ目的ニ包含セサルモノトス
- 第四條 貨幣、印紙、貴金屬、寶玉、證書、有價證券、書畫、稿本、彫刻物、古器物其他普通價格ヲ有セサルモノハ特ニ保險證券ニ明記シテ保險ヲ爲シタル場合ニアラサレハ保險ノ目的ニ包含セサルモノトス
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス
- 一 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキ
  - 一 保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ保險契約者又ハ其他ノ者ト他ノ保險者トノ間ニ締結シ



タル保險契約カ存在スル場合ニ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ

一 他人ノ爲メニ保險契約ヲ締結スル者カ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ

一 保險契約者又ハ被保險者カ知ルト否トヲ問ハス保險契約ノ當時保險ノ目的既ニ火災ニ罹リ居リタルトキ又ハ火災ニ罹ルヘキ原因既ニ發生シ居リタルトキ

第六條 保險金額カ保險ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第七條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ當會社カ其事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキノ外當會社ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險契約ノ時ヨリ五年又ハ當會社カ解除ノ原因ヲ知りタル時ヨリ一箇月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラズ

第八條 保險契約者又ハ被保險者ニ於テ當會社ノ保險シタル目的ニ付キ重テ他ノ保險者ト保險契約ヲ締結セントスルトキハ豫メ當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

第九條 保險契約者又ハ被保險者ト重テ保險契約ヲ締結シタル事實ヲ知りタルトキモ亦遲滞ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 保險契約者又ハ被保險者カ保險ノ目的ト共ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルトキハ危險ノ増加變更ナキ場合ト雖モ讓渡人讓受人ヨリ遲滞ナク當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

第十一條 當會社ハ保險契約存續中何時ニテモ保險ノ目的ヲ検査スルコトヲ得ルモノトス

第十二條 第八條乃至第十條ニ依リ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ請求スヘキ者カ之ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フモノトス

第十三條 検査ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絕シタルトキハ當會社ハ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第八條乃至第十條ノ承認ノ裏書ヲ請求シタルトキ又ハ第十一條ノ検査ヲ實施シタルトキ當會社ニ於テ危險ニ増加變更アリト認めタル場合ニハ保險契約ヲ解除シ又ハ保險料ヲ増加スルコトアルヘシ

第十五條 保險契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其效力アルモノトス

第十六條 保險ノ目的火災ニ罹リタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ遲滞ナク書面ヲ以テ

度カ増加シ又ハ變更シタルトキハ遲滞ナク當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

保險ノ目的ヲ他ノ場所ニ移轉セントスル場合又ハ保險ノ目的若クハ其旨ノヲ納レタル建物ヲ改築増築又ハ修繕セントスル場合モ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 保險契約者又ハ被保險者カ保險ノ目的ト共ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルトキハ危險ノ増加變更ナキ場合ト雖モ讓渡人讓受人ヨリ遲滞ナク當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

第十一條 當會社ハ保險契約存續中何時ニテモ保險ノ目的ヲ検査スルコトヲ得ルモノトス

第十二條 第八條乃至第十條ニ依リ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ請求スヘキ者カ之ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フモノトス

第十三條 検査ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絕シタルトキハ當會社ハ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第八條乃至第十條ノ承認ノ裏書ヲ請求シタルトキ又ハ第十一條ノ検査ヲ實施シタルトキ當會社ニ於テ危險ニ増加變更アリト認めタル場合ニハ保險契約ヲ解除シ又ハ保險料ヲ増加スルコトアルヘシ

第十五條 保險契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其效力アルモノトス

第十六條 保險ノ目的火災ニ罹リタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ遲滞ナク書面ヲ以テ



之ヲ當會社ニ通知シ十五日以内ニ火災ノ狀況調査及ヒ損害見積書ヲ作り一名以上ノ保證人ト  
連署捺印シテ之ヲ當會社ニ差出スヘシ當會社ヨリ説明證明等ヲ請求シタル事項ニ付テハ遲滯  
ナク正實ニ其説明證明ヲ爲スヘシ

保險契約者又ハ被保險者カ詐欺ノ目的ヲ以テ前項ノ書類又ハ説明證明中ニ不正ノ表示ヲ爲シ  
タルトキハ當會社ハ損害填補ノ責ニ任セス

第十四條 保險ノ目的火災ノ爲メニ損害ヲ生シタルトキハ當會社之ヲ調査シ必要アルトキハ一  
時其目的ヲ保管シ又ハ他ニ移轉スルコトアルヘシ

第十五條 損害ハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ第十三條ノ手續ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ  
之ヲ填補スルモノトス但當會社ニ於テ本項ノ期間内ニ必要ナル取調ヲ終了スルコト能ハサル  
トキ又ハ修繕再築ヲ以テ損害ヲ填補スル場合ハ此限ニ在ラス

第十六條 損害ハ通常通貨ヲ以テ填補スルモノトス但當會社ノ都合ニ依リ現品ノ交付又ハ修繕  
再築等ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第十七條 左ニ掲クル損害ハ當會社填補ノ責ニ任セス

- 一 保險契約者又ハ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタル損害
- 一 火災ノ際保險ノ目的紛失シ又ハ竊取セラレタルヨリ生シタル損害
- 一 保險ノ目的ノ性質、瑕疵又ハ自然ノ消耗ニ因リ生シタル損害

一 原因ノ直接ナルト間接ナルトヲ問ハズ戰爭、暴動、一揆其他ノ事變ノ爲メニ生シタル火災及  
ヒ其延焼其他ノ損害

一 原因ノ直接ト間接トヲ問ハズ地震又ハ噴火ノ爲メニ生シタル火災及ヒ其延焼其他ノ損害  
一 保險ノ目的中ニ存在シ又ハ其目的ニ附屬スル汽罐、汽機其他機關ノ破裂又ハ火藥ノ爆發ノ  
爲メニ生シタル火災其他ノ損害

一 保險契約者又ハ被保險者カ法律命令ニ違反シタルニ因リ生シタル損害

第十八條 動産保險ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ帳簿其他正確ナル方法ヲ以テ損害  
額ヲ證明スルコト能ハサルトキハ其不明瞭ナル部分ニ付テハ當會社ハ損害填補ノ責ニ任セス

第十九條 保險ノ目的火災ニ罹リタル時ニ於ケル其目的ノ價額カ保險金額ヨリ多キトキハ當  
會社ハ目的ノ價額ト保險金額トノ割合ニ依リ損害ヲ填補スルモノトス

保險ノ目的二個以上アルトキハ各個單獨ニ前項ノ割合ニ依ルモノトス  
保險ノ目的ノ價額カ保險金額ヨリ寡キトキハ其價額ヲ限リ損害ヲ填補スルモノトス  
保險契約者又ハ被保險者カ損害ノ防止ニ要シタル費用ハ特約アルニアラサレハ當會社之ヲ負  
擔セズ

第二十條 保險ノ目的カ火災ニ罹リタル時其目的ニ付キ當會社ト同時ニ又ハ時ヲ異ニシテ締結  
シタル他ノ保險契約存在スル場合ニハ當會社ハ各保險者ノ保險金額ノ割合ニ依テ其損害ヲ填



補スルモノトス

第二十一條 保險契約ノ無効失効又ハ解除ノ場合ニ於テハ既ニ受取リタル保險料ハ返還セサルモノトス但當會社ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルトキハ無効ノ場合ハ全額失効解除ノ場合ハ其翌日ヨリ日割ヲ以テ計算シタル保險料ヲ返還スヘシ

第二十二條 保險ノ目的ノ價額又ハ損害ニ付キ當會社ト保險契約者若クハ被保險者トノ間ニ異議ヲ生シタルトキハ雙方ヨリ一名ツ、評價人ヲ選任シ之ヲ評價セシムルモノトス評價人ノ意見一致セサルトキハ評價人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選任シ之ヲ判斷セシムルモノトス

前項ノ判斷ニ對シテハ異議ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第一項ノ評價判斷ニ要スル費用ハ雙方半額ツ、之ヲ負擔スルモノトス

第二十三條 保險ノ目的ノ一部ニ付キ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其損害ヲ填補シタルトキハ保險金額ヨリ之ヲ控除シ其殘額ヲ以テ殘餘ノ契約期間ノ保險金額トス

前項ノ場合ニ於テ其殘額カ保險金額ノ五分ノ一未滿ナルトキハ全部ノ損害ト看做シ保險契約ハ終了スルモノトス

第二十四條 保險契約者及ヒ被保險者ハ當會社ノ利益配當ニ與ル權利ナキモノトス

第二十五條 保險契約ハ期間滿了ノ時之ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニハ保險料ノ領收證ヲ以テ保險契約ノ繼續ヲ證スルモノトス

## 第二 運送普通保險約款(東京海上保險株式會社)

第一條 當會社ハ脱線顛覆、坐礁衝突、沈没火災其他偶然ナル事故ニ因リ陸上又ハ河川湖沼ニ於テ運送中ニ保險ノ目的ニ付キ生スルコトアルヘキ一切ノ損害ヲ填補スルモノトス

第二條 當會社ハ左ニ掲クル損害ヲ填補スルノ責ニ任セス

- 一 戰爭又ハ變亂暴徒、一揆、同盟罷業ニ因リ生シタル損害
- 一 地震、噴火、海嘯又ハ是等ニ隨伴シテ起リタル直接又ハ間接ノ損害
- 一 竊盜又ハ濡露ニ因リテ生シタル損害
- 一 蟲害、鼠害、鈎傷及保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其他自然ノ消耗ニ因リテ生シタル損害
- 一 荷造ノ不完全、荷積ノ不注意、荷造ノ破損、中荷ノ混合ニ因リテ生シタル損害及原因不明ノ損害
- 一 保險契約者若クハ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 一 檢疫又ハ差押其他法令ノ執行ニ因リテ生シタル損害

第三條 保險ノ責任ハ保險ノ目的ヲ運送人又ハ運送取扱人ニ於テ受取リタルトキニ始マリ到着地停車場ニ着シタル後二十四時間ヲ以テ終ルモノトス

船積ノ場合ハ保險ノ目的ヲ本證券記載ノ船ニ積込ミタルトキニ始マリ仕向地ニ着船後二十四時間ヲ以テ終ルモノトス



前二項ノ責任終了時間前ト雖モ運送人又ハ運送取扱人ヨリ保險ノ目的ヲ荷受人ニ引渡シタルトキハ保險ノ責任ハ其時ヲ以テ終了スルモノトス

第四條 當會社ノ承認ヲ得シテ本證券記載ノ運送ノ道筋又ハ方法運送品受取又ハ引渡ノ場所運送人等ヲ變更シタルトキ若クハ運送ヲ中止シタル場合ハ保險契約ハ其效力ヲ失フ但運送ノカラサル事由ニ出テタルトキハ此限ニアラス

第五條 分損不擔保ノ條件ヲ以テ保險契約ヲ締結シタルトキハ當會社ハ保險ノ目的カ全損ニ歸シタルカ又ハ保險ノ目的ノ運送用具カ脱線、顛覆、坐礁、衝突、沈没、火災ノ危險ニ遭遇シタルトキニ限り之ニ近因シタル損害ヲ填補スヘシ

第六條 分損擔保ノ條件ヲ以テ保險契約ヲ締結シタルトキハ當會社ハ第五條ニ記載セル損害ヲ填補スルノ外運送用具カ脱線、顛覆、坐礁、衝突、沈没、火災以外ノ偶然ナル事故ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル分損ヲモ填補スヘシ但其損害カ生絲、織物、洋絲、小間物類、箱物類其他高價商品ニ付キテハ一個毎ニ米穀類、酒、油、砂糖、肥料其他通常商品ニ付キテハ荷印毎ニ保險價額ノ百分ノ四ニ達シタルトキニ限り之ヲ填補スルモノトス

第七條 分損擔保ノ條件ヲ以テ保險契約ヲ締結シタルトキハ保險ノ目的ハ鐵道ニアリテハ必ス有蓋貨車、馬船舟ニアリテハ防水布ヲ以テ完全ナル被覆設備アルモノニ積載スヘシ若シ之ニ反シタルトキハ當會社ハ分損不擔保ノ契約條件ニ依リ責任スヘキ損害ニ限り之ヲ填補スル

モノトス但保險契約者又ハ被保險者ノ責任ニ歸スヘカラサル事由ニ出テタルトキハ此限ニアラス

第八條 保險契約ハ左ノ場合ニ於テ無効トス

- 一 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキ
- 一 保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ保險契約者又ハ其他ノ者ト他ノ保險者トノ間ニ締結シタル保險契約カ存在スルコトヲ知リテ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ
- 一 他人ノ爲ニ保險契約ヲ締結スル者カ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ

第九條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不買ノ事ヲ告ケタルトキハ當會社カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキノ外當會社ハ契約ノ解除ヲ爲トコトヲ得但シ保險契約ノ時ヨリ五年又ハ當會社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一个月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス

第十條 保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ保險契約ハ其超過額ニ對シ無効トス

第十一條 被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要ス正當ノ事由無クシテ防止ヲ怠リタルカ爲メニ生シタル損害ハ當會社之カ填補ノ責任セズ



損害防止ノ費用ハ他ノ損害ト合算シ當會社之ヲ填補スヘシ

第十二條 保險ノ目的カ當會社ノ擔保シタル危險ニ因リ損害ヲ被ムリタル場合ニ於テ被保險者カ之ヲ知リタルトキハ遲滯無ク最寄ノ當會社本支店出張所又ハ代理店ニ通知シ之カ立會検査ヲ受ケ其證明書ヲ以テ損害填補ノ請求ヲ爲スヘシ

被保險者カ正當ノ事由無クシテ前項ノ手續ヲ怠リタルトキ又ハ保險ノ目的カ到達地ニ着シタル後十五日以内ニ最寄ノ當會社本支店出張所又ハ代理店へ損害検査ノ申出無キトキハ當會社ハ其損害ヲ填補スルノ責ニ任セス

第十三條 當會社ハ被保險者カ前條ノ手續ヲ完了シタル日ヨリ三十日以内ニ損害ヲ填補スヘシ但當會社カ此期間内ニ必要ナル調査ヲ行フコト能ハサリシトキハ此限ニアラス

第十四條 當會社カ填補スヘキ金額ハ何等ノ場合タルヲ問ハス保險金額ヲ以テ限度トス但保險金額カ保險價額ニ超過セル場合ニ於テハ其保險價額ヲ以テ限度トス

第十五條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ著シク變更又ハ増加シタルトキハ當會社ハ既ニ責任ノ經過セル日數又ハ里程ニ相當スル保險料ヲ取得シ本契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス但將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知得シタルトキハ速ニ之ヲ當會社ニ通知スルコトヲ要ス若シ之ヲ怠リタルトキハ其危險ノ變更又ハ

増加ノ時ヨリ當會社ハ危險擔保ノ責ニ任セス

第十六條 當會社ハ何時ニテモ保險ノ目的ヲ検査スルコトヲ得

保險契約者又ハ被保險者カ正當ノ事由無クシテ前項ノ検査ヲ拒絕シタルトキハ當會社ハ保險契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

第十七條 本契約ニヨリ當會社ノ擔保責任カ始マル以前ニ於テハ保險契約者ハ本契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險料ノ半額ヲ取得スルモノトス

第十八條 保險契約ノ無効、失效又ハ解除ニ際シテハ當會社ハ本證券ニ規定アル場合ノ外保險料ヲ拂戻ササルモノトス但當會社ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルトキハ無効ノ場合ハ全額失效、解除ノ場合ハ其翌日ヨリ日割ヲ以テ計算シタル保險料ヲ拂戻スヘシ

第十九條 當會社ハ被保險者、保險契約者ニ對シ利益ヲ分配スルコトナシ

### 第三 海上貨物普通保險約款(東京海上保險株式會社)

第一條 當會社ノ擔保スル危險ハ沈没、坐礁、膠沙、火災、衝突等凡テ保險貨物ニ損害ヲ及スヘキ各種ノ海上危險トス

第二條 當會社ハ左ニ掲クル損害ヲ填補スルノ責ニ任セス



- 一 一擧暴徒若クハ海賊ヨリ蒙ルル損害
  - 二 襲撃、捕獲、強留、抑止其他宣戰ノ前後有無ヲ問ハス總テ戰爭ヨリ生スル損害
  - 三 被保險者、保險契約者若クハ保險金ヲ受取ルヘキ者又ハ是等ノ者ノ代理人、雇傭人又ハ船長若クハ船員ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因テ生シタル損害
  - 四 保險貨物ノ性質若クハ殺疵其他自然ノ消耗ニ因テ生シタル損害又ハ不可抗力ニ起因セサル破損、毀損、腐敗、變質、變色又ハ荷造荷積ノ不註意ヨリ生シタル損害
  - 五 盜難、鼠喰、蟲喰、鈎傷、雨濡及不可抗力ニ起因セサル漏損、荷包ノ破損、中荷ノ混合ヨリ生シタル損害
  - 六 船舶出帆ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘス若クハ官廳ノ検査ヲ怠リタル場合ノ損害
  - 七 密輸出入脱稅等ヲ謀リタルカ爲ニ生シタル損害
  - 八 貨物カ検査ニ因リ又ハ戰時禁制品タルカ爲ニ押收セラレタルニ因リ生シタル損害
- 第三條 保險貨物ヲ積込ムヘキ船舶ハ船名ヲ改ムルモ他ノ船長ヲ使役スルモ妨ナシト雖モ必ス本證券記載ノ船舶ニ限レヘシ
- 第四條 保險ノ責任ハ貨物ヲ本證券記載ノ船舶ニ積込ミタル時ヲ以テ始マリ仕向地ヘ着船貨物ヲ該船舶ヨリ積卸シタル時ヲ以テ終ルモノトス

- 第五條 保險貨物ノ船積其他ノ取扱ニ關シ船舶所有者同清業者其他船長船員ノ過失ニ因リ損害ヲ生スルコトアルモ當會社ハ之ヲ填補スルノ責ニ任セス
- 不可抗力ノ原因ナクシテ相當ノ時間内保險貨物ノ船積又ハ陸揚ヲ爲サルカ爲ニ損害ヲ生スルコトアルモ當會社ハ之ヲ填補スルノ責ニ任セス
- 第六條 保險ノ申込ニ際シ保險貨物ヲ積込ムヘキ船舶ノ名稱未定マラサルカ又ハ知レサル場合ニハ保險契約者又ハ被保險者ハ其貨物ヲ積込ミタルコトヲ知リタルトキハ直ニ船舶ノ名稱ヲ當會社ニ通知スヘシ若シ此通知ヲ怠リタルトキハ本契約ハ其效力ヲ失フ但被保險者カ保險契約ノ取結アルコトヲ知ラサルトキハ此限ニアラス
- 第七條 航海途中ノ港津ニ於テ保險貨物ヲ本證券記載ノ船舶ヨリ他ノ船舶ニ積替ユル場合ニハ豫メ當會社ニ通知シ其承諾ヲ得ルニアラサレハ當會社ハ其貨物ノ本證券記載ノ船舶ヲ離レタル時以後ノ損害ヲ填補スルノ責ニ任セス但其積替カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカヲサル事由ニ因リタルトキハ此限ニアラス
- 第八條 保險貨物ノ全部又ハ一部ヲ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ發航地又ハ寄航地ニ於テ他ノ同等ノ船舶ヲ以テ積送レルトキハ本證券記載ノ船舶以外ノ船舶ヲ以テ運搬セル部分ニ對シテハ豫メ貨物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ト同様ニ看做シ本證券第六條ノ規定ニ準據スヘキモノトス



第九條 保險ノ申込ニ際シ貨物ノ種類數量未詳又ハ豫定ノ場合ニハ被保險者保險契約者又ハ其代理人ハ確定ノ種類數量ヲ知リタルトキハ直ニ當會社ニ通知スヘシ若シ之ヲ怠リタルトキハ本契約ハ其效力ヲ失フ

保險ノ契約ニ際シ貨物ノ種類數量未詳又ハ豫定ノ場合ニハ本證券記載ノ船舶ニ積込ミタル被保險者ニ屬スル總テノ貨物ハ本證券記載ノ金額ニ相當スル額ヲ限リ總テ保險ニ付シアルモノト看做シ本證券記載ノ保險料割合ニ應ジ保險料ヲ徴收スヘシ若シ船舶ノ名稱未詳ナルカ又ハ他ノ船舶ニ分載セルトキ若クハ他ノ船舶ニ積込メルトキモ亦之ニ準ス

第十條 保險ノ申込ニ際シ金額未定又ハ豫定ノ場合ニハ被保險者保險契約者又ハ其代理人ハ確定ノ金額ヲ知リタルトキハ直ニ當會社ニ通知スヘシ

豫定ノ金額カ確定ノ金額ト相違セル場合ニハ當會社ハ其積出港ニ於ケル積出日ノ市場相場其他船積諸掛及保險料ニヨリ保險價額ノ證明ヲサシムルコトアルヘシ

第十一條 本證券第六條ノ場合ニ於テ保險契約者被保險者又ハ其代理人ハ貨物ノ船積ヲ知ラザルコト若クハ貨物ノ船積ヲ知リテ直ニ其通知ヲナシタルコトヲ證明スヘキ責任ヲ負フモノトス

本證券第八條第九條第十條ノ場合ニ於ケル舉證ノ責任ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス  
第十二條 特ニ明約アルニアラサレハ當會社ハ甲板上下ノ危險又ハ船中其他本證券記載ノ船舶以

外ノ危險ヲ擔保セス但積替ヲ承認セル場合ニハ途中積替港ニ於テ他ノ船舶ニ積替ユル間ノ船中危險其他不可抗力ニ起因シ貨物ヲ積替陸揚ノ上再ヒ積込ム場合ノ船中危險ハ此限ニアラス  
第十三條 明約ヲ以テ甲板積ノ危險ヲ擔保セル場合ト雖モ投荷ノ外甲板上ノミニ起リタル損害ハ當會社ニ於テ一切填補ノ責ニ任セス

第十四條 明約ヲ以テ船中ノ危險ヲ擔保セル場合ニハ特ニ之カ填補ノ種類ヲ定メサルトキト雖モ全部ノ損失ノ外填補ノ責ニ任セス但本證券ニ記載セル貨物ヲ數艘ノ船中ニ分チ積込ミタルトキハ一艘毎ニ各別ニ保險ニ付シタルモノト看做ス

第十五條 明約アルニアラサレハ本證券記載ノ保險金額ヲ以テ保險貨物ノ價額ト看做ス  
第十六條 本證券ニ於テ保險金額ヲ明記セルトキト雖モ當會社ハ被保險者サシテ其保險ニ付セル貨物ヲ積込メル證明及積出港ニ於ケル積込當時ノ相場其他仕切狀等ニヨリ其保險價額ヲ證明セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ右手續ヲ盡サ、ル間ハ當會社ハ損失金ノ支拂ヲナサ、ルモノトス

第十七條 當會社カ填補スヘキ金額ハ何等ノ場合タルチ間ハ其保險金額ヲ以テ限リトス但保險金額カ保險價額ニ超過セル場合ニ於テハ其保險價額ヲ以テ限リトス

第十八條 本證券第五條乃至第九條ノ場合ト雖モ當會社ハ保險料ノ金額ヲ請求スル權利ヲ失ハス

第十九條 當會社若クハ被保險者ニ於テ保險貨物ノ救護ヲナスト雖モ之ヲ以テ委棄ノ承諾又ハ



其抛棄ト看做スコトヲ得ス

第二十條 特擔分損ヲ擔保セルトキト雖モ生絲、織物、洋絲其他ノ貴重品ハ每一個ニ付キ米穀類油、醬油、砂糖、肥料其他通常商品ハ每荷印ニ付キ百分ノ四以下及前各種ヲ通シテ一口ノ保險金額百圓ニ滿タサルトキハ一口ニ付キ金四圓以下ノ損害ハ當會社之ヲ填補セス但其損害ノ共同海損ニ屬スルカ又ハ船舶ノ沈没、火災、坐礁、膠沙、衝突ニ近因セルトキハ此限ニアラス

第二十一條 特擔分損不擔保ノ時ト雖モ共同海損ニ屬スル損害又ハ船舶ノ沈没、火災、坐礁、膠沙、衝突ニ近因セル損害ハ當會社之ヲ填補スヘシ

第二十二條 共同海損ハ千八百九十年、ヨーク、アントワープ共同海損規定ニ準據シテ清算セラルルニアラサレハ當會社之ヲ填補セス

第二十三條 同一ノ被保險者ニ屬シ同一ノ荷受人ニ宛テ送付セラル、同種若クハ類似ノ貨物ニシテ一艘ノ船舶ニ積込ミタルモノハ假令之ヲ數口ニ申込ミ數通ノ保險證券ヲ發行セル場合ト雖モ悉皆合算ノ上一通ノ保險證券ヲ以テ擔保シタルモノト看做シ填補ノ責任ヲ定ムヘキモノトス

第二十四條 左ノ場合ニ限リ被保險者ハ保險貨物ヲ當會社ニ委棄シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

一 保險貨物ヲ積込ミタル船舶ノ行方カ左ノ期間内知レサルトキ

一 日本沿海(但千島列島八重山群島臺灣澎湖列島ヲ除ク) 帆船三个月 汽船二个月

一 近海航路 帆船六个月 汽船四个月 一 遠洋航路 帆船九个月 汽船六个月

二 保險貨物ヲ積込ミタル船舶力遭難シ貨物ノ救助見込ナキトキ

三 同上ノ場合ニ於テ貨物ノ原質全部毀損シタルトキ

第二十五條 本證券ニ基キ損害ヲ證明シ之カ填補ヲ請求シタルトキハ當會社ハ其請求アリシ日ヨリ起算シ參拾日ヲ經タル後支拂ヲナスヘシ

追加 一 海上ニ停止又ハ漂流又ハ浮動各種水雷又ハ爆發物又ハ流彈丸ニ起因シタル損害ハ其發生ノ場所如何ニ拘ハラズ當會社其責ニ任セス

### 第四 海上船舶普通保險約款(東京海上保險株式會社)

第一條 當會社ノ負擔スル危險ハ沈没、坐礁、膠沙、火災、衝突等凡テ被保險船舶ニ損害ヲ及スヘキ各種ノ海上危險トス

第二條 當會社ハ左ニ掲グル損害ヲ填補スルノ責ニ任セス

一 一揆、暴徒若クハ海賊ヨリ蒙ル損害

二 襲撃、捕獲、強留、抑止、水雷其他宣戰ノ前後有無ヲ問ハズ總テ戰爭ヨリ生スル損害

三 切迫ナル危險ヲ避クルカ爲メニ非ス又ハ當會社ノ承諾ヲ受ケスシテ尋常ノ航路外又ハ本

附 錄



- 證券記載ノ航路以外ニ出テ又ハ出テントシ若クハ本證券ニ記載セル以外ノ港津ニ寄航セシトシ又ハ寄港シタルトキハ其以後ニ生スル損害
- 四 被保險者保險契約者若クハ保險金ヲ受取ルヘキ者又ハ此等ノ代理人雇傭人又ハ船長船員ノ故意又ハ重大ナル過失ニヨリ生シタル損害
- 五 當會社ノ承諾ナクシテ船舶所有者若クハ船長ニ更替アリ又ハ船舶ノ構造ニ變更アリタル以後ノ損害但航海中事變ノ爲メ假リニ船長ヲ定ムル場合ハ此限ニアラス
- 六 船舶出帆ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘス若クハ官廳ノ検査ヲ怠リタル場合ニ生スル損害
- 七 密輸出入ヲ謀リ又ハ戰時禁制品ヲ積込メルニヨリ若クハ検査ニヨリ生スル損害
- 八 戰時ニ軍用又ハ運送用トシテ使用セラルトキハ其以後ニ生スル損害
- 九 被保險船舶ニ對シ當會社及他ノ保險者ト契約セル總保險金額カ本證券記載ノ保險制限金額ヲ超過スルニ至リタルトキハ其以後ニ生スル損害
- 十 保險料拂込日ニ其拂込期ヲ怠リタルトキハ其期日以後ニ生スル損害
- 第三條 被保險船舶ハ尋常ノ航路中通常寄航スヘキ各港ニ寄航シ若クハ碇泊スルコトヲ得又飲食料其他航海ニ必要ナル物品買入ノ爲メ避難ノ爲メ或ハ救助又ハ救助ヲ受ル爲メ若クハ修繕ノ爲メ航海線内ノ各港ニ寄航シ若クハ碇泊スルコトヲ得ヘシ

- 第四條 保險ノ責任ハ船舶ノ消滅シタルト否トニ拘ハラヌ又船舶カ航海中ナルト碇泊中ナルト入渠中若クハ上架中ナルトト問ハズ本證券ニ記載シタル期限ノ始マリタル時ニ始マリ本證券ニ記載シタル期限ヲ經過シタル時ニ終ルモノトス
- 第五條 期限ヲ定メ契約シタル場合ニ在テハ每航海ヲ個々ニ保險シタルモノトス
- 第六條 一航海ノ危險ヲ擔保セルトキハ當會社ノ責任ハ出帆ノ爲メ本船ノ錨ヲ引上ケ又ハ錨ヲ解キタル時ニ始マリ到達港ニ入航後貳拾四時間ヲ經過シタル時ニ終ルモノトス但貳拾四時間内ト雖モ他ノ航路ニ出航ノ準備ヲナスカ又ハ他ノ航路ニ運搬スヘキ積荷ノ積込ニ着手セルトキハ其時ヲ以テ終ルモノトス
- 第七條 保險契約期間中本船ノ危險若シク變更又ハ増加シタルトキハ被保險者ハ直ニ之ヲ當會社ニ通知スヘシ若シ之カ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ
- 前項ノ通知ヲ得タルトキハ當會社ハ契約ノ解除ヲナスコトヲ得但航海ノ途中遭難セルトキハ船長ノ判斷ニ依リ修繕ヲ施シ得ヘキ最近ノ港迄曳船又ハ其他適當ノ方法ニヨリ航行スル場合ハ此限ニアラス
- 第八條 左ノ場合ニ限リ當會社ハ船舶ノ委棄ヲ受ケ保險金額ノ全部ヲ支拂フヘシ
  - 一 船舶ノ行方カ左ノ期間内知レサルトキ
    - 一 日本沿海(但千島列島八重山群島臺灣澎湖列島ヲ除ク) 帆船三个月 汽船二个月



二 近海航路 帆船六個月 汽船四個月 三 遠洋航路 帆船九個月 汽船六個月

一 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リシトキ  
一 船舶カ沈没坐礁破碎シ全ク救助ノ見込ナキトキ

第九條 救助費假修繕費及本修繕費カ修繕後ニ有スヘキ船價ニ超過スルトキハ其船舶ハ修繕スルコト能ハサルモノト看做ス但遭難ニ直接ノ關係テ有セサル船體機關及船具ノ修繕或ハ改造費用ハ修繕費中ニ算入セス

第十條 船舶カ修繕スルコト能ハサンニ至リタルモノト看做ス場合ニ於テハ本證券ニ記載セル總保險價額ヲ以テ修繕後ニ有スヘキ船價ト看做ス

第十一條 全損ノミノ條件ヲ以テ保險ヲ引受タルヲ以テ共同海損共擔分損單獨海損特擔分損及救助費其他一切ノ費用及損害ヲ擔保セス

第十二條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス若シ之ヲ怠リタルトキハ當會社ハ損害ヲ填補スルノ責ニ任セス

第十三條 保險者若クハ被保險者ニ於テ被保險船舶ノ救護ニ着手スルト雖モ之ヲ以テ棄棄ノ承諾者クハ其拋棄ト看做スルコトヲ得ス

第十四條 當會社カ填補スヘキ金額ハ何等ノ場合タルヲ問ハス保險金額ヲ以テ限度トス  
第十五條 本船遭難ノ場合ニ於テ修繕ノ費用ニ付被保險者ト保險者ト意見ヲ異ニスルトキハ各

專門技師一名ニ全權ヲ委任シ其示談ニ據ルヘキモノトス其委員間ニ尙ホ意見ヲ異ニスルトキハ其委員兩名ノ指名セル第三ノ專門技師ノ判斷ニ服従スヘキモノトス

第十六條 當會社ハ検査員ヲシテ臨時検査ヲ行ハシムルコトアルヘシ臨時検査ノ結果本船不完全ノ箇所アルトキハ直ニ其修繕ヲ求メ又保險不合格ト認ムルトキハ其趣ヲ通知シ保險契約ヲ解除スルコトアルヘシ若シ被保險者カ臨時検査ヲ受ルコトヲ拒ミ又ハ検査員ノ指示セル修繕ヲ行ハサルトキハ當會社ハ一片ノ通知ヲ以テ其以後ニ生スル危險擔保ノ責ニ任セス

第十七條 保險契約期間中保險金額ヲ支拂フヘキ場合ニ於テハ其當時未タ拂込ナキ保險料ト相殺シ其殘額ヲ支拂フヘシ

第十八條 被保險船舶損傷其他異狀ヲ生シタルトキハ其修繕ヲ完了シ當會社ノ指定セル検査員ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ怠リタルトキハ當會社ハ危險擔保ノ責ニ任セス

第十九條 本證券ニ基キ損害ヲ證明シ之カ填補ヲ請求シタルトキハ當會社ハ其請求アリシ日ヨリ起算シ參拾日ヲ經タル後支拂フヘシ

第五 信用普通保險約款(橫濱火災海上運送信用保險株式會社)

第一條 當會社ハ被保險者ノ使用人カ其在職中被保險者ニ對スル竊取詐取橫領ノ行爲ニ因リ被保險者ノ財産上ニ與ヘタル損害ヲ填補ス



第二條 當會社ノ保險契約上ノ責任ハ保險料ヲ領收シタル時ニ始マリ保險契約期間ノ最終日ノ午後四時ヲ以テ終ル

第三條 被保險者カ損害ニ罹リタルトキハ之ヲ知リタル時ヨリ十二時間内ニ書面ヲ以テ之ヲ當會社ニ通知シ且加害者ノ姓名損害ノ種類及金額並ニ被害前後ノ情況及保證人若クハ身元保證品ノ有無金額ヲ記載シタル損害填補ノ請求書ヲ作リ一名ノ保證人ト連署捺印シテ三十日以内ニ之ヲ當會社ニ差出スヘシ當會社ヨリ説明證明等ヲ請求シタル事項ニ就テハ被保險者ハ遲滞ナク正實ニ其説明證明ヲ爲スヘシ

第四條 當會社ハ被保險者カ第三條ノ手續ヲ完了シタル日ヨリ三十日以内ニ保險價額ト保險金額トノ割合如何ニ拘ハラズ保險金額ヲ限リトシテ損害ノ填補ヲ爲スヘシ但當會社ニ於テ此時間内ニ必要ナル取調ヲ終了スルコト能ハサル場合ハ此限ニアラス

第五條 保險契約者又ハ被保險者ニ於テ當會社ノ保險シタル使用人ニ付他ノ保險者ト保險契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ當會社ニ通知スヘシ

第六條 保險契約者又ハ被保險者カ保險申込書及其附屬書記載ノ事項中ニ變更ヲ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ當會社ニ通知スヘシ當會社ニ於テ著シク危険ノ變更増加アリト認メタル場合ニハ保險契約ヲ解除シ又ハ保險料ノ増額ヲ請求スルコトアルヘシ

第七條 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキハ其契約ハ無効トス

第八條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

- 一 當會社カ一度損害ヲ填補シタルトキ又ハ第九條第一號若クハ第三號ニ該當スル事實アリタルトキ
- 二 當會社カ同一被保險者ノ同一使用人ニ付締結シタル他ノ保險契約ニ於テ一度損害ヲ填補シタルトキ又ハ第九條第一號若クハ第三號ニ該當スル事實アリタルトキ
- 三 保險契約者又ハ被保險者カ第五條又ハ第六條ノ通知ヲ怠リタルトキ
- 四 保險申込書中ニ掲ケラレタル使用人カ死亡シタルトキ又ハ被保險者トノ雇傭關係力止ミタルトキ

本條第一號第二號ノ場合ニ於テハ保險契約ハ損害ノ生シタルトキヨリ效力ヲ失フモノトス

- 第九條 左ノ場合ニ於テハ當會社ハ損害填補ノ責任ヲ任セス
- 一 損害カ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタルトキ
- 二 被保險者カ正當ナル理由ナクシテ第三條ノ手續ヲ履行セサルトキ
- 三 被保險者カ詐欺ノ目的ヲ以テ第三條ノ請求書若クハ説明證明中ニ不正ノ表示ヲ爲シタルトキ
- 四 被保險者カ被害事實ヲ知ルニ拘ハラズ之ヲ當會社ニ通知セス加害使用人ト雇傭關係ヲ持



- 續シテ損害ノ生シタルトキ
- 五 損害カ保險契約ノ異同ヲ問ハス當會社ヨリ一度損害ヲ填補サレタル同一被保險者ノ同一使用人ノ行爲ニ因リテ生シタルモノナルトキ
- 六 損害カ第三條ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ起リテ十二個月以内ニ生シタルモノニアラサルトキ
- 七 保險期間ニ生シタル損害ト雖モ被保險者カ保險契約ノ失效解除又ハ保險期間満了ノ後三個月以内ニ填補ノ請求ヲ爲サレトキ
- 第十條 保險契約者又ハ被保險者ニ左ノ事實アリタルトキハ當會社カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リ之ヲ知ラサルトキノ外當會社ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險契約ノ時ヨリ五ヶ年又ハ當會社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一個月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス
- 一 保險契約ノ當時既ニ同一使用人ノ爲メニ被保險者カ第一條ノ損害ヲ受ケタルニ拘ハラズ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ契約申込ノ際其被害事實ヲ被保險者ニ通告セサルトキ
- 二 保險契約ノ當時惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付不實ノ事ヲ告ケタルトキ
- 第十一條 保險契約ノ無効失效又ハ解除ノ場合ニ於テハ既ニ受取リタル保險料ハ之ヲ返還セス
- 第十二條 被保險者カ加害者又ハ他ノ第三者ニ對シテ有スル權利ハ當會社カ支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ當會社ニ移轉スルモノトス被保險者ハ此權利ヲ行フニ必要ナル書面證明等ヲ當會

社ニ交付スヘシ

- 第十三條 被保險者カ當會社ト同時ニ又ハ時ヲ異ニシテ結ハレタル保險契約ノ利益ヲ享クヘキ場合ニハ當會社ハ各被保險者ノ保險金額ノ割合ニ依テ其損害ヲ填補スルモノトス
- 第十四條 被保險者カ加害使用人ニ對シ支拂フヘキ俸給手數料其他ノ債務ヲ有スルトキハ被保險者ハ之ヲ損害額ヨリ控除シテ其填補額ヲ定ムヘシ
- 第十五條 當會社カ填補スヘキ損害額ノ決定ニ付當會社ト被保險者トノ間ニ異議ヲ生シタルトキハ雙方ヨリ一名ツ、評價人ヲ選任シ之ヲ評價セシム評價人ノ意見一致セサルトキハ評價人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選任シ之ヲ判斷セシム此判斷ニ對シテハ雙方異議ヲ主張スルヲ得ス前項ノ評價判斷ニ要スル費用ハ雙方半額ツ、之ヲ負擔ス
- 第十六條 保險契約者及被保險者ハ當會社ノ利益分配ニ與ル權利ナシ
- 第十七條 保險契約ハ期間満了ノトキ保險料ノ支拂ニ依テ之ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニハ保險料領收證ヲ以テ契約ノ繼續ヲ證ス
- 集合保險契約追加條項
- 第十八條 二人以上ノ使用人ニ對シ各別ニ保險契約ヲ爲シ一保險證券ヲ發行シタルトキハ普通保險約款ハ各別ニ適用セラル、モノトス
- 共通保險契約追加條項



第十八條 二人以上ノ使用人ニ對シ保險金ヲ共通トナシ契約ヲ爲シタルトキハ普通保險約款ト共ニ左ノ規定ヲ適用ス但普通約款中本條ニ抵觸スル條項ハ無効トス

一 當會社ハ契約使用人中何人カ被保險者ニ損害ヲ與フルモ保險金額ニ達スル迄其損害ヲ填補ス

二 當會社カ一度損害ヲ填補シ其填補額ヲ保險金額ヨリ控除シ殘額アルトキハ其殘額ヲ以テ殘餘ノ保險期間中ノ保險金額トス

三 契約使用人中被保險者トノ雇傭關係カ止ミタル者アルトキ保險契約者ハ當會社ノ承認シタル被保險者ノ他ノ使用人ヲ以テ之ニ代ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ舊使用人ニ關スル當會社ノ保險契約上ノ責任ハ交代承認ト同時ニ一切解除セラル、モノトス

### 第六 汽罐普通保險約款(第一機關汽罐保險株式會社)

第一條 當會社ハ此約款ニ從ヒ保險證券ニ記載セル汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」ニ因リテ保險ノ目的ニ生シタル損害ヲ填補スルモノトス

第二條 保險契約上當會社ノ責任ハ保險料ヲ領收シタル時ニ始マリ保險期間ノ最終日ノ午後四時ヲ以テ終ルモノトス

第三條 汽罐ノ外ハ特ニ保險證券ニ明記シテ保險ヲナシタルモノニアラサレハ總テ保險ノ目的

ニ包含セサルモノトス

第四條 汽罐ノ「破裂」トハ汽罐カ其内部ニ發生シタル蒸氣ノ壓力ニヨリ俄然急激ニ破裂シテ繼續ノ移動ヲ起スコトアルヲ謂フ

汽罐ノ「壓潰」トハ汽罐内ノ燭筒又ハ火面カ其外側ニ受ケル蒸氣ノ壓力ニヨリ彎曲又ハ壓挫シテ急激ニ抑歪シ鐵板ノ裂開其他種々ノ事柄カ必ズ伴起スルコトアルヲ謂フ

汽罐ノ「腐朽損耗」及ヒ燭筒又ハ火面ノ一部ノ「膨出」ハ汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」ニ含まレサルモノトス

第五條 汽罐ノ「腐朽損耗」トハ左ノ事柄ヲ謂フモノナリ

- 一 漏洩腐蝕又ハ燃料ノ作用及ヒ其他ノ原因ニヨリ汽罐ヲ構成スル材料ノ減損衰頽スルコト
- 一 汽罐ノ使用ニ伴フ普通ノ衰頽
- 一 鐵板實質部ノ壞裂、鉄孔間ノ壞裂、鉄孔ヨリ鐵板ノ縁邊ニ亘ル壞裂等其他汽罐各部ノ壞裂又ハ溝狀形ニ壞裂スルコト
- 一 漏洩裂罅ノ孔穴泡狀凸起鐵板ノ片層態ヲナセルコト及ヒ汽罐ノ「破裂」「壓潰」ニ起因セサル瑕疵

汽罐内ノ燭筒又ハ火面ノ一部ノ膨出トハ罐水低下又ハ湯垢ノ堆積等ニヨリ過熱シテ火局板ノ一部膨出スルコトアルヲ言フナリ

第六條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス



- 一 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキ
  - 二 保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ保險契約者又ハ其他ノ者ト他ノ保險者トノ間ニ締結シタル保險契約カ存在スル場合ニ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ但其事實ヲ知ラサリシ場合ハ此限ニアラス
  - 三 他人ノ爲ニ保險契約ヲ締結スル者カ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ
- 第七條 保險金額カ保險ノ目的ノ價額ニ超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス
- 第八條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ當會社カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキノ外當會社ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險契約ノ時ヨリ五年又ハ當會社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一个月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス
- 第九條 保險契約者又ハ被保險者ニ於テ當會社ノ保險シタル目的ニ付キ重テ他ノ保險契約ヲ締結セントスルトキハ豫メ當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ
- 第三者カ同一ノ目的ニ付キ他ノ保險者ト重テ保險契約ヲ締結シタル事實ヲ知リタルトキハ亦遲滞ナク前項ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 保險ノ目的ヲ他ニ移轉セントスル場合又ハ保險ノ目的若クハ其目的ヲ納レタル建物ヲ改築増築又ハ修繕セントスル場合ニハ豫メ當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

- 第十一條 保險契約者又ハ被保險者カ保險ノ目的ト共ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルトキハ危險ノ増加變更ナキ場合ト雖讓渡人讓受人ヨリ遲滞ナク當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ
- 第十二條 當會社ハ保險契約存續中何時ニテモ會社技師検査員又ハ代理人ヲシテ保險ノ目的ヲ検査シ又ハ試験セシムルコトヲ得此等ノ人ハ又何時タリトモ保險ノ目的ヲ據付ケタル場所ニ立入ルコトヲ得ルモノトス
- 當會社ヨリ特別検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ契約者又ハ被保險者ハ汽罐ノ使用ヲ停止シ其給水ヲ排去シ罐ノ内外ヲ充分掃除シ構造ノ許ス限リ汽罐各部ノ検査ヲナシ得ル様準備スルコトヲ要ス
- 保險ノ目的ノ検査ヲ受クル爲メ保險契約者又ハ被保險者ノ施行セラレタル準備ニ因リ生シタル費用及損害ハ當會社之ヲ負擔セサルモノトス
- 第十三條 第九條乃至第十一條ニヨリ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ請求スヘキ者カ之ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フモノトス
- 第十二條ノ検査ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絕シ又ハ指定ノ準備ヲ怠リタルトキハ當會社ハ保險契約ノ解除ヲ申込ムコトヲ得
- 第九條乃至第十一條ノ承認ヲ請求シタルトキ又ハ第十二條ノ検査ヲ實施シタルトキハ當會社



ニ於テ危険ニ増加變更アリト認メタル場合ニ於テハ汽罐ノ修繕ヲ請求シ若クハ保險契約ヲ解除シ又ハ保險料ノ増加ヲ請求スルコトアルヘシ

保險契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其效力アルモノトス

第十四條 汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」アリタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ四十八時間以内ニ電報及ヒ書面ヲ以テ之ヲ當會社ニ通知シ十五日以内ニ被害ノ狀況調査及ヒ損害見積書ヲ作リ之ヲ當會社ニ差出スヘシ當會社ヨリ説明證明等ヲ請求シタル事項ニ付テハ遲滞ナク正實ニ其説明證明ヲナスヘシ

保險契約者又ハ被保險者カ詐欺ノ目的ヲ以テ前項ノ書類又ハ説明證明中ニ不正ノ表示ヲナシタルトキハ當會社ハ損害填補ノ責ニ任セス

第十五條 前條ノ通知アリタルトキハ當會社ハ直ニ之ヲ調査シ必要アルトキハ一時其目的ヲ保管シ又ハ他ニ移轉スルコトアルヘシ

第十六條 損害ハ通常通貨ヲ以テ填補スルモノトス

但當會社ノ都合ニ依リ現品ノ交付又ハ修繕等ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第十七條 損害ハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ第十四條ノ手續ヲナシタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ填補スルモノトス

但前條但書ノ場合ハ此限ニアラス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ當會社損害填補ノ責ニ任セス

一 保險契約者被保險者又ハ汽罐ノ使用者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リ生シタル損害

二 汽罐破裂又ハ壓潰アリタル時ニ際シ保險ノ目的紛失シ又ハ竊取セラレタルヨリ生シタル損害

三 原因ノ直接ト間接ナルトチ間ハス戰爭暴動其他變亂ニ因リテ生シタル損害

四 原因ノ直接ト間接トチ間ハス地震又ハ噴火ノ爲メニ生シタル損害

五 火災又ハ火藥ノ爆發ノ爲メニ汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」ヲ生シタル場合ノ損害

六 保險契約者又ハ被保險者カ法律命令ニ違反シタルニ因リテ生シタル損害

七 汽罐使用中相當ノ用意ヲナサシテ俄カニ汽機ノ運轉ヲ停止スルカ又ハ製造及ヒ其他ノ

仕事ヲ急激ニ停止スルコトニ因リテ汽罐ニ破裂又ハ壓潰ヲ生シタル場合ノ損害

八 汽罐安全弁上ノ荷重カ汽罐ノ制限ノ汽壓ヲ超過シタル爲メ「破裂」又ハ「壓潰」シタル場合ノ損害

九 汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」アリタル後四十八時間以内ニ當會社ニ通知セザリシ場合ノ損害

但正當ノ理由アル場合ハ此限ニアラス

十 汽罐ノ「破裂」又ハ「壓潰」アリタルトキニ於テ機關及ヒ機械器具ノ使用ヲ休止シ製造又ハ其他

ノ作業ヲ休止シタルヨリ生シタル損害



第十九條 罹災ノ時ニ於ケル保險ノ目的ノ價額カ保險金額ヨリ多キトキハ當會社ハ目的ノ價額ト保險金額トノ割合ニ依リ損害ヲ填補スルモノトス

保險ノ目的貳個以上アルトキハ各個單獨ニ前項ノ割合ニ依ルモノトス

第二十條 罹災ノ當時保險ノ目的ニ付キ當會社ト同時ニ又ハ時ヲ異ニシテ締結シタル他ノ保險契約存在スル場合ニハ當會社ハ各保險者ノ保險金額ノ割合ニ依リ其損害ヲ填補スルモノトス

第二十一條 保險契約ノ無効失效又ハ解除ノ場合ニ於テハ既ニ受取りタル保險料ハ返還セサルモノトス  
但當會社ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルトキハ無効ノ場合ハ全額失效解除ノ場合ハ其翌日ヨリ日割ヲ以テ計算シタル保險料ヲ返還スヘシ

第二十二條 保險ノ目的ノ價額又ハ損害高ニ付キ當會社ト保險契約者若クハ被保險者トノ間ニ異議ヲ生シタルトキハ雙方ヨリ一名ツ、専門技師ヲ選任シ之ヲ評價セシムルモノトス若シ其意見一致セサルトキハ兩人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選任シ之ヲ判斷セシムルモノトス

前項ノ判斷ニ對シテハ異議ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第一項ノ評價判斷ニ要スル費用ハ雙方半額ツ、之ヲ負擔スルモノトス

第二十三條 保險契約者及ヒ被保險者ハ當會社ノ利益分配ニ與ル權利ナキモノトス

第二十四條 保險ノ目的ノ一部ニ付キ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其損害ヲ填補シタルトキハ保

險金額ヨリ之ヲ控除シ其殘額ヲ以テ殘餘保險期間ノ保險金額トス  
前項ノ場合ニ於テ其殘額カ保險金額ノ四割未滿ナルトキハ全部ノ損害ト看做シ保險ノ契約ハ終了スルモノトス

### 第七 機關普通保險約款第一機關汽罐保險株式會社

第一條 當會社ハ此約款ニ從ヒ保險證券ニ記載セル機關ノ「破壞」ニ因リテ保險ノ目的ニ生シタル損害ヲ填補スルモノトス

第二條 保險契約上當會社ノ責任ハ保險料ヲ領收シタル時ニ始マリ保險期間ノ最終日午後四時ヲ以テ終ルモノトス

第三條 機關ノ「破壞」トハ左ニ記載スル如キ機關ノ「主要部分」ニ生シタル現實ノ破損ヲ謂フ  
一 機關ノ使用中直ニ其運轉ヲ停止セサルヘカラサル如キ破損ニシテ之ヲ再ヒ使用センニハ必ス改修ヲ要スヘキ程度ノ破損  
一 機關ヲ運轉スル際ニ生シタル「主要部分」ノ破損ニシテ監督官廳ノ意見ニ基キ直ニ改修ヲ要スルモノト認メタル程度ノ破損

第四條 監督官廳ノ意見ニ基キ近ク危險ノ原因タラスト認メタル各種ノ瑕疵龜裂又ハ「主要部分」ノ破損ハ機關ノ破壞ニ含マレサルモノトス







知ラサリシトキノ外當會社ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險契約ノ時ヨリ五年又ハ當會社  
カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一箇月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス

第十條 保險契約者又ハ被保險者ニ於テ當會社ノ保險シタル目的ニ付キ重テ他ノ保險者ト保險  
契約ヲ締結セントスルトキハ豫メ當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

第三者カ同一ノ目的ニ付キ他ノ保險者ト重テ保險契約ヲ締結シタル事實ヲ知リタルトキモ遲  
滯ナク前項ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 保險ノ目的ヲ他ノ場所ニ移轉セントスル場合又ハ保險ノ目的若クハ其目的ヲ納レタ  
ル建物ヲ改築増築又ハ修繕セントスル場合ニハ豫メ當會社ニ申出テ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ  
受クヘシ

第十二條 保險契約者又ハ被保險者カ保險ノ目的ト共ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡  
シタルトキハ危險ノ増加變更ナキ場合ト雖モ讓渡人讓受人ヨリ遲滯ナク當會社ニ申出テ保險  
證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘシ

第十三條 當會社ハ保險契約存續中何時ニテモ會社技師検査員又ハ代理人ヲシテ保險ノ目的ヲ  
検査又ハ試験セシムルコトヲ得此等ノ人ハ又何時タリトモ保險ノ目的ヲ据付ケタル場所ニ立  
入ルコトヲ得ルモノトス當會社ヨリ特別検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ契約者又ハ被保險者ハ  
機關ノ使用ヲ停止シ「シリンダー」<sup>カ</sup>「蓋」<sup>カ</sup>「バルブ」<sup>カ</sup>「エースト」<sup>カ</sup>「蓋」ヲ開放シ「ピストン」ヲ取出シ其他當會

社技師ノ必要トスル諸準備ヲナスコトヲ要ス

保險ノ目的ノ検査ヲ受ケル爲メ保險契約者又ハ被保險者ノ施行セラレタル準備ニ因リ生シタ  
ル費用及損害ハ當會社之ヲ負擔セサルモノトス

第十四條 第十條乃至第十二條ニヨリ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ請求スヘキ者カ之ヲ怠リタルト  
キハ保險契約ハ其效力ヲ失フモノトス

第十三條ノ検査ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絕シ又ハ指定ノ準備ヲ怠リタルトキハ當會社ハ保險  
契約ノ解除ヲ申込ムコトヲ得

第十條乃至第十二條ノ承認ノ裏書ヲ請求シタルトキ又ハ第十三條ノ検査ヲ實施シタルトキ當  
會社ニ於テ危險ニ増加變更アリト認めタル場合ニ於テハ機關ノ修繕ヲ請求シ若クハ保險契約  
ヲ解除シ又ハ保險料ノ増加ヲ請求スルコトアルヘシ

第十五條 機關ノ破壊アリタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ四十八時間以内ニ電報及ヒ書  
面ヲ以テ之ヲ當會社ニ通知シ十五日以内ニ被害ノ状況調査及ヒ損害見積書ヲ作り之ヲ當會社  
ニ差出スヘシ當會社ヨリ説明證明等ヲ請求シタル事項ニ付テハ遲滯ナク正實ニ其説明證明ヲ  
ナスヘシ

保險契約者又ハ被保險者カ詐欺ノ目的ヲ以テ前項ノ書類又ハ説明證明中ニ不正ノ表示ヲナシ



タルトキハ當會社ハ損害填補ノ責ニ任セス

第十六條 前條ノ通知アリタルトキハ當會社ハ直ニ之ヲ調査シ必要アルトキハ一時其目的ヲ保管シ又ハ他ニ移轉スルコトアルヘシ

第十七條 損害ハ通常通貨ヲ以テ填補スルモノトス

但當會社ノ都合ニヨリ現品ノ交付又ハ修繕等ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第十八條 損害ハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ第十五條ノ手續ヲナシタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ填補スルモノトス

但前條但書ノ場合ハ此限ニアラス

第十九條 左ノ場合ニ於テハ當會社ハ損害填補ノ責ニ任セス

- 一 保險契約者被保險者又ハ機關ノ使用者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 機關ノ破壊アリタル時ニ際シ保險ノ目的紛失シ又ハ竊取セラレタルヨリ生シタル損害
- 三 原因ノ直接ト間接ナルトト間ハス戰爭暴動其他變亂ニ因リテ生シタル損害
- 四 原因ノ直接ト間接ナルトト間ハス地震又ハ噴火ノ爲メニ生シタル損害
- 五 火災又ハ火藥ノ爆發ノ爲メニ機關ノ破壊ヲ生シタル場合ノ損害
- 六 保險契約者又ハ被保險者ヲ法律命令ニ違反シタルニ因リテ生シタル損害
- 七 機關使用中相當ノ用意ヲナサシテ俄然機械類ノ運轉ヲ停止スルウ又ハ製造及ヒ其他ノ

作業ヲ急激ニ停止スルコトニ因リテ機關ニ生シタル損害

八 機關ノ制限回轉數ヲ超過シテ使用シタル爲メ機關ノ破壊ヲ來シタル場合ノ損害

九 汽機ノ場合ニアリテハ「ピストン」面ニ加壓スル制限壓力ヲ超過シテ使用シタル爲メ汽機ノ破壊ヲ來シタル場合ノ損害

十 機關ノ破壊アリタル後四十八時間以内ニ當會社ニ通知セザリシ場合ノ損害  
但正當ノ理由アル場合ハ此限ニアラス

十一 機關ノ破壊アリタルトキ機械類ノ運轉ヲ休止シ又ハ製造及ヒ其他ノ作業ヲ休止シタル爲メ生シタル損害

第二十條 罹災ノ時ニ於ケル保險ノ目的ノ價額カ保險金額ヨリ多キトキハ當會社ハ目的ノ價額ト保險金額トノ割合ニ依リ損害ヲ填補スルモノトス

保險ノ目的二個以上アルトキハ各個單獨ニ前項ノ割合ニ依ルモノトス

第二十一條 罹災ノ當時保險ノ目的ニ付キ當會社ト同時ニ又ハ時ヲ異ニシテ締結シタル他ノ保險契約存在スル場合ニハ當會社ハ各保險者ノ保險金額ノ割合ニ依リ其損害ヲ填補スルモノトス

第二十二條 保險契約ノ無効失効又ハ解除ノ場合ニ於テハ既ニ受取リタル保險料ハ返還セサルモノトス



但當會社ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルトキハ無効ノ場合ハ全額失効解除ノ場合ハ其翌日ヨリ日割チ以テ計算シタル保險料ヲ返還スヘシ

第二十三條 保險ノ目的ノ價額又ハ損害高ニ付キ當會社ト保險契約者若クハ被保險者トノ間ニ異議ヲ生シタルトキハ雙方ヨリ一名ツ、專門技師ヲ選任シ之ヲ評價セシムルモノトス若シ其意見一致セサルトキニ兩人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選任シ之ヲ判斷セシムルモノトス

前項ノ判斷ニ對シテハ異議ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第二十四條 保險契約者及ヒ被保險者ハ當會社ノ利益分配ニ與ル權利ナキモノトス

第二十五條 保險ノ目的ノ一部ニ付キ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其損害ヲ填補シタルトキハ保險金額ヨリ之ヲ控除シ其殘額ヲ以テ殘餘保險期間ノ保險金額トス  
前項ノ場合ニ於テ其殘額カ保險金額ノ四割未滿ナルトキハ全部ノ損害ト看做シ保險契約ハ終了スルモノトス

### 第八 自働車普通保險約款(東京海上保險株式會社)

第一條 當會社ハ偶然ナル事故ニ因リ保險ノ目的タル自働車(自働自轉車ヲモ含ム)ニ付キ生スルコトアルヘキ左ノ損害ニ限り之ヲ填補ス

一 陸上運送(港灣及湖上ヲ除ク)中ノ危險即チ墜落、顛覆其他汽車ノ脱線、衝突、河船ノ顛覆又ハ沈没ニ起因スル損害

二 火災ニ起因スル直接損害(機關ヨリ發火シタル場合ヲモ含ム)

三 盜難、橫領、被保險者ノ直系血族、配偶者、親族若クハ家族カ行ヒタル竊盜ニ因ル損害ヲ除ク)

四 衝突(衝突ヲ受ケタル場合ヲモ含ム)墜落、顛覆ニ起因スル直接ノ損害(但乘員ノ傷害ヲ除ク)

以上毎件實損額金五拾圓ヲ超過スル場合ニ限り其超過額ヲ填補スルモノトス

五 衝突ニ直接起因スル賠償義務ノ損害金額四分ノ三(但保險ノ目的ニ積載セル貨物ニ生シタル損害賠償義務ヲモ含ムト雖モ何レノ場合ニ於テモ人畜ノ損害賠償ハ之ヲ除ク)

第二條 當會社ハ左ニ掲グル損害ヲ填補スル責ニ任セス

一 戰爭又ハ變亂、暴徒、一揆、同盟罷業ニ因テ生シタル損害

二 地震、噴火、雷火、海嘯ニ原因シ又ハ之ニ隨伴シテ起リタル損害

三 保險契約者若クハ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 當會社ノ承認ヲ經タル運轉手又ハ運轉スヘキ人以外ノ人ニ因テ運轉サレタル間ニ生シタル損害(但輪轉停止中ニ生シタル損害ヲ除ク)

五 被保險者所有ノ被保險物(車體、機械及必需ノ常備品)以外ノ動産又ハ不動産ニ生シタル損害

六 特約アル場合ノ外原因ノ如何ニ拘ハラズ、マイヤニ生シタル損害



七 書面ニ依ル當會社ノ承認ヲ經スシテ保險ノ目的ノ用途及其使用ノ地域ヲ變更シタル以後ニ生シタル損害

第三條 被保險者ハ左ノ各項ヲ履行スヘシ若シ之ニ違背シタルトキハ當會社ハ損害填補ノ責ヲ免ルコトヲ得ルモノトス

一 事故發生シタルトキハ被保險者又ハ使用人ハ其損害ノ防止ニ盡力スルコトヲ要ス但防止ニ要シタル費用ハ之ヲ被保險物ノ損害ト看做ス

二 當會社ニ於テ填補スヘキ損害生シタルトキハ被保險者ハ三日以内ニ其日時場所損害ノ狀況及證人タルヘキ者アルトキハ其住所氏名ヲ報告スヘシ又衝突ニ因リ他人ノ財產ニ損害ヲ生シタル爲メ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ關スル書類ト共ニ直ニ之ヲ當會社ニ傳達スヘシ

三 被保險者ハ當會社ノ承諾ヲ經スシテ第三者ニ對スル損害賠償義務ノ全部又ハ一部承認ノ行爲ヲ爲スヘカラス又當會社ハ必要ニ應ジ被保險者ト協議シテ賠償事件ヲ處理スルコトアルヘシ

四 事故發生シ保險ノ目的ノ修繕ヲ要スル場合ニハ被保險者ハ必要ナル應急ノ假手當テ施ス外本修繕ニ就テハ適當ナル當業者ヲシテ明細ナル見積書ヲ差出サシメ當會社ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス但修繕所迄自方ヲ以テ運轉シ能ハサル保險ノ目的ヲ運搬スル費用ハ修繕費ノ一

部ト看做ス

五 賠償問題ニ付キ訴訟ヲ提起セラレタルトキハ其應訴行爲ニ付テハ必ス當會社ノ承認ヲ經ルヘシ

第四條 本證券ヲ以テ擔保シタル危險發生シ保險ノ目的ノ修繕費カ證券ニ記載セル保險價額ノ四分ノ三以上ニ達シタル場合ニ限リ被保險者カ其事實ヲ知リタルトキヨリ三十日以内ニ請求スルトキハ全損ト看做シ保險ノ目的車體機械「マイヤ」及附屬品ノ安全ヲ含ムニ關スル一切ノ權利ヲ當會社ヘ移轉セシメタル上當會社ノ保險金全額ノ支拂ヲ爲スヘシ但被保險者カ修繕費ヲ受領シタルトキハ前項ノ請求權ヲ失フモノトス

第五條 保險ノ目的ノ修繕ハ事故發生前ノ狀態ニ復スルヲ以テ本證券ニ依ル損害填補ノ限度トシ修繕施行上止ムコトヲ得スシテ新調シタル分ノ修繕費ニ對シテハ新製後使用一箇年以上ノモノニ限リ新舊交換費トシテ其修繕費ノ三分ノ一ヲ控除スルモノトス

第六條 當會社カ填補スヘキ金額ハ損害ノ防止修繕其他何等ノ名義タルヲ問ハス之ヲ合算シ保險金額ヲ以テ限度トス但保險金額カ保險價額ニ超過セル場合ニ於テハ其保險價額ヲ以テ限度トス

第七條 保險金額カ保險價額以内ノ場合ニハ當會社カ損害ニ對シ填補スル割合ハ保險價額ト保險金額トノ比例ニ準據スルモノトス



第八條 被保險者ハ保險ノ目的ニ付キ常ニ適當ナル掃除及修繕ヲ加ヘ又必要ナル用具ヲ完備シ安全ニ運轉シ得ル状態ニ在ラシムルコトニ注意スヘシ又其運轉手ニシテ不適任ナル事情アルトキハ運滯無ク之ヲ變更スヘシ

當會社ハ保險契約存續中何時ニテモ保險ノ目的ヲ検査スルコトヲ得ルモノトス

第九條 被保險者カ前條ノ義務ニ違背シタル場合ニハ期間中ト雖モ當會社ハ或期間前ノ豫告ヲ以テ本契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ但其解除前ニ生シタル雙方ノ權利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホサルハ勿論既ニ支拂セタル解除後ノ未經過保險料ハ日割ヲ以テ之ヲ返還スルモノトス

第十條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス

- 一 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキ
- 二 保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ保險契約者又其他ノ者ト他ノ保險者トノ間ニ締結シタル保險契約カ存在スルコトヲ知リテ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ
- 三 他人ノ爲メニ保險契約ヲ締結スル者カ其旨ヲ保險申込書ニ明記シテ當會社ニ申出テサルトキ

第十一條 當會社カ本證券ニ依リ損害金ノ填補ヲ爲シタルトキハ保險金額ヨリ之ヲ控除シ其殘額ヲ以テ殘餘ノ契約期間ノ保險金額トス

第十二條 被保險者カ本證券ニ依リ損害ノ填補ヲ受ケントスルトキハ其損害金額ヲ證明スヘキ

書類ヲ派ヘ請求書ヲ當會社ヘ提出スヘシ

當會社ハ被保險者カ前項ノ手續ヲ完了シタルトキヨリ三十日以内ニ保險金ノ支拂ヲ爲スヘシ但當會社ニ於テ本條ノ期間内ニ必要ナル取調ヲ終了スルコト能ハサルトキハ此限ニアラス

第十三條 保險契約者又ハ被保險者ハ當會社ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ヲ有セス

### 第九 生命保險(死亡保險及ヒ混合保險)模範普通保險約款

#### (生命保險會社協會)

第一條 會社ノ保險契約上ノ責任ハ保險契約者カ會社ノ通知ニ依リ第一回保險料ヲ拂込ミタル時ニ始マル

第二條 保險料ハ保險期間中若シ特ニ保險料拂込期間ヲ定メタルトキハ其期間中第一回保險料拂込ノ時ヨリ起算シ一箇年度分ヲ各年度ノ始マテニ拂込ムヘシ但被保險者カ死亡シタルトキハ次年度以後ハ之ヲ拂込ムコトヲ要セス

一箇年度分ノ保險料ヲ分割シテ拂込ム場合ニハ其分割期間ノ保險料ヲ各期間ノ始マテニ拂込ムヘシ但保險契約消滅ノ事由發生シタル場合ニ於テ其保險年度ノ保險料ニ未拂込分アルトキハ一時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第三條 保險料ハ會社ノ本店支店又ハ會社ノ指定スル場所ニ於テ拂込ムヘシ



第四條 保險料拂込期日後一箇月ヲ猶豫期間トシ此期間内ハ保險料ニ一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムヘシ

保險料ヲ拂込マスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第五條 第一回保險料拂込ノ時ヨリ一年内ニ被保險者カ職業ヲ變更シ又ハ外國ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ遲滞ナク之ヲ會社ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險カ著シク増加スト認メタルトキハ會社ハ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ又ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者又ハ被保險者カ第一項ノ通知ヲ爲サス又ハ會社カ特別保險料ヲ請求シタル場合ニ於テ二週間内ニ之ヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六條 保險金ハ被保險者カ死亡シタルトキ又ハ保險期間満了ノ日マテ生存シタルトキ之ヲ支拂フヘシ

第七條 被保險者カ死亡シタルトキハ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ遲滞ナク之ヲ會社ノ本店ニ通知シ且被保險者ノ死亡後二箇月内ニ左ノ書類ヲ提出シテ保險金ヲ請求スヘシ

一 醫師ノ診斷書又ハ檢案書

二 被保險者ノ戶籍謄本

前項第一號書類ニハ會社ノ定メタル事項ヲ記載スヘシ但之ヲ記載スルコト能ハサル正當ノ理

由アル場合ハ此限ニ在ラス

會社ハ第一項ノ書類ノ外特ニ必要ナリト認メタル書類ヲ請求スルコトヲ得

第八條 保險期間力満了シタルトキハ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ戶籍抄本ヲ提出シテ保險金ヲ請求スヘシ

第九條 保險金ハ前二條ノ書類カ會社ノ本店ニ到達シタル後一箇月内ニ之ヲ支拂フヘシ但會社ニ於テ調査ノ爲メ特ニ時日ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 會社ニ於テ保險金ヲ支拂フヘキモノト認メタルトキハ第七條又ハ第八條ノ規定ニ拘ハラス之ヲ支拂フヘシ

第十一條 保險契約ニ關シ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキハ保險契約ハ無効トシ既ニ拂込ミタル保險料ハ之ヲ返還セス

第十二條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ會社ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但第一回保險料拂込ノ時ヨリ五年又ハ會社カ解除ノ原因ヲ知りタル時ヨリ一箇月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

保險申込ノ後第一回保險料拂込以前ニ被保險者ノ身體ニ異常ヲ生シ其他重要ナル事項ニ付キ異動ヲ生シタルトモ之ニ關シ會社ノ承諾ヲ得スシテ第一回保險料ヲ拂込ミタルトキ亦前項ニ同シ



第十三條 左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺シタルトキ但第一回保險料拂込ノ時又ハ保險契約復活ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス
  - 二 被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ但會社ニ於テ保險金ヲ支拂フヘキモノト認メタルトキハ此限ニ在ラス
  - 三 被保險者カ決闘其他ノ犯罪若クハ死刑ノ執行ニ因リ又ハ一年以上ノ禁錮若クハ懲役ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ死亡シタルトキ
  - 四 保險金ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニハ會社ハ其殘額ヲ支拂フヘシ
  - 五 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ
  - 六 被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ但豫メ特別保險料ヲ拂込ミタルトキハ此限ニ在ラス
- 第十四條 保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齢ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニ依リ處分ス
- 一 實際ノ年齢カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ掲ケタル年齢ノ範圍外ナリシトキハ保險契約ハ無効トシ既ニ拂込ミタル保險料ヲ保險契約者ニ拂戻スヘシ

二 錯誤ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ多カリシトキハ保險料ノ差額ヲ保險契約者ニ拂戻シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ

三 錯誤ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ少カリシトキハ保險料ノ不足額ニ一箇年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ保險金支拂ノ時期到達以前ニ此手續ヲ爲サレシトキハ保險料不足額ノ割合ヲ以テ保險金額ヲ削減スヘシ

第十五條 第四條第二項ニ依リ保險契約カ效力ヲ失ヒタル後一年內ハ被保險者ノ身體ニ異常ナキコトヲ證明スル書類ヲ提出シテ契約ノ復活ヲ請求スルトキハ會社ハ延滞保險料ヲ領收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十一條及ヒ第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 保險契約者又ハ其承繼人ハ何時ニテモ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ保險金ヲ受取ルヘキ者ヲ指定若クハ變更シ又ハ第十七條ニ定ムル貸金ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條 保險契約者ノ請求アルトキハ會社ハ保險契約ニ對シ第十八條ニ定ムル拂戻金額ノ十分ノ九ノ範圍內ニ於テ貸金ヲ爲スヘシ但一口五拾圓ニ滿タサルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ貸金アル場合ニ於テ保險契約消滅ノ事由發生シタルトキハ會社ハ支拂フヘキ金額ノ内ヲ以テ貸金及ヒ利息ノ辨濟ニ充當シ其殘額ヲ支拂フヘシ

第十八條 保險契約ノ解除失効又ハ會社カ保險金ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニハ當該保險年度



末ニ於ケル責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ保險金額ノ百分ノ五ヲ超過セサル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ拂戻スヘシ但第十三條第五號ノ場合ハ此限ニ在ラス  
拂戻金額ノ例別表ノ如シ

第十九條 保險金又ハ拂戻金ハ會社ノ本店又ハ支店ニ於テ保險證券ト引換ニテ之ヲ支拂フヘシ但正當ノ理由アルトキハ保險證券ヲ提出スルコトヲ要セス

第二十條 保險料拂込猶豫期間内ニ被保險者カ死亡シタルトキハ延滞保險料及ヒ遲延利子ヲ保險金ヨリ控除シ其殘額ヲ支拂フヘシ保險料分割拂ノ場合ニ於テ其年度ノ未拂保險料ニ付テ亦同シ

第二十一條 保險契約ニ因ル權利ノ讓渡保險金ヲ受取ルヘキ者ノ指定又ハ變更ハ被保險者ノ同意書ヲ添ヘテ之ヲ會社ニ通知シ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クルコトヲ要ス

第二十二條 保險證券ノ書換又ハ再交付ハ金參拾錢裏書ハ金拾錢ノ手数料ヲ領收スヘシ  
第二十三條 保險契約者被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ特約アルニ非サレハ會社ノ利益ノ分配ニ與カル權利ヲ有セス

右ニ掲ケタル模範普通保險約款ハ生命保險會社協會ノ編成ニ係ルモノニシテ多數ノ生命保險會社ハ之ヲ標準トシ多少ノ變更増減ヲ加ヘテ其普通保險約款ヲ定ムルカ故ニ本書ニハ此模範約款ヲ掲載スルニ止メヨリ

### 第十 生存保險普通保險約款(日本教育生命保險株式會社)

第一條 本社ノ營業保險種類ハ教育結婚資金保險トス

第二條 教育結婚資金保險ハ拾五歳未満ノ被保險者カ一定ノ年齢ニ達シタル時ニ保險金ヲ支拂フモノナリ

第三條 保險契約者ハ保險申込書ニ所要ノ事項ヲ記入シ署名又ハ記名捺印シ且ツ此約款ニ伴フ保險料表ニ本キ所要保險料ヲ本店又ハ支店又ハ出張所若クハ代理店ニ拂込ムコトヲ要ス會社此申込ヲ承認スレハ保險契約成立シ會社ハ因テ保險契約上ノ責任ヲ負ヒ且ツ保險證券ヲ發行スヘシ

第四條 保險契約者ハ第二回以後ノ保險料ヲ本社ノ指定セル場所ニ拂込ムコトヲ要ス

第五條 被保險者滿期ノ年齢ニ達シタル時ハ會社ハ保險金ヲ保險契約者ニ支拂フヘシ  
保險契約者ハ被保險者ノ滿期以前ニ保險金受取人トシテ自己以外ノ第三者ヲ指定スルコトヲ得亦一旦定メタル保險金受取人ヲ變更スルコトヲ得但シ此指定變更ハ遲滞ナク之ヲ會社ニ通知スルコトヲ要ス

右ノ通知アリタル場合ハ會社ハ保險金ヲ其保險金受取人ニ支拂フモノトス  
第六條 保險金支拂ノ事由發生シタル時ハ保險金ヲ受取ルヘキ權利アル者ハ被保險者ノ滿期ノ

附 錄



際ニ於ケル生存ヲ證明スヘキ戸籍謄本又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル官公文书ヲ保險證券ニ添付シテ保險金ヲ請求スヘキモノトス本社ハ運滞ナク保險金ヲ支拂フヘシ

第七條 被保險者カ満期ノ年齢ニ達セスシテ死亡シタル時ハ會社ハ既ニ拂込ミタル總保險料ノ全部ヲ死亡償還金トシテ保險契約者ニ支拂フヘシ但シ此場合ニ於テ契約者ハ被保險者ノ死亡ヲ證明スヘキ戸籍謄本又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル官公文书ヲ保險證券ニ添付シテ償還金ヲ請求スヘキモノトス

第八條 保險契約者ハ何時ニテモ解約ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ハ既ニ拂込ミタル保險料ノ三分ノ一ヲ解約別戻金トシテ契約者ニ支拂フヘシ但シ拂込ミタル保險料滿壹ケ年分ニ滿タサル時ハ此別戻金ヲ爲スコト能ハス  
若シ契約者カ一時拂保險料ヲ拂込ミ又ハ保險料拂込期間ノ二分ノ一以上拂込ミタル後ニ解約ノ請求ヲナシタル時ハ既拂込保險料ノ六割ヲ別戻スヘシ但シ保險期間満了前二ケ年内ニ於テ解約ノ請求ヲナシタル時ハ既拂込保險料ノ九割ヲ別戻スヘシ

第九條 保險契約者カ保險料ヲ拂込ミタル時ハ本店支店及出張所ニアリテハ本社印若クハ支店印若クハ出張所印ヲ捺シ社長若クハ取締役若クハ主任者ノ記名捺印シタル請取證ヲ差出スヘシ代理店ニ於テハ代理店主務者ノ名ヲ以テ請取證ヲ差出スヘシ

第十條 保險契約者カ保險證券ニ記載シタル保險料拂込期日ヨリ保險料ヲ延滞スルコト壹ケ月

以上ニ及フ時ハ延滞保險料ニ壹日ニツキ壹萬分ノ率ノ延滞利子ヲ添ユルコトヲ要ス

第十一條 保險契約者カ保險證券ニ記載シタル保險料拂込期日ヨリ延滞スルコト六ヶ月以上ニ及フ時ハ契約ヲ解除シタルモノトシ保險契約ハ其效力ヲ失フ此場合ニ於テハ契約者カ任意ニ解約ヲ請求シタル時ト同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十二條 前條ノ規定ニ由リ保險契約カ效力ヲ失ヒタル後契約者カ契約ノ復活ヲ希望スル時ハ失效後貳ヶ月内ニ限リ延滞保險料ニ復活手数料ヲ添ヘテ請求スルコトヲ要ス會社ハ其申込ニ應ジテ復活ノ手續ヲ爲スヘシ復活手数料ハ保險金ノ百分ノ一以下トス

第十三條 保險金償還金又ハ割戻金ハ其請求權發生ノ時ヨリ貳ケ年内ニ請求アルコトヲ要ス此期間ヲ空過スル時ハ法律ノ規定ニ由リ請求權ノ消滅ヲ來スヘシ

第十四條 保險契約者ノ變更其他保險證券ニ記載シタル事項ノ變更訂正ハ之ヲ會社ニ通知シ保險證券ノ書換又ハ訂正ヲ受クルコトヲ要ス此場合ニハ再交付手数料トシテ證書壹枚ニ付金參拾錢訂正手数料トシテ金拾錢ヲ申受クルモノトス

第十五條 被保險者年齢ノ計算ハ六ヶ月ヲ以テ分界トス即チ生後六ヶ月迄ヲ零歳トシ七ヶ月以上壹ケ年六ヶ月迄ヲ壹歳トシ壹ケ年七ヶ月以上貳ケ年六ヶ月迄ヲ貳歳トス以下此例ニ由リ保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齢ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニ由リ處理スヘシ  
一、實際ノ年齢カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ掲ケタル年齢ノ範圍外ナリシ時ハ保險契



約ハ無効トシ既ニ拂込ミタル保険料ノ拾分ノ八ヲ保險契約者ニ拂戻スヘシ

二、實際ノ年齢ニ相當スル保険料カ錯誤ノ年齢ニ相當スル保険料ヨリ少額ナリシ時ハ其差額ノ拾分ノ九ヲ保險契約者ニ拂戻シ且ツ將來保險料ノ拂込ヲ要スルモノアル時ハ之ヲ更正スヘシ但シ此手續ヲ爲サスシテ保險金支拂ノ事由發生シタル時亦同シ

三、實際ノ年齢ニ相當スル保険料カ錯誤ノ年齢ニ相當スル保険料ヨリ多額ナリシ時ハ其不足額ニ壹ケ年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收シ且ツ將來保險料ノ拂込ヲ要スルモノアル時ハ之ヲ更正スヘシ但シ此手續ヲ爲サスシテ保險金支拂ノ事由發生シタル時ハ保險料ノ不足額ノ割合ニ應ジテ保險金ヲ削減ス

第十六條 被保險者及契約者ハ何レノ地ニ旅行居住スルモ妨ケナシ但シ契約者轉居ノ際ハ之ヲ本社ニ通知スルコトヲ要ス

第十七條 保險契約者ノ請求アル時ハ會社ハ保險契約ニ對シ第八條ニ規定スル割戻金ノ拾分ノ九ノ範圍ニ於テ低利ノ貸付金ヲ爲スヘシ

前項ノ貸金アル場合ニ於テ保險契約消滅ノ事由發生スル時ハ會社ハ支拂フヘキ金額ノ内ヲ以テ貸付金及利息ノ辨濟ニ充當シ其殘額ヲ支拂フヘシ

第十八條 此保險約款ニ由ル保險契約者被保險者及保險金ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ利益配當ニ

與ル權利ヲ有セサルモノトス

第十九條 保險料表左ノ如シ(略ス)

### 第十一 徵兵保險普通保險約款(日本徵兵生存保險株式會社)

第一條 保險契約ニ關スル當會社ノ責任ハ保險契約者ヨリ第一回保險料ヲ領收シタル時ニ於テ開始ス

第二條 當會社ハ被保險者カ徵兵適齡ニ達シテ徵兵検査ヲ受ケタル結果ニ依リ左ノ規定ニ從テ保險金ノ拂渡又ハ保險料ノ拂戻ヲ爲スモノトス徵兵適齡ニ達シテ一年志願兵志願ヲ爲シ學術試驗ニ合格セザリシ者カ第二號及ヒ第八號ヲ除キタル各號ノ一ニ該當スル場合亦同シ

- 一 實役在營期間二年以上ノ現役入營者 保險金ノ全額
- 二 一年志願兵入營者 保險金ノ拾分八
- 三 實役在營期間二年未滿ノ現役入營者 保險金ノ拾分八
- 四 普通現役兵志願入營者 既拂保險料全額
- 五 六週間現役兵入營者 同上
- 六 補充兵(教育召集ノ爲メ入營シタル者ヲ含ム) 同上
- 七 不當該不合格其他ノ理由ニ依リ現役ニ徵集セラレサル者 同上

附 錄



八 一年志願兵不合格者

同上

一年志願兵ノ入營日カ徵兵適齡前ナルトキハ既拂保險料全額ヲ拂戻シ其以後ナルトキハ保險期間満了ノ時ヨリ入營日迄保險金ニ年四分ノ割合ニ當ル金額ヲ附加シテ入營ノ後拂渡スヘク若シ入營スルニ至ラザリトキハ保險期間満了ノ時ヨリ入營セサルコトノ確定シタル日迄既拂保險料全額ニ年四分ノ割合ニ當ル金額ヲ附加シテ其確定後遲滞ナク之ヲ拂戻スヘシ  
前項ノ保險金若クハ既拂保險料ヲ受取ラサル内ニ保險契約者カ契約ノ解除ヲ求ムルトキハ既拂保險料全額ヲ拂戻スモノトス

徵兵適齡前ニ徵兵検査ヲ受ケ若クハ徵兵適齡ニ達スルモ徵兵検査ヲ受ケサル者ニシテ第一項第二號ヲ除キタル各號ノ一ニ該當スル場合ニハ既拂保險料全額ノ拂戻ヲ爲スモノトス

第三條 被保險者補充兵ニ當籤シタルトキハ保險契約者ノ希望ニ依リ一年間前條ノ拂戻ヲ猶豫ス

前項猶豫期間内ニ於テ補充ノ爲メ現役ニ徵集セラレ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ入營シタル補充兵ニシテ教育期間ヲ過クルモ尙在營シ且ツ現役ニ轉換シタル證明アルトキハ前條ノ規定ニ準シ保險金ヲ拂渡スヘシ

第四條 此約款ニ於テ現役ト稱スルハ抽籤ニ依テ入營スルモノニ限ル但補充兵ヲ含マズ

第五條 保險料ハ一時拂テ除クノ外其拂込期間中被保險者ノ生存スル場合ニ限リ一年分ヲ各保

險年度ノ始迄ニ當會社ノ本店又ハ其他會社ノ指定シタル場所ニ拂込ムヘキモノトス但會社ノ承諾ヲ得テ一年分ノ保險料ヲ毎半年ノ二期又ハ毎三月ノ四期ニ分割シ各期ノ始迄ニ拂込ヲ爲スコトヲ得

第六條 保險料ヲ毎年拂ト爲シタル場合ニ於テ被保險者カ徵兵適齡前ニ志願入營ヲ爲シタルトキハ爾後ノ保險料ヲ徵收セス

第七條 保險料ノ拂込ハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス但此期間内ハ延滞保險料ニ對シ一日一萬分ノ三ニ當ル利子ヲ徵收ス

第八條 被保險者入營シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ通知シ且ツ二十日以内ニ左ノ書類ヲ差出スヘシ

- 一 保險金請求書
  - 二 市町村役場ノ證明アル現役兵證書ノ寫又ハ一年志願兵認定證書ノ寫
  - 三 被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ノ戸籍謄本
- 第九條 保險金ハ前條ノ書類カ當會社ノ本店ニ達シタル日ヨリ十日以内ニ拂渡スヘシ但調査ノ爲メ特ニ時日ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス
- 第十條 被保險者カ第二條第四號乃至第八號及ヒ同條第二項第三項並ニ第四項ノ場合ニ該當シタルトキハ其旨ヲ通知シ且ツ二十日以内ニ保險料ノ拂戻請求書ヲ差出スヘシ然ルトキハ當會



社ハ十日以内ニ之ヲ拂戻スヘシ

第十一條 被保險者カ契約期間中ニ死亡シタルトキハ其死亡ヲ知リタル時ヨリ二十日以内ニ死亡證明書及被保險者ノ戸籍謄本ヲ差出スヘシ然ルトキハ當會社ハ十日以内ニ既拂保險料ノ全額ヲ拂戻スヘシ

第十二條 此約款ニ於テ既拂保險料ト稱スルハ凡テ一時拂若クハ年拂ノ保險料ニ基キテ計算シタルモノトス

第十三條 保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齢ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ如ク處分ス

一 申込書記載ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ多キトキハ將來ニ於テ拂込ムヘキ保險料ヲ減少ス

二 申込書記載ノ年齢カ實際ノ年齢ヨリ少キトキハ保險料ノ不足額ニ年六分ノ複利ヲ附加シテ拂込マシム

三 第二號ノ場合ニ於テ若シ保險金拂渡ノ時期到達前ニ其手續ヲ爲サ、リシトキハ保險料不足額ノ割合ヲ以テ保險金ヲ削減ス

第十四條 被保險者ノ實際年齢カ保險申込ノ當時當會社保險料表ニ掲ケタル最終ノ年齢ニ超過シタルトキハ保險契約ハ無効トス

第十五條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

一 保險料ヲ猶豫期間内ニ拂込マサルトキ

二 被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第十六條 保險契約ノ效力ヲ失ヒタル後六個月以内ニ契約ノ回復ヲ請求スルトキハ延滞保險料

ニ一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込マシメ之ヲ承諾スヘシ

第十七條 保險契約者又ハ其承繼人ハ何時ニテモ將來ニ向テ契約ヲ解除シ若クハ保險金ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有ス

第十八條 被保險者カ兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡、潛匿若クハ正當ノ事故ナクシテ徴兵検査ヲ受ケサルトキハ當會社ハ保險金拂渡ノ責任ヲキモノトス

第十九條 保險契約ノ無効失效又ハ解除ノ場合ニ於テハ左ノ金額ヲ拂戻スヘシ

一 毎年拂ノ保險料三年以上五年未満ニ相當スル保險料ヲ拂込ミタルモノ

既拂保險料ノ三分一

二 同上ノ保險料五年以上ニ相當スル保險料ヲ拂込ミタルモノ 同 上ノ三分二

第二十條 保險金拂渡ノ責任ナキ場合ニ於テハ既拂保險料ノ三分一ヲ拂戻スヘシ

第二十一條 保險契約失效ノ場合ニ當リ其失效後六十日以内ニ保險契約者カ第十九條ノ拂戻金ヲ受取ラスシテ之ヲ拂濟保險ニ變更セントヲ請求スルトキハ拂戻スヘキ金額ヲ其當時ノ被保險者年齢ニ相當スル一時拂保險料ニ振替ヘ新ニ拂濟保險證券ヲ交付スヘシ但被保險者ノ年



齡カ其當時十五歳五个月以内ノ場合ニ限ル

第二十二條 入替率カ豫定以上ニ増加シタルカ爲メ責任準備金ニ不足ヲ生シ特別責任準備金別途準備金及ヒ法定準備金ヲ以テスルモ容易ニ之ヲ填補シ難キモノト認メタルトキハ主務官廳ノ認可ヲ得テ保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ヲ變更シ之ニ基キ一定ノ率ヲ以テ各契約ノ保險金額ヲ減少スルコトヲ得但此場合ニハ連滞ナク保險契約者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

前項保險金額減少ノ代リニ若シ保險契約者カ會社ノ指定スル保險料ノ増拂ヲ爲サンコトヲ申出ツルトキハ會社ハ之ヲ承諾スヘシ但前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ申出ツルコトヲ要ス

第二十三條 保險金及ヒ拂戻金ハ當會社ノ本店ニ於テ保險證券及ヒ最終ノ保險料領收證ト引換ニ拂渡スモノトス

第二十四條 每事業年度ノ決算ニ於テ生シタル純利益金ノ百分十乃至百分二十ヲ保險契約配當金トシ之ヲ其年度末ニ於ケル責任準備金ニ比例シテ徵兵保險ニ屬スル配當金ト生存保險ニ屬スル配當金トニ分割ス

當會社ニ於テ將來他ノ種類ノ保險ヲ兼營スル場合ニ於テハ該保險契約者ニ對シテモ亦前項ノ保險契約配當金ヲ配當スルコトヲ得

第二十五條 保險契約配當金ハ既拂保險料ニ比例シ一時拂又ハ五年拂ノ場合ト雖モ毎年拂ノ保險料ヲ拂込ミタルモノト看做シテ計算ス前事業年度末迄ニ毎年拂ノ保險料三年以上ニ相當スル額ヲ拂込ミタル各契約ニ對シ毎年定時總會ノ終結後ニ之ヲ配當ス

前事業年度末ト配當時期トノ間ニ消滅シタル契約ニ對シテハ何等ノ配當ヲ爲サス其金額ハ會社ノ所得トス

第二十六條 前條ノ配當金ハ次ニ拂込ムヘキ保險料ト相殺ス但既ニ保險料ノ拂濟後ナルトキハ現金ヲ以テ之ヲ配當ス

第二十七條 拂濟保險ニ變更シタルトキハ之ニ對シテ其變更後ノ利益配當ヲ爲サハルモノトス

第二十八條 被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ利益配當ニ與カル權利ナキモノトス

第二十九條 保險證券ヲ毀損シ又ハ滅失シタルトキハ其書換又ハ再交付ヲ請求スヘシ

第三十條 保險證券ノ書換ハ一通ニ付キ拾錢再交付ハ一通ニ付キ貳拾錢ノ手数料ヲ徵收ス

第十二 普通傷害保險約款(日本傷害保險株式會社)

第一條 當會社ノ保險契約ニ對スル責任ハ當會社カ保險料ヲ領收シタルトキヨリ始マリ保險期間ノ最終日ノ午後四時ヲ以テ終ル

第二條 保險期間ヲ終了前ニ保險契約者カ前ト同額ノ保險料ヲ同一ノ場所ニ拂込ミタルトキハ



保險契約ハ次ノ同一期間ニ對シテ繼續スルモノトス但當會社ニ於テ被保險者ノ身體又ハ職業ノ狀況カ保險契約ノ當時ニ比シテ著シク變化シタリト認ムル場合ニハ契約ノ繼續ヲ承諾セサルコトヲ得

第三條 當會社ハ被保險者カ日常職業ニ從事セル間若クハ歩行休息睡眠其他一切ノ起居動作中偶然ナル外來ノ事變ニ遭遇シ負傷震盪壓迫窒息又ハ激毒藥ノ中毒ニ因リテ身體ノ内外ニ損傷ヲ被リ之カ爲メニ死亡シ又ハ不具癱瘓ト爲リ若クハ職業ニ從事スル能ハサル狀態ニ至レル場合ニ之ニ對シテ契約ニ於テ定メタル保險金額ノ支拂ヲ爲スモノトス  
被保險者カ妊娠產病又ハ傷害治療中ト雖モ前項ノ災害ニ遭ヒタル場合ニハ當會社ハ之ニ對シテ保險金ヲ支拂フヘシ

第四條 被保險者カ前條ニ記載シタル諸般ノ災害ニ遭遇シ身體ノ内外ニ損傷ヲ被リ之カ直接ノ原因ト爲リテ直ニ又ハ六個月以内ニ死亡シタル場合ニハ當會社ハ保險金ノ全額ヲ被保險者ノ相續人ニ拂渡スヘシ  
被保險者カ死ニ至ラサルモ身體上ノ損傷ヲ被リ之カ原因ト爲リテ直ニ又ハ六個月以内ニ不具癱瘓ト爲レル場合ニハ左ノ區別ニ從ヒ保險金額ヲ被保險者ヘ拂渡スヘシ  
一 雙眼ノ視力ヲ失ヒ或ハ雙腕雙手兩脚又ハ兩足ヲ失ヒ若クハ片腕又ハ隻手ト一脚ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ全額

- 二 右腕又ハ左手ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ六十
- 三 一脚又ハ一足ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ五十
- 四 左腕又ハ左手ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ四十
- 五 隻眼ノ視力ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ三十
- 六 右手ノ拇指ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ十五
- 七 左手ノ拇指ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ十
- 八 其他ノ一指ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ五
- 九 足ノ一趾ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ三

腕脚手足指趾ヲ喪ハサルモ全ク其作用ヲ失ヒタルトキハ前項ノ區別ニ從ヒ保險金ヲ拂渡スヘク又其他ノ損傷ヲ受ケタル場合ニハ其結果カ被保險者ノ從業能力ニ影響ヲ及ボス程度ヲ調査シ前項ノ區別ニ準シテ保險金ノ支拂額ヲ決定スヘシ但從業能力喪失ノ程度ヲ定ムルニハ被保險者ノ職業年齡身分男女ノ別等ニ拘ハラズ身體ノ完全ヲ毀損シタル程度ヲ以テ之カ標準ト爲スモノトス

數指趾ヲ失ヒタル場合ニハ各指趾ニ對スル支拂額ヲ合計シ又數種ノ損傷ヲ併セ被リタル場合ニハ各損傷ニ對スル支拂額ヲ合計スルモノトス但其總額カ保險金全額ヲ超過スルヲ得ス  
被保險者カ傷害ニ遭ヒ職業ニ從事スル能ハサル狀態ニ在ル間ハ罹災ノ日ヨリ百五十日ヲ限



トシ治療死亡又ハ不具瘵疾ノ決定セラレ、日マテ治療費トシテ毎日保険金ノ千分ノ二ヲ拂渡スヘシ被保險者カ治療費ヲ受クル間ニ於テ重キテ傷害ヲ被リタルトキハ最後ノ罹災ノ日ヨリ尙百五十日間引續キ前記ノ治療費ヲ受クルコトヲ得但此外尙前四項ノ規定ニ據リ當會社カ保險金ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ其内ヨリ本項ニ據リテ支拂フ所ノ金額ヲ控除シテ拂渡スモノトス故ニ本項ニ據リテ支拂フ金額ニ前四項ニ據リテ支拂フ金額ニ達シ又ハ超過シタルトキハ前四項ニ據ル保險金ヲ支拂ハサルモノトス

被保險者カ數回傷害ヲ被リテ其請求保險金ノ合計カ契約保險金額ヲ超過スルトキハ當會社ハ超過分ノ支拂ヲ爲サス又被害ノ際既ニ存在セル不具瘵疾若クハ被害ノ前後ヲ間ハス發生セル疾病ノ影響ニ因リテ被保險者カ更ニ重大ナル不具瘵疾又ハ死亡ニ陥リタル場合ニハ當會社ハ是等ノ影響ナカリシ場合ノ結果ヲ假定シ之ニ基キテ保險金額ノ決定ヲ爲スヘシ

破保險者カ罹災後六個月ヲ經テ尙治療中ニ在ルトキハ此期間經過ノ前日ニ於ケル醫師ノ診斷ニ基キテ保險金額ヲ決定シ之ヲ支拂フヘシ

第五條 被保險者カ死亡シ其相續人カ當會社ヘ保險金ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク死體檢案書又ハ死亡證明書並ニ相續人ノ戶籍謄本ヲ保險金請求書ニ添エテ差出スヘシ當會社ハ必要ト認メタル場合ニ其他ノ證明書類ヲ要求スルコトヲ得

第六條 被保險者カ不具瘵疾ト爲リタル爲メ當會社ヘ保險金ノ請求ヲ爲サント欲スルトキ

滯ナク不具瘵疾ノ事實程度ヲ證スル醫師ノ診斷書ヲ保險金請求書ニ添エテ差出スヘシ  
第七條 當會社カ前二條ノ書類ヲ受付ケタルトキハ其時ヨリ一週間以内ニ保險金ノ支拂ヲ爲スヘシ但調査ノ爲メ特ニ時日ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラズ

第八條 被保險者カ第四條ノ治療費ヲ受ケント欲スルトキハ遲滯ナク被保險者ノ身體損傷ノ程度ヲ證明スル醫師ノ診斷書ヲ差出シテ之ヲ當會社ニ請求スヘシ  
治療費ノ拂渡ハ治療ノ必要止ミタルトキニ之ヲ爲ス但治療カ一ヶ月以上ニ亘レルトキニハ每一ヶ月ノ終ニ之ヲ拂渡スヘシ

第九條 被保險者カ傷害ニ遭ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ二十四時間以内ニ於テ成ルヘク速ニ死亡又ハ重傷ノ場合ニハ電信又ハ電話ヲ以テ其他ノ場合ニハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ當會社ノ本店又ハ事故ノ發生シタル場所ニ最近キ當會社ノ支店出張店又ハ代理店ヘ通知スヘシ此場合ニ當會社ハ醫師ヲ派遣シテ被保險者ノ身體ヲ檢査スルコトヲ得

第十條 被保險者カ傷害ノ爲メニ當會社ヨリ治療費ヲ受ケツ、アル場合ニ於テ當會社ハ何時ニテモ醫師ヲシテ被保險者ノ身體ヲ診査セシメ必要ナシト認ムル場合ニハ治療費ノ支拂ヲ止ムルコトヲ得  
治療費ヲ受ケタル被保險者ニ對シテハ其支拂ヲ止メタル後ト雖モ當會社ハ何時ニテモ其身體ヲ診査スルコトヲ得



第十二條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス

- 一 被保險者ノ年齢カ保險申込ノ際十年未満又ハ七十年以上ナリシトキ
- 二 被保險者カ保險申込又ハ契約繼續ノ際既ニ精神病ニ罹リ癡癡ノ習癖ヲ有シ又ハ歩行自在ナラサル者ナリシトキ

第十二條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ當會社ハ將來ニ向テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當會社カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ當會社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一ヶ月又ハ契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキヲ以テ消滅スルモノトス

當會社ハ前二項ノ規定ニ因リ傷害發生後ト雖モ契約ノ解除ヲ爲スニトテ得此場合ニハ當會社ハ保險金支拂ヲ責ニ任セス若シ既ニ保險金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ傷害ノ發生カ其告ケ又ハ告ケザリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

- 一 被保險者ノ相續人カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ又ハ被保險者カ故意又ハ重大ナ

ル過失違法反則暴舉泥酔爭鬧若クハ精神病ノ結果ニ因リテ災害ヲ招キタルトキ

二 被保險者又ハ其相續人カ正當ノ理由ナクシテ傷害ニ對スル醫療ヲ怠リ之カ爲メニ被保險者カ死亡又ハ不具瘵疾ニ陥リタルトキ

三 被保險者カ其職業ニ非スシテ騎馬競走自轉車競走自働車競走未開地旅行高山攀登單身舟行ヲ試シ風船飛行機ニ乘リ浴場又ハ游泳池以外ニ於テ游泳中災害ヲ招キ或ハ自己ノ身體ニ對シテ外科的手術ヲ試シ其爲メ傷害ヲ受タルトキ

四 被保險者カ戰爭變亂又ハ地震ノ爲メ死亡又ハ負傷シタルトキ

五 保險契約者被保險者又ハ其相續人カ正當ノ理由ナクシテ第九條ノ通知ヲ怠リ又ハ醫師ノ身體診査ヲ拒ミタルトキ

第十四條 被保險者又ハ其相續人カ正當ノ理由ナクシテ第十條ノ身體診査ヲ拒ミタルトキハ當會社ハ治療費ノ支拂ヲ止メ且當該傷害ニ對シ保險金支拂ノ責ニ任セサルモノトス

第十五條 被保險者カ從來ヨリ傷害ノ危險多キ職業又ハ職務ニ轉シ若クハ從來ノ職業又ハ職務ニ新ナル職業又ハ職務カ加ハリタル場合ニハ遲滞ナク其旨ヲ當會社ヘ通知スヘシ

保險契約者又ハ被保險者カ此通知ヲ怠リタルトキハ當會社ハ傷害ノ發生ニ際シテ保險金支拂ノ責ニ任セサルヘシ當會社カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ一週同以內ニ保險料ノ増加又ハ保險契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得此期日內ニ何等ノ請求ヲモ爲サル場合ニハ職業又ハ職務



ノ變更ヲ認諾シタルモノト見做スヘシ

第十六條 保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ルモ一旦拂込ミタル保險料ハ之ヲ返還セズ當會社ヨリ保險契約ノ解除ヲ請求シタル場合ニ於テハ未経過期間ニ對スル保險料ハ日割ヲ以テ之ヲ返還スヘシ

第十七條 保險契約無効ノ場合ニ於テハ之カ保險契約者又ハ被保險者ノ惡意ニ因ル場合ノ外當會社ハ既ニ受取リタル保險料ヲ返還スヘシ但之カ當會社ノ責ニ任スヘキ事由ニ因ラサルトキハ費用トシテ其三分ノ一ヲ控除スルコトヲ得

第十八條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

一 當會社カ保險契約者ニ對シテ保險料ノ分割拂込ト之ニ關シテ一定ノ猶豫期間ヲ特約シタル場合ニ於テ保險契約者カ保險料ノ拂込ヲ怠リ猶豫期間ヲ経過シタルトキ但此場合ニ於テモ當會社ハ未拂保險料ヲ請求スルノ權利ヲ失フコト無シ

二 被保險者カ當會社ノ負擔セサル事故ニ遭遇シテ死亡シタルトキ但此場合ニ於テハ當會社ハ未経過期間ニ對スル保險料ヲ日割ヲ以テ返還スヘシ

第十九條 保險期間中ニ傷害發生シ當會社カ死亡ノ場合ニ支拂フヘキ保險金額ノ三分ノ一以上ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ保險契約ハ之ヲ以テ終了スルモノトス  
前項保險金ノ支拂額カ三分ノ一二滿タサル場合ニハ殘額ヲ以テ殘餘ノ保險期間ニ對スル保險

金額トス

傷害ニ遭ヒテ一タヒ當會社ヨリ保險金ノ支拂ヲ受ケタル者ハ該傷害ニ關シテハ爾後何等ノ請求ヲモ爲スヲ得サルモノトス

第二十條 不具癩疾其他傷害ノ程度ニ關シ當會社ト被保險者ト意見ヲ異ニシ之カ爲メニ支拂フヘキ保險金額ニ付キ異議ヲ生シタル場合又ハ治療費拂渡ノ停止ニ關シテ異議ヲ生シタル場合ニ於テハ雙方ヨリ一名ツノ鑑定人ヲ選定シ之ヲシテ決定セシムルモノトス鑑定人ノ意見一致セサル場合ニ於テハ鑑定人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選定シ之ヲ判斷セシムルモノトス前項ノ判斷ニ對シテハ雙方異議ヲ主張スルコトヲ得ス又本條ノ鑑定仲裁ニ關シテ要シタル費用ハ雙方半額ツノ負擔スルモノトス

第二十一條 保險契約者被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ當會社ノ利益分配ニ與ル權利ヲシト雖モ三ヶ年以上繼續シテ保險料ヲ拂込ミ且契約後滿三ヶ年以上ヲ経過シタル保險契約者ニ對シテハ保險料ノ割戻ヲ爲スヘシ

第二十二條 保險料ノ割戻ハ每年當會社決算ニ際シ其年度ノ收入保險料並ニ未経過保險料中ヨリ次年度ノ未経過保險料ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ殘額ノ二分ノ一二支拂保險金ノ達セザリシトキ其差額ノ半ヲ一ヶ年以上ノ保險料ヲ拂込ミ且契約後滿一ヶ年以上ヲ経過シタル現在保險契約者ヘ拂込ミタル保險料ノ割合ニ應シテ配當シ之ヲ當會社ニ積立テ置キ三ヶ年以上繼續シ



ヲ保險料ヲ拂込ミ且契約後滿三今年以上ヲ經過シタル者ニ對シテ三今年毎ニ當會社決算後三  
個月以内ニ於テ之ヲ拂渡スモノトス但此計算ハ普通傷害保險ニ對シテ別箇ニ之ヲ行フモノト  
ス

次ノ三今年滿了前ニ當會社ト保險契約ノ關係ヲ止メタル者ニハ既ニ經過シタル年度ニ對スル  
割戻金ヲ拂渡スヘシ三今年ノ期間内ニ保險金ノ支拂ヲ受クヘキ事故發生シタル契約ニ就テハ  
當會社ハ該期間ニ屬スル割戻金ノ支拂ヲ爲サルモノトス

第二十三條 保險證券ノ書換又ハ再交付若クハ當會社決算ニ關スル書類ノ謄本交付ニハ手数料  
トシテ金貳拾錢ヲ申受クヘシ

第二十四條 被保險者又ハ其相續人カ傷害ニ付キ第三者ニ對シテ有スル求償ノ權利ハ當會社ニ  
移轉セサルモノトス

第二十五條 此種類ノ普通傷害保險ニ於テ當會社カ一人ノ被保險者ニ就テ契約シ得ル所ノ保險  
金ノ最高額ハ金 圓ナルヲ以テ若シ被保險者カ當會社ト數箇ノ普通傷害保險契約ヲ締結  
シ其保險金額ノ合計カ此制限額ヲ超エタルトキハ超過分ハ無効ナリトス

### 附 錄 終

### 商法條文索引

條文數	頁	條文數	頁
四五四		三九三	八三、九五、一七九
三六五四		三九四	八三、一五九
二一〇五八		三九五	九六、九七、一七五、二二六
二六四二	三、四八、五四、	三九六	八二、九七、一七三
二七三五〇		三九七	八〇、二一七
二七八一一〇		三九九	八六、九九、二二九
三四五一五八		三九九二	二六、一〇一、一〇九、一〇六、一三八、一三九、二 三五、
三八四三一、七七		三九九三	一〇六、二三五
三八五七七、八二		四〇〇	七九、一一一、一二八、二三八、二五三
三八六八二、八五、八八		四〇一	一五〇、一一一、一九二、三三八、二四七
三八七八二、九〇、二〇五		四〇二	一五二、一九一、二一〇
三八八九〇、九一、二〇五		四〇三	七九、八二、九三、九三、二二二、二二二
三八九九一、二〇五		四〇四	八二、一三一、一三三、一三八
三九〇九二、二〇五		四〇五	九八、一一二、一三四、一三五、一三八、一三九、二 二八、二四〇、二五五、二五六
三九一八六、一八二		四〇六	五二、一一一、一九一、三五、二三八、二三九、二 四七、二五五
三九二一一、一二七		四〇七	九九、一〇〇、一三九、二五六、二五七

商法條文索引



四〇八 七九、九九、一〇〇、一三七、  
 四〇九 九九、一〇〇、一三七、一三九、  
 四一〇 七九、一〇八、一三八、二五三、二五四、二五六、  
 四一一 七九、一〇一、一一二、一二九、一三〇、一三九、二  
 四〇〇、二五三、二五四、二五六、  
 四一二 七九、一〇一、一一二、二〇三、  
 四一三 七九、八二、九六、  
 四一四 一三三、一四四、  
 四一五 八二、一五五、一六六、二二五、一七一、二〇七、  
 四一六 一六六、一七八、一五〇、一七二、二〇七、二〇八  
 四一七 五三、一〇〇、一七八、二三四、二四一、  
 四一八 三一、六五、  
 四一九 一四五、  
 四二〇 一四六、  
 四二一 四八、一四六、一五〇、  
 四二二 九四、一四二、一四四、  
 四二三 八〇、一五三、一五四、一五八、  
 四二四 八四、一五四、一五九、  
 四二五 九四、一五四、一五七、  
 四二六 一五四、一六〇、

四二七 二一、三一、三七、二二一、二二二、  
 四二八 二二〇、二二五、二四三、二四四、  
 四二九 二五二、二四八、二五一、  
 四三〇 二二五、二四八、二四九、  
 四三一 二五二、  
 四三二 二六、二三五、二三六、二五六、  
 四三三 七九、二二一、二二四、  
 四三四 二二六、二二九、  
 四三五 二四〇、  
 四三六 五三、一三四、  
 四三七 三、五〇、五二、五三、六五、二二一、二二六、二  
 四三 八、二二一、二二六、二二八、二二九、二三四、二五  
 四三 六、二四〇、二四一、二四七、二五三、二五五、二五  
 五三九 一六三、  
 五四四 二〇三、二一〇、  
 五六一 一七三、  
 五六二 一七三、  
 五七一 一九九、  
 五八七 一九七、  
 五九一 一七三、

六一三 一九七、  
 六一六 一九七、  
 六三七 一九七、  
 六四二 一七〇、  
 六四三 一七二、  
 六五三 三一、一六一、一六六、一八二、  
 六五四 一六一、一六九、一七五、一八四、  
 六五五 一七一、一七二、  
 六五六 八四、一六二、一七二、一七九、  
 六五七 八四、一六二、一八〇、一八二、  
 六五八 八四、一六二、一六五、一八一、  
 六五九 八〇、一八四、一八五、  
 六六〇 八〇、一八〇、一八四、一八七、  
 六六一 七九、九四、一六五、一六九、  
 六六二 一八八、  
 六六三 七九、一八九、  
 六六四 一九〇、  
 六六五 一九一、  
 六六六 一九二、

六六七 一六二、一六五、一七三、一七五、  
 六六八 一七四、一七五、一七八、  
 六六九 一八一、一八二、  
 六七〇 一八二、  
 六七一 一九七、二〇一、二〇六、  
 六七二 一九九、  
 六七三 一九八、一九九、  
 六七四 四三、一六二、二〇二、  
 六七五 二〇四、二〇六、二〇八、  
 六七六 二〇九、  
 六七七 二〇六、二〇七、  
 六七八 二〇五、二〇六、  
 六七九 二〇九、

商法條文案引



著作權所有

大正十一年十二月二十日  
 大正十一年十一月二十日  
 大正十一年十月二十日  
 大正十一年九月二十日  
 大正十一年八月二十日  
 大正十一年七月二十日  
 大正十一年六月二十日  
 大正十一年五月二十日  
 大正十一年四月二十日  
 大正十一年三月二十日  
 大正十一年二月二十日  
 大正十一年一月二十日

發售所  
 發行所  
 印刷者  
 著作兼

大正十二年十二月廿四日  
 大正十三年十一月廿四日  
 大正十四年十月廿四日  
 大正十五年九月廿四日  
 大正十六年八月廿四日  
 大正十七年七月廿四日  
 大正十八年六月廿四日  
 大正十九年五月廿四日  
 大正二十年四月廿四日  
 大正二十一年三月廿四日  
 大正二十二年二月廿四日

保險法與附  
 正價金參圓五拾錢

東京府荏原郡大井町  
 松本 丞 治  
 東京市麴町區下六番町十七番地  
 松澤 玪 三  
 東京市神田區錦町二丁目二番地  
 中央 大 學  
 東京市神田區一ツ橋通町五番地  
 有 斐 閣  
 東京市神田區中猿樂町一番地  
 巖 松 堂



5113

加那子



~~352~~ 325.4  
118 MA 81  
7



終

